

2022 年度高地・流域研究

# 中国山地高粱川・日野川流域調査報告書

早稲田大学 中谷 礼仁

同大学 HUA YILING (D3)

京都大学 菊地 暁

島根大学 酒井 哲弥

幾央大学 前川 歩

早稲田大学理工学術院 中谷礼仁建築史研究室

吉田 彩華 (M2)

塚原 朋輝 (M1)

二上 匠太郎 (M1)

中谷礼仁建築史研究室編集  
高地ゼミ・千年村ゼミ合同報告書

2022 年 11 月

# 目次

<b>第 1 章 調査概要</b> .....	<b>1</b>
1-1. はじめに .....	1
1-2. 研究背景 BACKGROUND .....	4
1-3. 調査の目的 PURPOSE.....	11
1-4. 調査地の概説 .....	12
1-5. 調査方法 SURVEY METHOD.....	19
1-6. 調査日程 SURVEY SCHEDULES.....	20
1-7. 執筆概要 WRITING OUTLINE .....	21
<b>第 2 章 各地域の報告</b> .....	<b>22</b>
2-1. 井倉 .....	23
2-2. 足見 .....	32
2-3. 新見市中心部 .....	36
2-4. 千屋実 .....	42
2-5. 千屋井原 .....	46
2-6. 千屋花見 .....	51
2-7. 神戸上 .....	58
2-8. 新屋 .....	63
2-9. 根雨 .....	82
2-10. 江尾 .....	87
2-11. 貝田 .....	90
2-12. 溝口 .....	96
2-13. 富吉 .....	98
2-14. 聞き取りカード .....	103
2-15. 流域集落連続断面図 .....	112
<b>第 3 章 考察</b> .....	<b>115</b>
3-1. 水利から見る中国山地 .....	115
3-2. 断面図に基づく日本の高地集落のかたちを見る .....	121
3-3. 建築編高地集落における屋敷構えの特徴と特異性 .....	128
3-4. 日野川中・下流域の調査集落周辺の地質と地形・石材 .....	136
3-5. 高梁川・日野川流域管見 .....	143
<b>第 4 章 結論</b> .....	<b>146</b>
4-1. まとめ .....	146
4-2. 謝辞・ACKNOWLEDGEMENT .....	146

## 第2章 各地域の報告

### 説明

第二章は各地域ごとに概要（HUA YILING）と、集落を成立させているインフラ（塚原朋輝）と集落の様子（二上匠太郎）、集落の代表的な部分の全体断面図（HUA YILING）をまとめた。また各地での聞き取り（吉田彩華）について別に抄録した。

#### ● 集落概要について

集落の概要、人口、面積、平均年齢、地形、間取りなど、集落に関するさまざまな基本情報を、関係する自治体の公式ホームページで公開されているデータを参照してまとめた。

注）大字地図・地質図・傾斜量図と地形図は、国地理地図院から引用した。人口、平均年齢など基本的なデータは新見市・日南町などの公式ホームページから引用した。地域概要については調査時の情報採取と Japan Knowledge Lib を組み合わせしてまとめた。

#### ● インフラについて

※基本引用データ

現在の水道種別：上水道関連施設第 1.1 版（国土数値情報（データ収集年：平成 22 年度）

自然災害：土砂災害警戒区域（国土数値情報令和二年）

#### ● 集落の様子について

【集落構造概要】と【建築】に分けて集落の様子を記述する。【集落構造概要】は交通、集落の平面構造、集落の断面構造の三点から調査内容をまとめる。また【建築】は集落内の家屋の傾向、特定の家屋の詳細な特徴（記述可能の場合のみ）の二点から調査内容をまとめる。以下に詳細な記述項目を整理する。

##### 【集落構造概要】

###### ○交通

- ・外部からのアクセス
- ・内部の交通手段

###### ○集落の平面構造

- ・神社
- ・寺
- ・集落内の墓地の位置
- ・耕地と居住域の配置
- ・公共施設の有無

###### ○集落の断面構造

- ・神社
- ・寺
- ・集落内の墓地の位置
- ・耕地と居住域の配置

##### 【建築】

###### ○住宅（平面→断面の順で説明）

- ・集落内における家屋配置・建築形式の傾向（母屋と付属屋と耕地の関係、建築的特徴（屋根形式、階数、基礎・構造的特徴、外壁・意匠的特徴）

・詳細調査を行った住宅の家屋配置・建築形式（母屋と付属屋と耕地の関係、建築的特徴（屋根形式、階数、基礎・構造的特徴、外壁・意匠的特徴）

【集落断面図】（HUA YILING 作成）

## 2-1. 井倉

### 2-1-1. 地域概要

高梁川蛇形する中流右岸に位置し、西に大坊山がそびえる。集落全体は石灰岩帯に分布して、大字井倉野の下に石灰岩工場がある。集落東方には岡山県観光地井倉洞という天然の鍾乳洞がある。井倉野は標高 410m の台地にあたる。

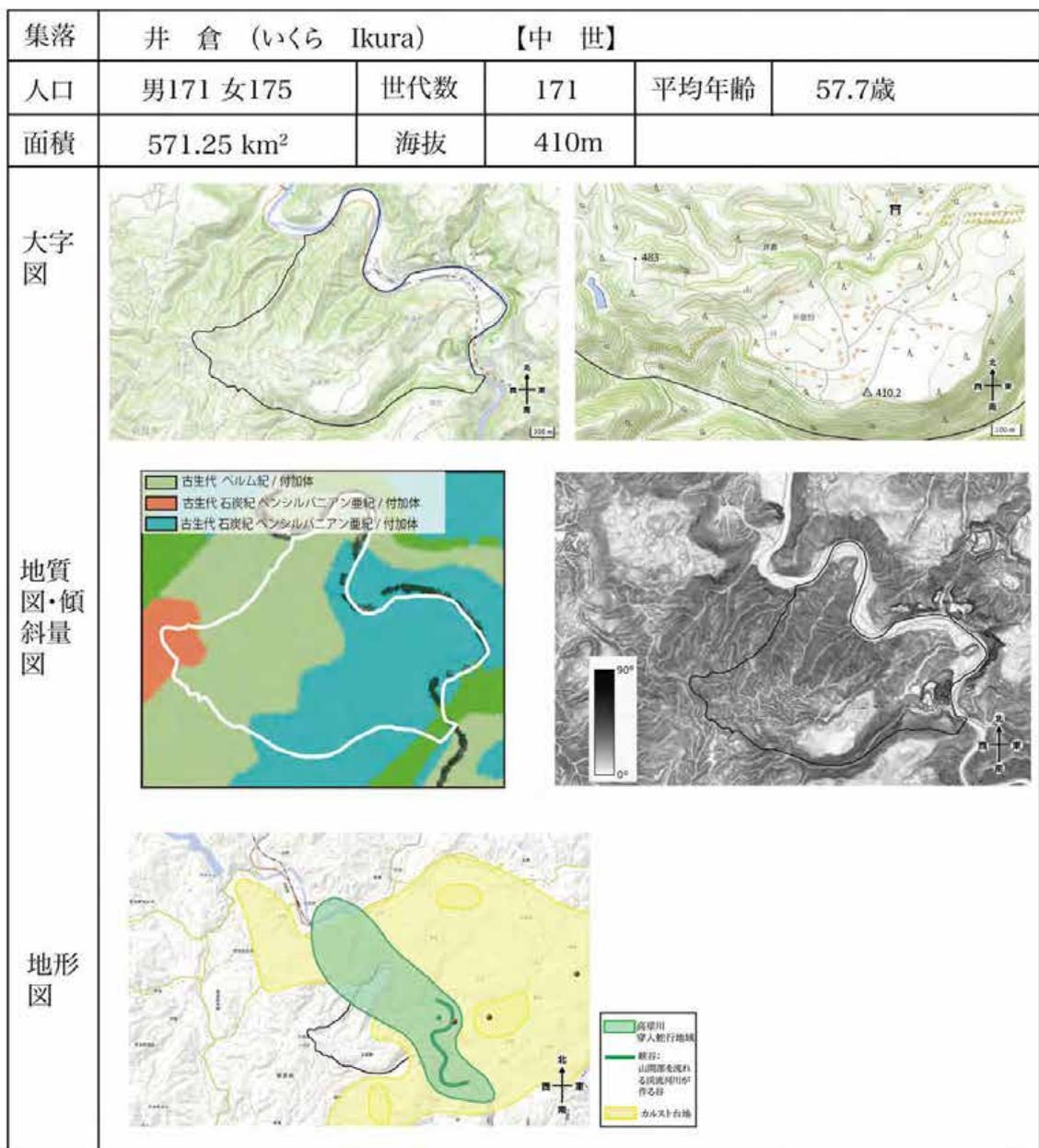


図 2-1 井倉の地域概要カード

## 2-1-2. インフラ

### (地形)

カルスト台地の上に位置している。

### (水利)

#### 飲み水：

(聞き取り)

聞き取り調査を行った山裾に位置する民家はかつて谷水を竹パイプで引いてきて貯水槽にためて使っていた(聞き取りを行った方の祖父の時代)。それが難しい家は天水(雨水)を雨樋などで集めてためて使っていたそう。また、その頃は谷を管理していたようだが現在は管理がなくなり荒れているそう。

→現在でも貯水タンクは満タン。給水方法は谷水を取り込めないで天水によるもの。利用方法は変化し、現在は畑の水やりなど生活用水に使っている。井戸はない。



図 2-2 貯水タンク

#### 灌漑用水：

(聞き取り)

田んぼに使う用水は昭和 32 年(1957 年)くらいに村で作ったため池を水源としている。豊富な水量。



図 2-3 灌漑用水を田に引き込む取水口

現在の水道種別（平成 22 年）：

簡易水道事業（公営）

（自然災害）

なし（聞き取りによる）

### 2-1-3. 集落の様子

【集落構造概要】

○交通

・外部からのアクセス

国道 180 号線を北上し伯備線井倉駅前を通り国道 196 号線にアクセスする道中で、西方の蛇行する山道を登ることでアクセス可能。井倉駅が標高 150M に位置するのに対して、井倉野集落は標高 410.2M に位置している。

・内部の交通手段

大字内における主要な居住域は、標高 410.2M に位置する井倉野でヒアリングにより現在は 10 世帯ほどが暮らしていることが分かった。また、井倉野と比較して標高が約 40M 低い 370M あたりに位置する集落（以下井倉野下）にもヒアリングより 3~4 世帯が暮らしていることが分かった。この二つ居住域は一つの共同体として機能しており、上記の高梁川流域と集落を繋ぐ山道を介して、住人同士が自家用車を用いた交流があることがヒアリングによって明らかになった。

集落内に鉄道などの公共交通機関は通っておらず、調査中に路線バスなどの存在を確認することもなかった。しかし 2022 年 6 月に同集落を対象に敢行した調査において、老人ホームへの送迎と思われるマイクロバスの存在を確認することができた。

○集落の平面構造

・集落内の神社の位置

井倉野に神社はなく、井倉野下の八幡神社を共有していることがヒアリングより分かった。神社は大字の境界に位置するわけではなく、居住域の中心に位置していた。しかし参道には雑草が生い茂っており、現在は頻繁には利用されていないと考えられる。

・集落内の寺の位置

集落内に寺は存在しない。

・集落内の墓地の位置

まとまった墓地はなく、個人所有の墓地が集落内に点在していた。その配置に一貫性はなく、住居の敷地の隣に構えているものと考えられる（図 2-4,5）。



図 2-4 (左) 図 2-5 (右) 井倉集落内に点在する小規模の墓地

・耕地と居住域の配置

井倉野では、ため池の存在から水資源が豊かで一部では水田開発がされていた。しかし集落の主な生産物はブドウ（ピオーネ）で、集落の面積の多くが棚仕立てのブドウ畑となっている。井倉野下においては、水田開発は行われておらず集落内の面積の多くをブドウ畑とその栽培に付随する作物の畑地となっていた。井倉野に関しては、東西を横断する集落主要道路沿いとその南側に集中してブドウ畑が開発されていた。井倉野下に関しても同様に、集落入口の主要道路沿いがブドウ畑として開発されていた。しかし居住域が固まっているわけではなく、斜面地に敷かれた網目状の街路に対して接するようにそれぞれが疎らに立地している。

・公共施設の有無

商業施設などは見られなかった。

○集落の断面構造

・集落内の神社の位置

井倉野下は、北西に向かって急勾配な斜面地となっており神社は、比較的平坦な斜面地の麓に立地している（図 2-6）。



図 2-6 井倉野下の八幡神社

・集落内の寺の位置

集落内に寺は存在しない。

・集落内の墓地の位置

井倉野は道中と比べると全体的に開けてはいるものの、若干のすり鉢状になっておりその斜面を這うように網目状の街路が敷かれている。墓地は集落内にまばらに位置しているため高さ方向での配置意図は感じられなかった。

・耕地と居住域の配置

集落内における主要道路は、すり鉢状の集落の底をはしっているため、ブドウ畑に関しても同様に集落内の低い位置に立地している。しかし居住域が固まっているわけではな

く、斜面地に敷かれた網目状の街路に対して接するようにそれぞれが疎らに立地している。

### 【建築】

○集落内における家屋配置・建築形式の傾向（母屋と付属屋と耕地の関係、建築的特徴（屋根形式、階数、基礎・構造的特徴、外壁・意匠的特徴）

家屋配置の全体の傾向として、大屋根によって一棟にまとめられた母屋の存在は確認できなかった。敷地内における住宅の構成要素は、母屋に加えて蔵と複数の作業小屋と思われる付属屋を持っており、それぞれが一体化することなく近接し配置された分棟型だった。また敷地内に庭や耕地を構える家は少ない。建築的特徴としては、二階建てほどの高さの付属屋の多くが一階天井高あたりに裳階のような四面を一周した屋根を持っていることが確認できた（図 2-7,8,9）。またこの裳階は、母屋や他の付属屋の下屋軒先などと連結することで、一体化することなく近接した母屋付属屋間の空隙に半屋外空間的特性を付与していることが確認できた。



図 2-7（上）図 2-8（左）図 2-9（右） 裳階のような屋根による一階軒下空間  
また石灰岩質な地質なため、石灰岩が多く表土しており耕地や家屋の石垣はすべて石灰岩で積まれていた（図 2-10,11）。



図 2-10 (左) 図 2-11 (右) 石灰岩による石垣

○詳細調査を行った住宅の家屋配置・建築形式（母屋と付属屋と耕地の関係、建築的特徴（屋根形式、階数、基礎・構造的特徴、外壁・意匠的特徴）

本調査では、井倉野下と井倉野で一軒ずつヒアリングを敢行したため、その二件の住宅について詳細な家屋配置と建築的特徴を記述する。

・井倉野下

母屋は入母屋屋根平入りの二階建てで、ヒアリングより七部屋＋台所の間取りであることが分かった。加えて少なくとも築 50 年以上の切妻屋根妻入りの二階建ての土蔵と、入母屋屋根平入りの二階建ての作業小屋、切妻屋根妻入りの二階建てで一階が倉庫、二階が住居空間となった裳階の付属した作業小屋の計三棟の付属屋で構成された分棟型の住宅であった。

配置平面的には母屋の正面である南側立面の手前に土蔵やその他付属屋を構えており、母屋を見せずに蔵が敷地の中心にあることから正面性への意識が希薄であると考えられる（図 2-12）。

またこの住宅は斜面地に立地しているため、配置断面的には母屋を最も高い北側に配置し、3M ほど下がった南側に土蔵を含めた付属屋を配置している。また裳階を持った正面東側の付属屋に関しては、母屋の立地する +3M の GL から二階の住居空間に直接アクセスできるように北側立面の二階部分に入口と橋が架けられていた（図 2-13）。



図 2-12 (左) 蔵を中心に構えた分棟型住宅の南東立面

図 2-13(右) 斜面上側の母屋から作業小屋二階へのアクセス

耕地は、土蔵南側の道路を挟んで南側に構えており茅を栽培していた。これはヒアリングによるとブドウ栽培用の肥料であるという。

・井倉野

切妻屋根平入りの二階建ての母屋（図 2-14）、切妻屋根妻入りの二階建ての土蔵、寄棟屋根平入りの二階建ての建物、寄棟屋根越屋根付き平入りの二階建ての元たばこ乾燥小屋（図 2-15）で現倉庫の計5棟で構成された分棟型の住宅であった。



図 2- 14（左）切妻屋根平入りの二階建ての母屋

図 2- 15（右）元たばこ乾燥小屋

配置平面的には、北側背面に山があり南側に向かって正面を開いて母屋を構えていた。また付属屋は母屋と一体化することなく近接しているが、その空隙を埋めるように樹脂製波板や亜鉛メッキ鋼板製の屋根を増設することで母屋付属屋間に半屋外空間が付与されていた（図 2-16,17,18,19）。



図 2- 16 (左上) 図 2- 17 (右上) 図 2- 18 (左下) 図 2- 19 (右下) 裳階による母屋付  
属屋間の半屋外空間

また配置断面的には、母屋の北側が斜面地になっており約 3Mの擁壁上にたばこ乾燥小屋と墓地を配置している。

耕地は、居住地から徒歩 3 分ほど離れた交差点沿いにブドウ畑を持っていた。

#### 【考察】

平地であれば、母屋が付属屋を流れ屋根で覆った一体型が多く見られるが、井倉のような斜面地に居を構えるにあたっては分棟型が多く見られた。これは一体型の住居を構えるための広く平坦な敷地を斜面地の多い高地集落では確保できないことに起因すると考えられる。一方で井倉野では、分棟型として計画された家屋同士が後に屋根の軒下空間の増設によって接続しなおされる事例が散見された。これは、配置平面的に分解され配置された機能が、生活動線によって配置断面的に再結合した現象であると考えられる。

【集落断面図】

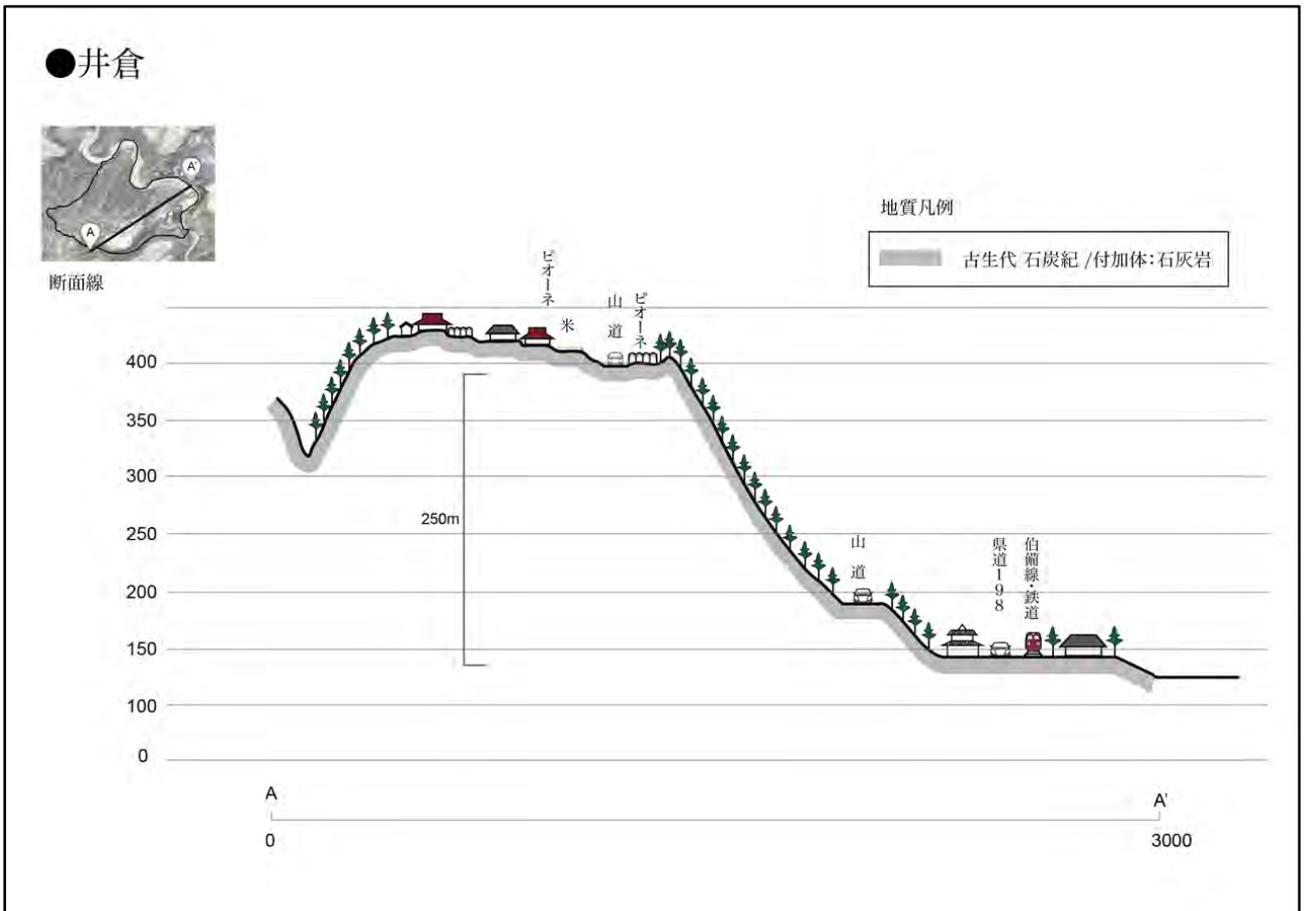


図 2- 20 井倉の断面図

## 2-2. 足見

### 2-2-1. 集落概要

阿哲台北西部、高梁川中流左岸に位置する。阿哲台は地表の石灰岩が侵食から免れて、台地状に残されているものである。集落全体は石灰岩帯に分布して、斜面地に位置。集落全体の傾斜は高くないが、集落下の傾斜は70度近くにもなる。集落の内部は、道路によって東西に分かれている。

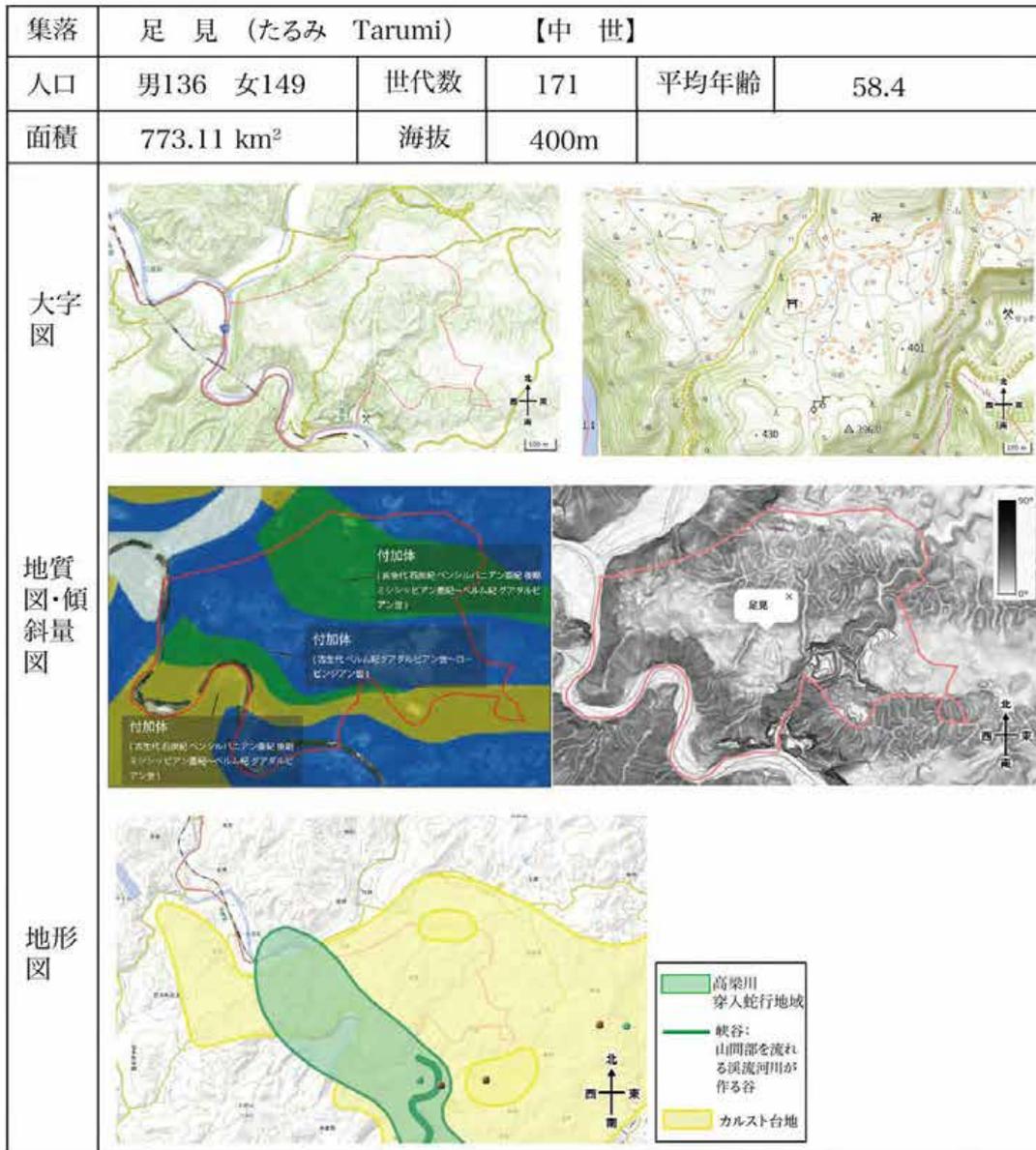


図 2- 21 足見の地域概要カード

### 2-2-2. インフラ

#### (地形)

カルスト台地の上に位置している。

## （水利）

現在の水道種別（平成 22 年）：  
簡易水道事業（公営）

## （自然災害）

### 2-2-3. 集落の様子

#### 【集落構造概要】

##### ○交通

- ・外部からのアクセス

国道 180 号線を北上し高梁川東岸へ渡り県道 474 号線の蛇行する山道を登ることでアクセス可能。高梁川東岸が標高 150M に位置するのに対して、足見集落は標高 400M 付近に位置している。

- ・内部の交通手段

大字内における主要な居住域は、県道 474 号線を境にして東西に分かれており、その両集落に満遍なく暮らしている。この二つ居住域は、別の自治体ではあるが連続した共同体として機能していることが 6 月のヒアリングによって明らかになった。本調査では県道 474 号線東側の集落を訪れた。集落内に鉄道などの公共交通機関は通っておらず、調査中に路線バスなどの存在を確認することもなかった。

##### ○集落の平面構造

- ・集落内の神社の位置

東側の領域に県道 474 号線の通る小規模な谷を背にして八幡神社が立地しており、本調査で訪れた（図 2-22）。



図 2-22 八幡神社境内からブドウ畑を望む

- ・集落内の寺の位置

西側の領域の最北端に山を背にして養命寺が立地していた。

- ・集落内の墓地の位置

養命寺の向かいにまとまった墓地を確認した。

・耕地と居住域の配置



図 2-23 足見のキャベツ畑

足見では水田開発は行われておらず、集落内の面積の多くをブドウ（ピオーネ）畑として利用していた。しかし 6 月に足見の東側を訪れた際には、ブドウ以外にもジャガイモ、キャベツ、花など様々な作物が栽培していることを確認した（図 2-23）。居住域は固まっているわけではなく、斜面地に敷かれた網目状の街路に対して接するようにそれぞれが疎らに立地しており、その余剰地がすべてブドウ畑となっていた。

・公共施設の有無

商業施設は見られなかったが、公共施設として足見小学校跡が確認できた。しかし現在でも公民館などとして利用されているかどうかは不明である。

○集落の断面構造

・集落内の神社の位置

八幡神社は、居住地と同レベルに立地しており、集落全体で見ると南北に 10M ほど傾斜するうちの中腹部に立地している。

・集落内の寺の位置

養命寺は、居住地と同レベルに立地しており、集落全体で見ると南北に 10M ほど傾斜するうちの最北端の最も高いである標高 412M に立地している。

・集落内の墓地の位置

上記の養命寺と同様。

・耕地と居住域の配置

居住域は固まっているわけではなく、斜面地に敷かれた網目状の街路に対して接するようにそれぞれが疎らに立地しており、その余剰地がすべてブドウ畑となっている。そのため高さ関係に特筆すべき傾向はなかった。

・集落断面図

【建築】

○集落内における家屋配置・建築形式の傾向（母屋と付属屋と耕地の関係、建築的特徴（屋根形式・階数）、基礎・構造的特徴、外壁・意匠的特徴）

家屋配置の全体の傾向として、大屋根によって付属屋と一体になった母屋と、1～2 棟の中規模の付属屋がコの字またはL字に配置され、母屋前に囲われたスペースを持っていた。建築的特徴としては、母屋は水平方向に広がった形状で、入母屋・切妻屋根平入で二階建てのものが多く。付属屋は、入母屋屋根平入で二階建てのものを街路に対して 90 度回転させ、中庭を囲むように構えていた。

○詳細調査を行った住宅の家屋配置・建築形式（母屋と付属屋と耕地の関係、建築的特徴（屋根形式、階数、基礎・構造的特徴、外壁・意匠的特徴）  
足見では詳細な調査を行わなかった。

【考察】

足見は蛇行した県道 474 号線を 240Mほど登ることでアクセス可能な、山中に立地する集落であるが、盆地としては斜度が緩く平坦な土地が多い印象であった。そのため、水平方向に広がり付属屋と一体型の母屋が多く見られると考えられる。また、6 月の同集落の調査にて訪れた西側の集落では、井倉と比較して集落内の煩雑な雰囲気が見受けられたが、こいのぼりを飾る様子や、廃タイヤを利用した花壇の存在など、精神的に豊かな生活の様子を確認した。またヒアリングにより、大阪からの I ターンでピオーネを育てている住人や子供連れ世帯の存在が確認できるなど、山中にも関わらず開かれている印象であったことも、井倉と比較可能であると考えられる。

【集落断面図】

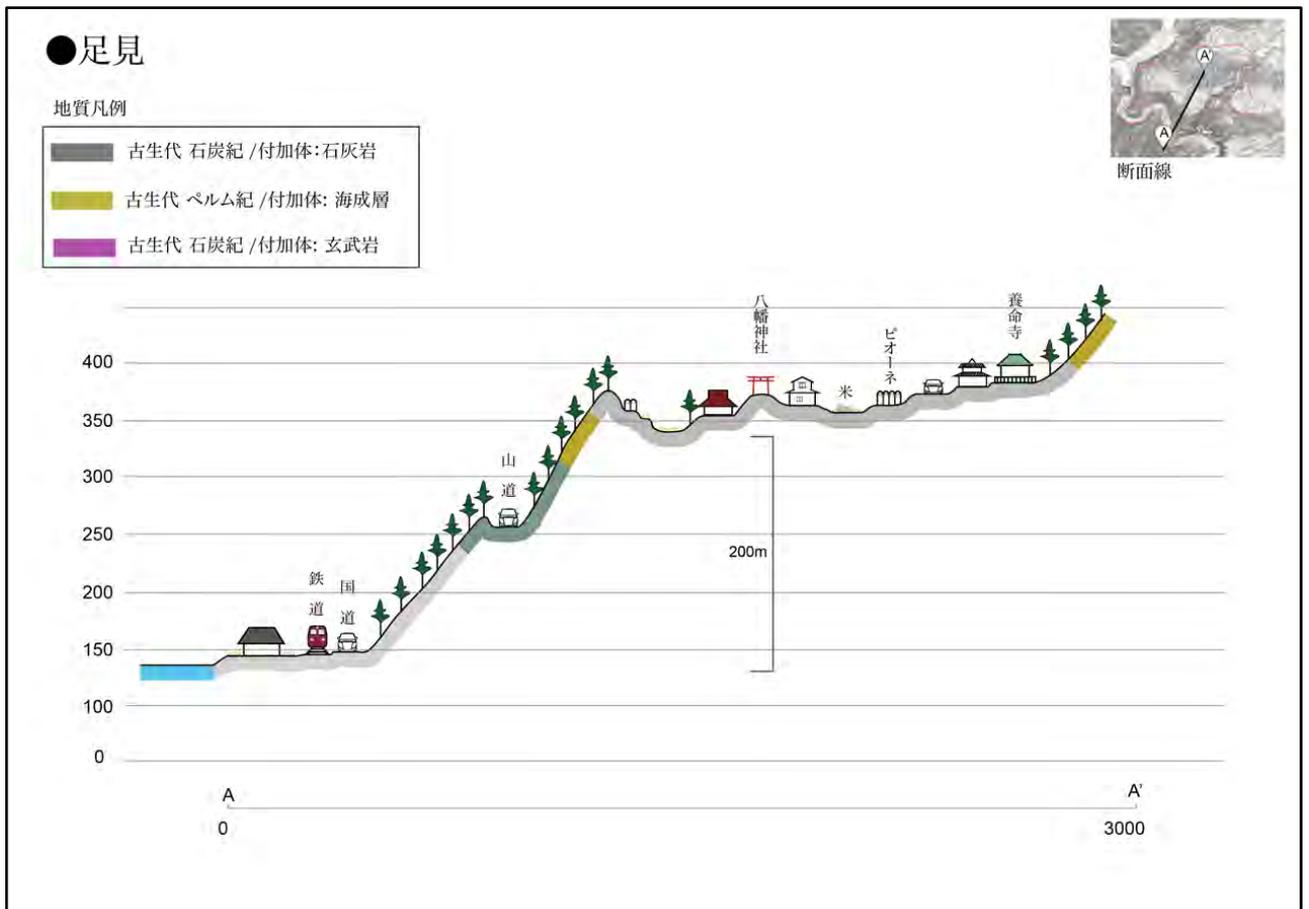


図 2- 24 足見の断面図

## 2-3. 新見市中心部

### 2-3-1 集落概要

中国山地と吉備高原の中間の新見盆地に位置し、中央を高梁（たかはし）川が南流する。高梁川上流集落の経済中心地である。中世には商業地として栄え、産物は漆・紙・蠶・鉄などの集散地であった。高梁川舟運の一番上流であり、本町の近く場所に昔の舟場がある。

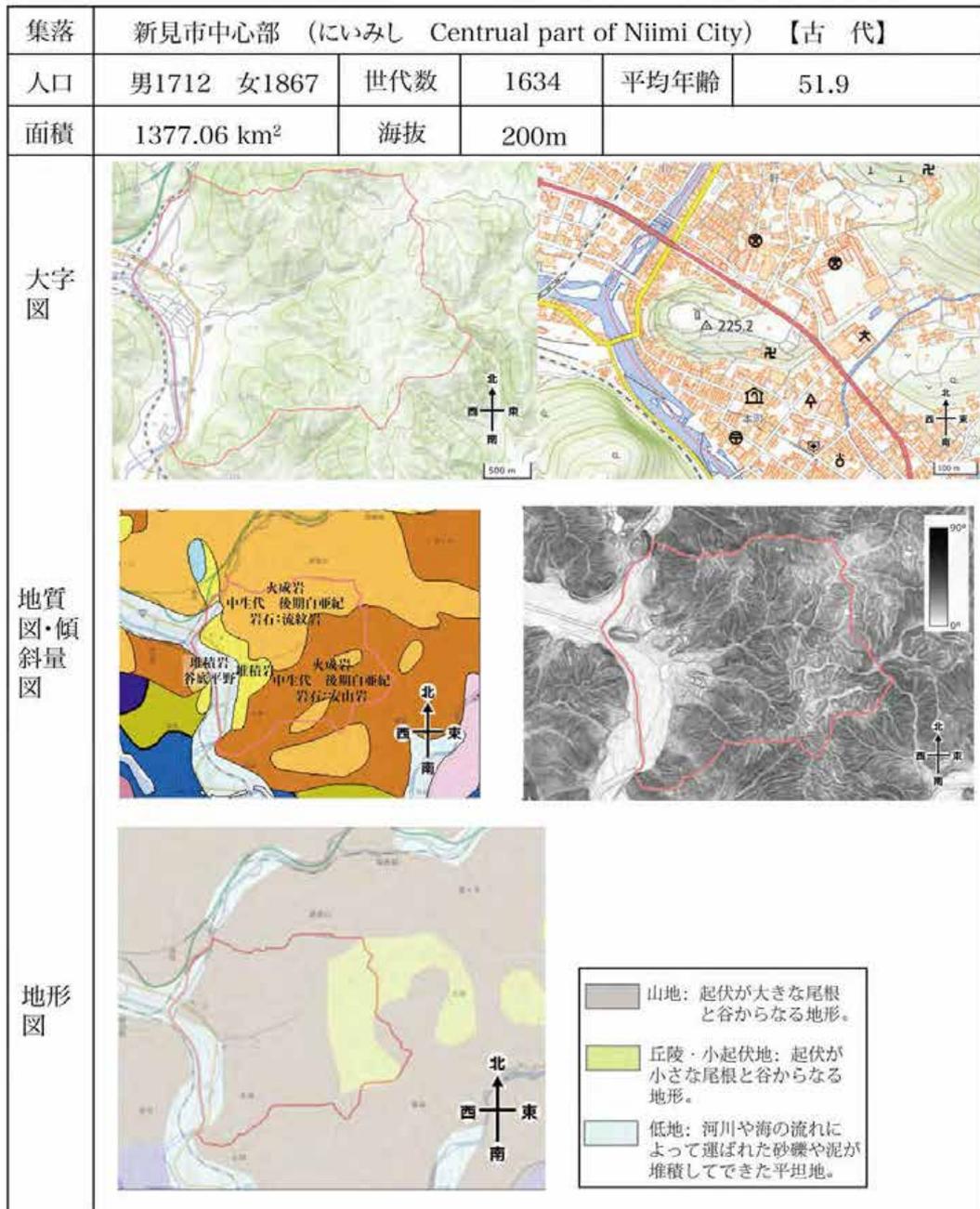


図 2-25 新見中心部の地域概要カード

## 2-3-2 インフラ

### (地形)

新見盆地。周囲は断層崖で囲まれ、西川、小阪部川が高梁川に合流、川沿いの狭い河谷に水田が開ける。(コトバンクブリタニカ国際大百科事典 小項目事典)

### (水利)

舟運：



図 2-26 高瀬舟の寄港地跡の一部

高瀬舟の寄港地跡が残っている。

(看板から)

真福寺周辺の河原がかつての高瀬舟の寄港地。かつてはこのあたりに中州が存在し、早くから舟運が発達していたとされる。

現在の水道種別(平成 22 年)：

上水道事業

(自然災害)

土砂災害警戒区域に指定される範囲が多い。

## 2-3-3 集落の様子

本項目では、【集落構造概要】の項で西方の概要について触れ、【建築】の項で実際に調査を行った高瀬舟発着地跡周辺(新見)について記述する。

【集落構造概要】

○交通

・外部からのアクセス

高梁川沿いの国道 180 号線や県道 8 号線をはじめ大小様々な道路から主なアクセス可能。平野は高梁川の緩やかな迂曲部に展開されるため、山間部にも関わらず平地が多く、西方の中心部と思われる JR 新見駅は標高 197M に位置している。

・内部の交通手段

大字内では谷戸まで余すことなく居住域として利用されていた。本調査では西方の大字領域からは外れた、高瀬舟の最終到達地があったとされる岡山県新見市新見の御殿町センター周辺を調査した（図 2-27）。

集落内には J R 伯備線が通っており新見駅が存在する。その他路線バスなどの公共交通機関も充実していると思われる。



図 2-27 高瀬舟の寄港地跡

#### ○集落の平面構造

##### ・集落内の神社の位置

2021 年 6 月 10 日時点の航空写真より、大字領域は広大だが、神社の数は少なく集落主要部からややはずれた丘陵地の中の江原八幡神社、牛丸大仙森林公園付近の山中の黒岩大仙神社の二社を確認した。

##### ・集落内の寺の位置

2021 年 6 月 10 日時点の航空写真より、高梁川の南岸に山を背にして大宝寺、大医寺などが立地していることを確認した。

##### ・集落内の墓地の位置

2021 年 6 月 10 日時点の航空写真より、大医寺境内の墓地と大宝寺付近の山中に新見市営地区共同墓地を確認した。

##### ・耕地と居住域の配置

2021 年 6 月 10 日時点の航空写真より、集落内に水田はほとんど存在せず、谷戸まで余すことなく居住域として利用されていた。また、個人所有の畑地のようなものも確認できなかった。

##### ・公共施設の有無

商業施設として、コンビニエンスストア、レストラン、スーパーマーケットなどが確認できた。公共施設として美術館、公会堂、集会所、公園など確認できた。その他にも、自動車教習所や大規模な工場、新見公立大学などの存在も確認できた。

#### ○集落の断面構造

##### ・集落内の神社の位置

各神社は、丘陵地または山間部にあるため居住域より高い位置に立地している。

・集落内の寺の位置

各寺は、山を背にして居住域と同じレベルに立地している。

・集落内の墓地の位置

各墓地は神社と同様に、丘陵地または山間部にあるため居住域より高い位置に立地している。

・耕地と居住域の配置

2021年6月10日時点の航空写真より、集落内に水田はほとんど存在せず、谷戸まで余すことなく居住域として利用されていた。また、個人所有の畑地のようなものも確認できなかった。

### 【建築】

○集落内における家屋配置・建築形式の傾向（母屋と付属屋と耕地の関係、建築的特徴（屋根形式・階数）、基礎・構造的特徴、外壁・意匠的特徴）

本調査を行った高瀬舟発着地跡の周辺について記述する。

家屋配置の全体の傾向として、高梁川の際に道路を設けずに、住宅の敷地が直接河岸と接していることがあげられる。そのため、敷地の裏手から直接河岸に降りることが可能な出入口を持っていた（図 2-28,29）。



図 2-28 (左) 図 2-29 (右) 高梁川川岸側の出入口

また、高梁川沿いから一本内側の街路に沿うように街路村が展開され、切妻屋根平入で二階建ての建築が立ち並び、丁寧ななまこ壁による装飾や、木板壁などの建築的特徴も確認できた（図 2-30, 31）。



図 2- 30（左） 木板壁の住宅

図 2- 31（右） なまこ壁の住宅

また建築の機能として、船着き場跡付近は醤油蔵、酒造、薬局、郵便局、信用金庫などがみられた（図 2-32）。



図 2- 32 高梁川沿いの醤油蔵

さらに内側の国道 180 号線付近には、寺社や住宅が特にみられる傾向にあった。

○詳細調査を行った住宅の家屋配置・建築形式（母屋と付属屋と耕地の関係、建築的特徴（屋根形式、階数、基礎・構造的特徴、外壁・意匠的特徴）  
西方（新見）では詳細な調査を行わなかった。

### 【考察】

高瀬舟発着地付近に現在も残る醤油蔵、酒造、薬局、郵便局、信用金庫などの機能はどれも、ストレージや交易の性格が強いと考えられる。河川・生産地・居住地・貯蓄地の位置関係は、後背湿地に水田を構え、山を背にして居を構え、山から木材や水源を確保するのが一般的であるといえる。しかし、西方に関しては高瀬舟の最終到着地であったこと、からかねてより交通の要所であり生産活動ではなく交易によって発展した集落であると考えられる。現に舟運が衰退しても、陸路の充実によって発展しており耕作地をほとんど持っていないことが確認できた。つまり西方における河川・生産地・居住地・貯蓄地の位置関係は、生産機能の代わりが交易機能であると言えるため、河岸に船着き場を設け、川沿いにストレージを構え、山を背にして居を構えるという、生産と貯蔵が一体になって位置関係が逆転している事例だと考えられる。この考察が、舟運によって発達した集落の集落構造を明らかにする一助となることを期待する。

### 【集落断面図】

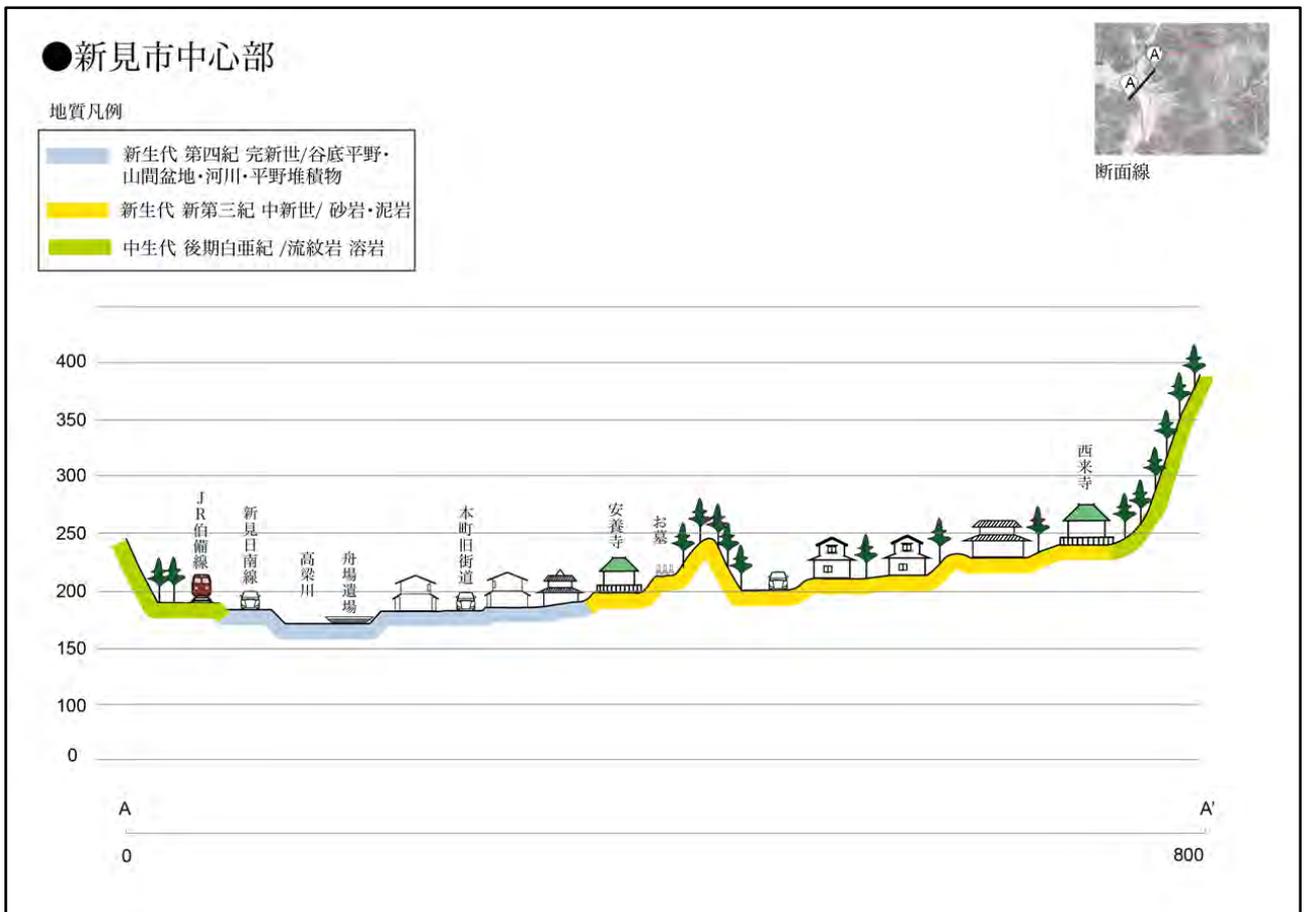


図 2-33 新見市中心部の断面図

## 2-4. 千屋実

### 2-4-1. 集落概要

高梁川上流域に位置し、東に雄山、南東に剣森山がそびえる。鉄穴流しの跡がいたる所  
にあり、製鉄業には木炭が必要なため炭焼も盛んであったという。集落には千屋神社が  
あり、周辺にいる千屋に關係する大字はすべてこの神社を共有している。この集落は、  
かつては牛の市場であり中心地であったが、畜産業の衰退とともに貿易の役割は衰退し  
た。

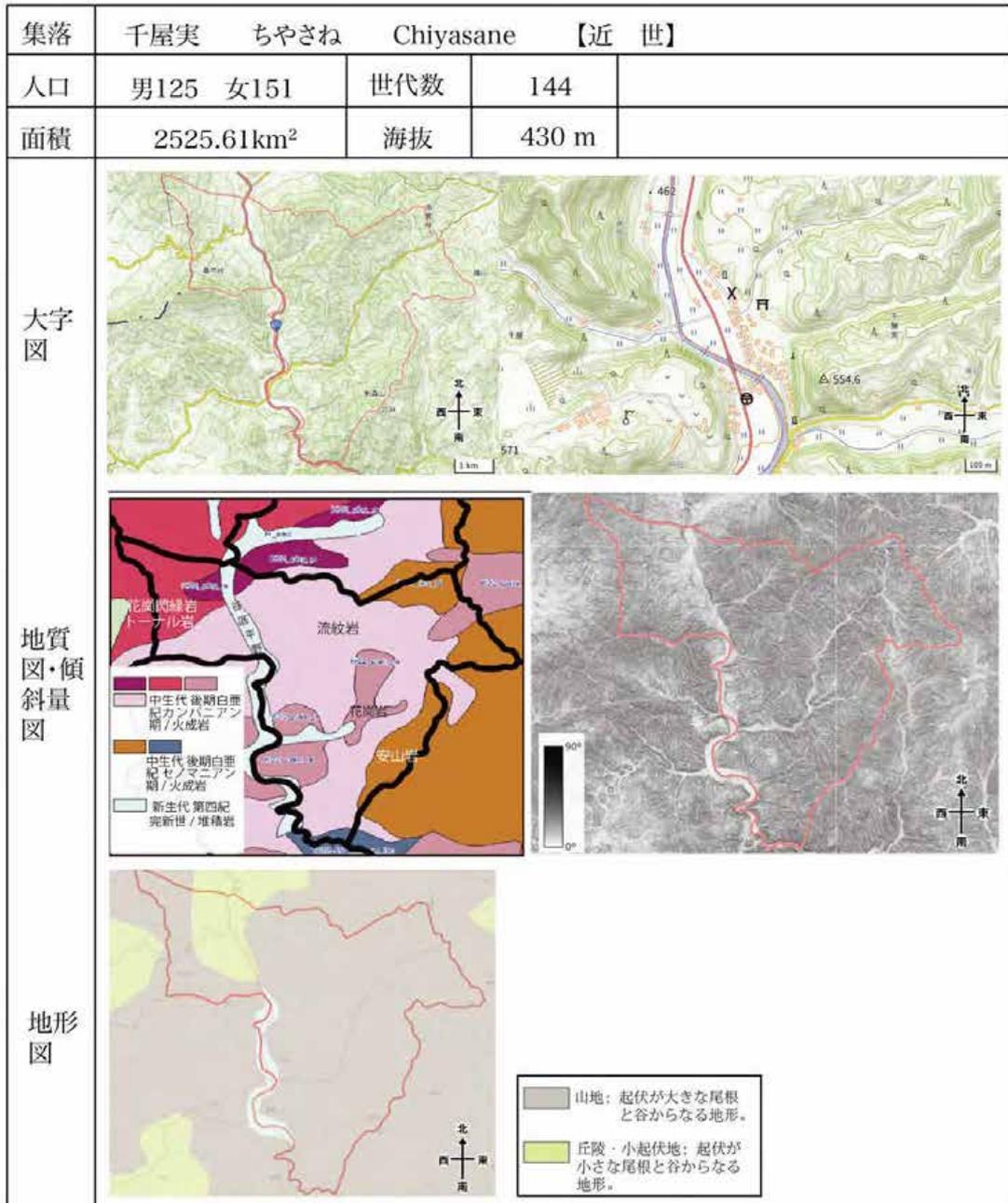


図 2- 34 千屋実の地域概要カード

## 2-4-2. インフラ

### (地形)

高梁川沿いの谷底平野に位置している。主な地質構成としては流紋岩（火成岩）であるが、花崗岩（深成岩）が一部分布しており、その部分には特に谷底平野が発達し集落のほとんどがそこに内包されている。かつてこの地は鉄の生産が行われていたため、かなな流しによる人為的な地形改変の影響も否定できない。

### (水利)

#### 灌漑用水：

千屋神社が位置する尾根の山裾沿いに民家が線上に存在し、その表道に沿って水路が存在。豊かな水を湛えていた。



図 2-35 山裾に沿う民家と水路

#### 現在の水道種別（平成 22 年）：

小規模自家用水道等（原水：未確認）

### (自然災害)

土砂災害警戒区域・土砂災害特別警戒区域に指定されている範囲が多く、民家もその位置に分布していることが多い。

## 2-4-3. 集落の様子

本集落は日程の都合上、集落の様子を詳細にみることができず千屋神社のみを訪れたため詳細な項目の記述は省略する。

### 【集落構造概要】

#### ○交通

##### ・外部からのアクセス

千屋実は全長 6,000M にわたって高梁川沿いに展開する大字で、国道 180 号線や県道 11 号線、県道 317 号線、県道 111 号線からアクセス可能。川上に向かって 6,000M で 130M 標高が上がる全体的に平坦な集落で、本調査で訪れた大字南側の千屋神社付近は標高 441M 付近に位置している。

##### ・内部の交通手段

大字内における主要な居住域は、高梁川沿いの国道 180 号線沿いに展開している。集落内に鉄道などの公共交通機関は通っていないが、調査中に路線バスを確認した。

### ○集落の平面構造

#### ・集落内の神社の位置

本調査で訪れた千屋神社は、県道 11 号線と国道 180 号線の結節点に位置する。

#### ・集落内の寺の位置

本調査で訪れた千屋神社付近には、寺は確認できなかった。

#### ・集落内の墓地の位置

本調査で訪れた千屋神社付近には、墓地は確認できなかった。

#### ・耕地と居住域の配置

基本的に後背湿地に水田、山際に居住域を構えている。主要道路が川沿いに通っている場合は、川際に居住域が展開している事例も見られた。また、個人所有の畑地のようなものも確認できなかった。

#### ・公共施設の有無

公共施設として集会所、商業施設としてレストランなどがある。

### ○集落の断面構造

#### ・集落内の神社の位置

本調査で訪れた千屋神社は、県道 317 号線から 15M 上がった山際の標高 456M に位置する。

#### ・集落内の寺の位置

本調査で訪れた千屋神社付近には、墓地は確認できなかった。

#### ・集落内の墓地の位置

本調査で訪れた千屋神社付近には、墓地は確認できなかった。

#### ・耕地と居住域の配置

集落内は全体的に平坦で広いため、耕地と居住域にレベル差はない。

### 【建築】

○集落内における家屋配置・建築形式の傾向（母屋と付属屋と耕地の関係、建築的特徴（屋根形式・階数）、基礎・構造的特徴、外壁・意匠的特徴）

家屋配置の全体の傾向として、広くて平坦な敷地内に母屋と 0~2 棟の付属屋を持っていた。母屋は大規模で、切妻を原型とし付属屋を内包した複雑な屋根形状の平入で二階建てのことが多い（図 2-36）。



図 2- 36 複雑な屋根形状をした母屋と付属屋が一体になった住宅

付属屋は、入母屋屋根平入で二階建てのものや土蔵、亜鉛メッキ鋼板製のものなど様々な種類がみられた。配置計画としては、母屋に対して直交して配置されており、余剰地に庭を構えている住宅も見られた。

○詳細調査を行った住宅の家屋配置・建築形式（母屋と付属屋と耕地の関係、建築的特徴（屋根形式、階数、基礎・構造的特徴、外壁・意匠的特徴）  
千屋実では詳細な調査を行わなかった。

【考察】

千屋実の千屋神社付近は平地が広く確保できるため、水平方向に広がり付属屋と一体型の母屋がみられると考えられる。

【集落断面図】

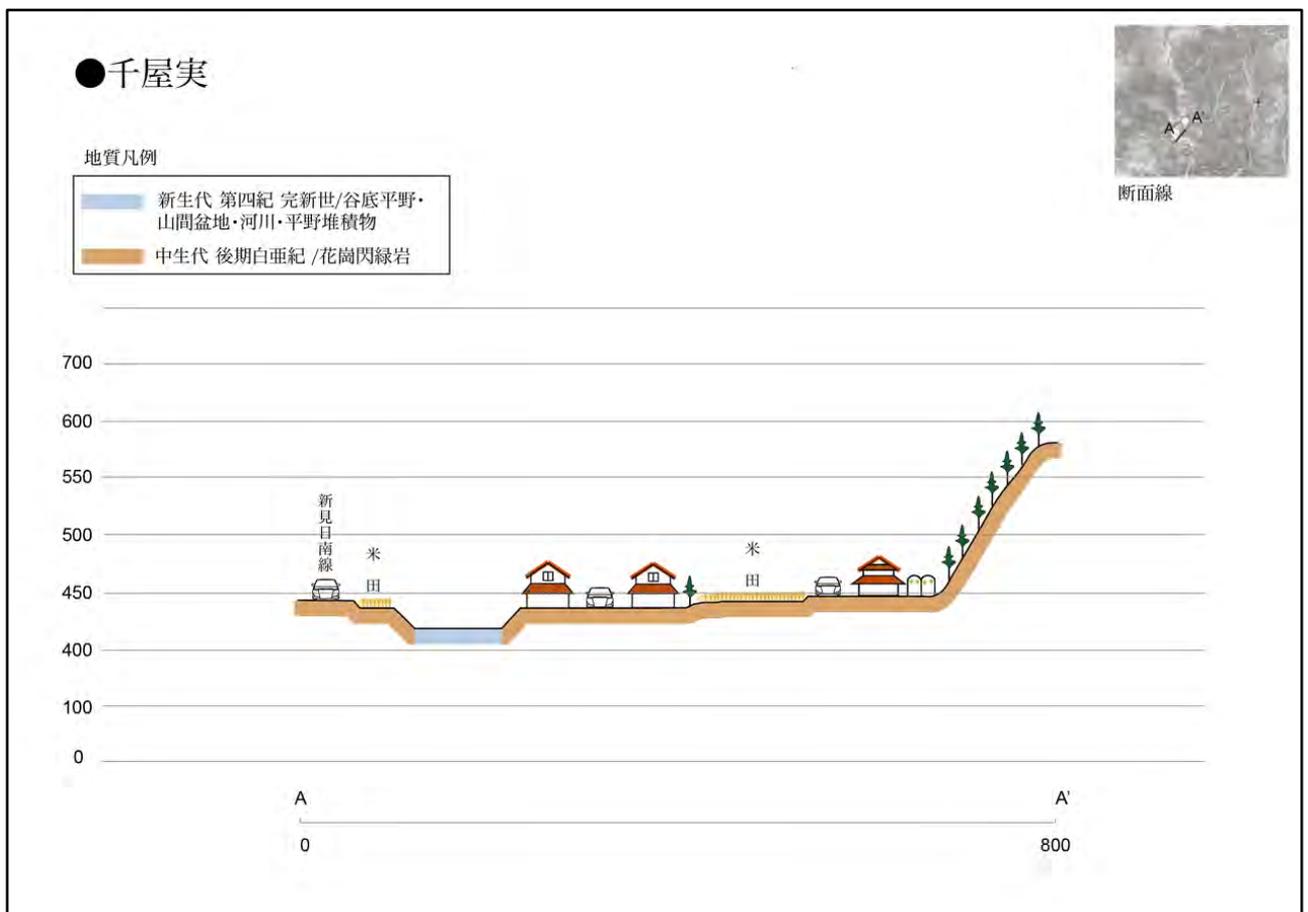


図 2- 37 千屋実の断面図

## 2-5. 千屋井原

### 2-5-1. 集落概要

花崗岩帯に分布して、昔鉄穴流しを行った。その後、牧場に千屋牛が飼育され、畜産業はなくなり、林業と農業が主な収入源となった。今の棚田は、かつての鉄穴流しの跡地に展開されたものである。温泉とスキー場があるが、スキー場はすでに営業していなかった。標高は500メートル以上になり、高梁川上流の高地集落の一つである。

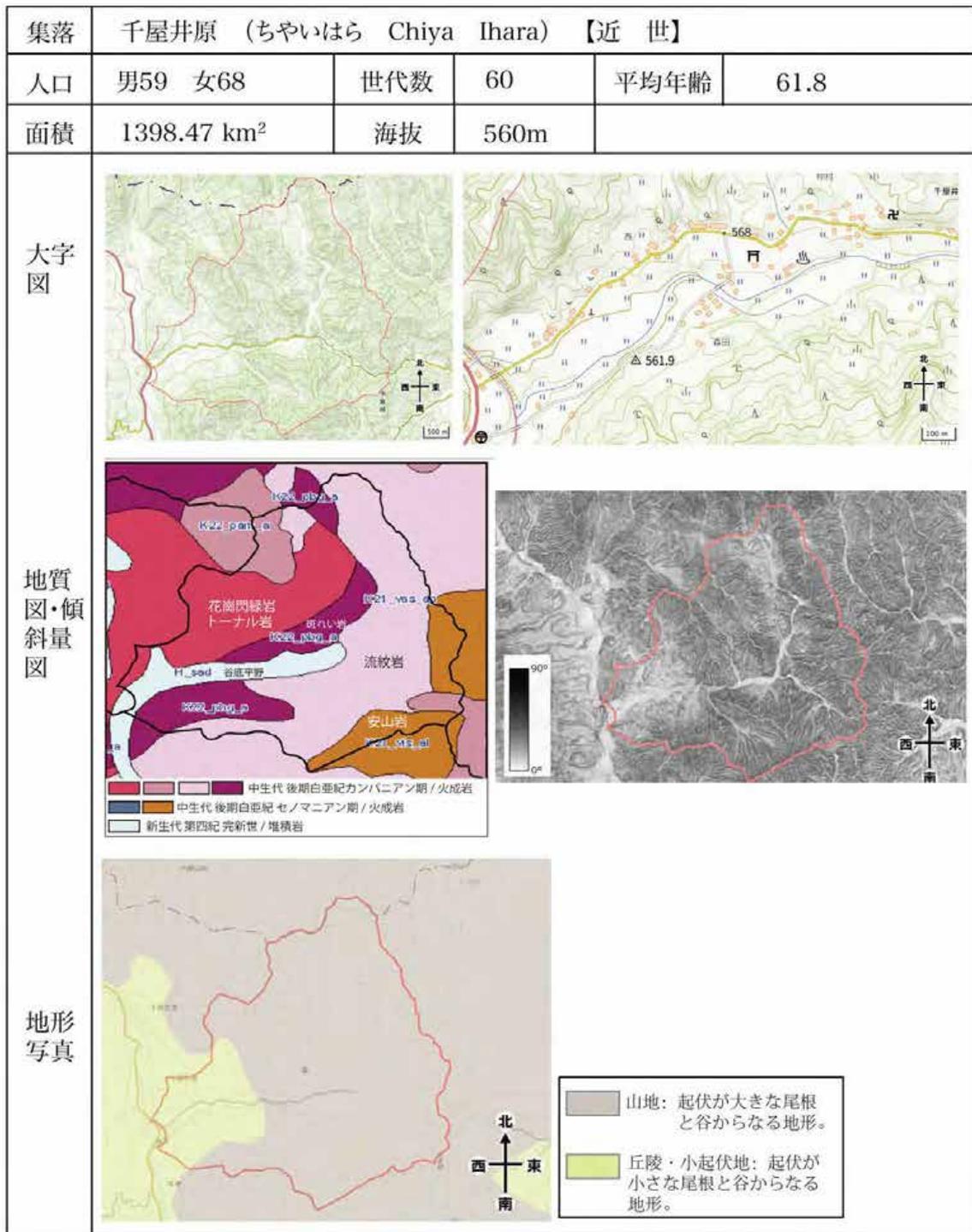


図 2-38 千屋井原の地域概要カード

## 2-5-2. インフラ

### (地形)

高梁川の支流である井原川沿いの谷底平野に位置している。大字内の地質は火成岩からなるが、中でも深成岩が分布する地域に谷底平野の発達が見られ、集落のほとんどがそこに内包される。かつてこの地は鉄の生産が行われていたため、かんな流しによる人為的な地形改変の影響が考えられる。

### (水利)

#### 飲み水：

##### (聞き取り)

現在も井戸水を上水・生活用水として使っている。井戸水をポンプでくみ上げ、家の蛇口から出るようなシステムが組まれている。井戸は外部から何らかの用事できた技術者がついでに作ってくれたそうだ。



図 2-39 井戸を使った水道システム

#### 現在の水道種別（平成 22 年）：

小規模自家用水道等（原水：井戸水）

### (自然災害)

土砂災害警戒区域を含む。ほとんどの民家はその範囲外の安全な場所に分布。インタビューした場所はちょうどその中に位置。範囲の形からも山からの水の流れが読み取れる。

##### (聞き取り)

インタビューを行ったお宅の庭先は大雨が降ると山から傾斜に沿って水が流れ込み、川のようになるそうだ。



図 2-40 大雨の時は川ができるという庭

### 2-5-3. 集落の様子

#### 【集落構造概要】

##### ○交通

- ・外部からのアクセス

国道 180 号線から東に分岐した、井原川沿いの県道 443 号線からアクセス可能。県道 443 号線は谷底平野（小規模な河岸段丘）を走る緩やかに傾斜する道路で、野千屋井原集落は路面と同じ標高 557M に位置している。

- ・内部の交通手段

大字内における主要な居住域は、県道 433 号線沿いの西側の谷底平野と中央部の盆地の二か所だが、本調査では西側の谷底平野領域に絞って調査を行った。

集落内に鉄道は通っていないが、調査中に路線バスなどの存在を確認することができた。

##### ○集落の平面構造

- ・集落内の神社の位置

西側の領域に國司神社、中央部に蓬山神社がある。本調査では、國司神社を訪れた。

- ・集落内の寺の位置

國司神社の斜向かいに簡易的な寺（お堂のようなもの）を確認した。

- ・集落内の墓地の位置

國司神社の隣、寺の向かいにまとまった墓地を確認した。

- ・耕地と居住域の配置

集落内を縦断する井原川の両岸に水田が展開され、北側の県道 443 号線を挟んだ山際には列状の居住域、南側の道路を挟んだ山際には塊状の居住域が立地していた。またヒアリングにより、集落内の余剰地を共有して畑地を行っている事例が一部であることが分かった。

- ・公共施設の有無

商業施設は見られなかったが、公共施設として千屋井原中央公会堂、井原郷土文化伝承館、蓬集会所が確認できた。

##### ○集落の断面構造

・集落内の神社の位置

國司神社は、水田のなかで 5M ほど高く盛り上がった島状の地形に立地している。

・集落内の寺の位置

居住地と同じレベルに立地していた。

・集落内の墓地の位置

國司神社の隣、寺の向かいに路面から数段上がった墓地を確認した。

・耕地と居住域の配置

千屋井原集落が立地する高梁川の支流である井原川によって形作られる谷底平野は、やや幅広で平坦な面積が広い。そのため集落内の居住域と水田レベル差は 1~5M ほどであった。

【建築】

○集落内における家屋配置・建築形式の傾向（母屋と付属屋と耕地の関係、建築的特徴（屋根形式・階数）、基礎・構造的特徴、外壁・意匠的特徴）

家屋配置の全体の傾向は北側の県道 443 号線を挟んだ山際には列状の居住域と、南側の道路を挟んだ山際には塊状の居住域で異なっていたため分けて記述する。

列状の居住域では、道路から山際までの奥行 15M の敷地に付属屋の機能を内包した母屋を持っていた。母屋は 20~30M の横広の形状で、切妻・入母屋屋根平入で二階建てのものが多く。一方で塊状の居住域では、敷地内にやや大規模な母屋と 1~2 棟の付属屋を持っていた。母屋は切妻・入母屋屋根平入の二階建てで、付属屋と一体になったことで L 字型などになったものが多く。

建築的特徴として、塊状の居住域では茅葺に板金が葺かれた急勾配の屋根の住宅も数件見られた（図 2-41）。また、付属屋は亜鉛メッキ鋼板製のものが多かった。



図 2-41 板金が葺かれた住宅群

○詳細調査を行った住宅の家屋配置・建築形式（母屋と付属屋と耕地の関係、建築的特徴（屋根形式、階数、基礎・構造的特徴、外壁・意匠的特徴）

千屋井原では詳細な調査を行わなかった。

【考察】

千屋井原内の板金工務店でのヒアリングより、集落内の茅葺を板金葺きに○年前に変えたことが分かった。また降雪が多いため、入母屋造りより切妻造りの方が適していることも分かった。県道 443 号線沿いの住宅は山際までの幅が狭小なため、付属屋の機能を内包した一文字型の母屋がみられると考えられる。一方で、井原川南岸の集落は平地が広く確保できるため水平方向に広がり付属屋と一体型の母屋がみられると考えられる。

【集落断面図】

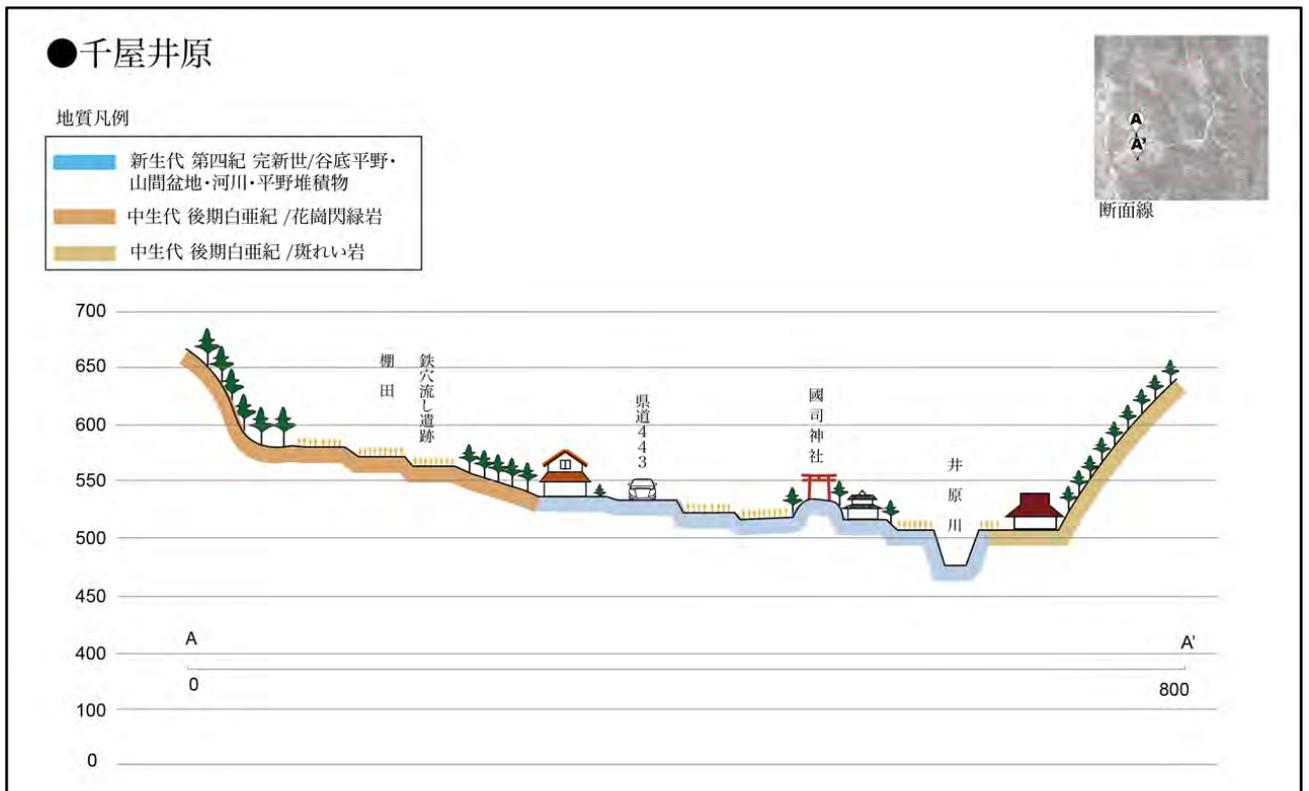


図 2- 42 千屋井原の断面図

## 2-6. 千屋花見

### 2-6-1. 地域概要

高梁川源流域に位置し、西に花見山がそびえる。花崗岩帯に分布しており、かつて鉄穴流しを行っていた。その後、牧場に千屋牛が飼育され。現在も 2 世帯が畜産に従事し、千屋牛を飼育している。畜産業、林業と農業が収入源となっている。峠田牧場は昔の鉄穴流し跡地である。また、炭焼き小屋の跡もある。標高は 600 メートル以上になり、高梁川上流で一番高い高地集落である

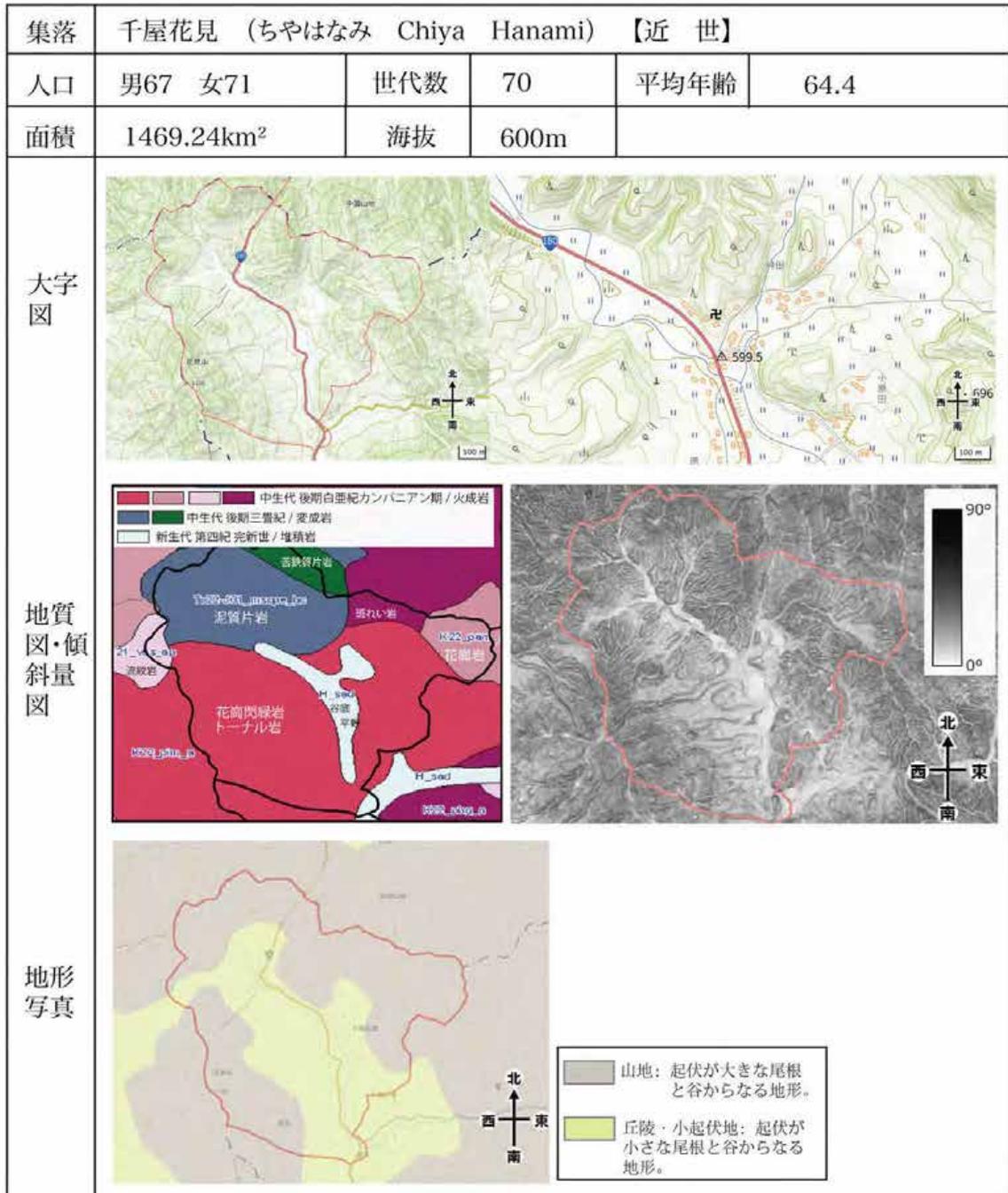


図 2-43 千屋花見の地域概要カード

### 2-6-2. インフラ

### (地形)

高梁川沿いの谷底平野に位置している。主な地質構成としては花崗閃緑岩（深成岩）。かつてこの地は鉄の生産が行われていたため、かんな流しによる人為的な地形改変の影響が考えられる。

### (水利)

#### 飲み水（牛）：

（聞き取り）

この地域は高梁川の中でも源流部に位置しており、その源流の内の一つからパイプで水を引きこみ、牛舎の牛の水飲み場に水を湛えている。



図 2- 44 牛の水飲み場

#### 現在の水道種別（平成 22 年）：

小規模自家用水道等（原水：未確認）→牛舎の水飲み場と同じく源流から引っ張ってきている？

### (自然災害)

土砂災害警戒区域に指定される範囲を多く含む。一方で、その範囲の内と外の民家は半々くらい。牧場は範囲内。

### 2-6-3. 集落の様子

#### 【集落構造概要】

#### ○交通

##### ・外部からのアクセス

国道 180 号線を北上することでアクセス可能。現在は明地峠を越え、根雨に南からアクセスする国道 181 号線に接続するための明地トンネルが開通している。しかし、国道 180 号線と並走する高梁川の源流が大字北部の山中にあることから、千屋花実が立地する谷底平野自体は大字以北に繋がっていない。国道 180 号線は、大字南端の標高 543M から谷戸の先端の標高 642M に向かって傾斜しており、主な居住域は標高 543~606M 付近の国道 180 号線沿いに立地している。

##### ・内部の交通手段

大字内における主要な居住域は、国道 180 号線沿い標高 543~606M 付近に立地している。集落内に鉄道は通っていない。

#### ○集落の平面構造

##### ・集落内の神社の位置

本調査では訪れなかったが、赤坂城跡の西側の国道 180 号線沿いに日吉神社が存在している。

##### ・集落内の寺の位置

集落内に寺は存在しない。

##### ・集落内の墓地の位置

2021 年 6 月 10 日時点の航空写真で日吉神社の山道入口にまとまった墓地を確認した。

##### ・耕地と居住域の配置

主な耕地は高梁川の両岸の水田で、居住域は国道 180 号線の東側に山際を背にして立地している。また、国道 180 号線西側に建てられた後醍醐天皇隠岐遷幸の地の碑から北東に分岐する山道を登った先に、肉牛を酪農する牧場が立地している。

##### ・公共施設の有無

商業施設は、スキー場、養魚センター、温泉旅館、民宿、カフェ、キャンプ場などがある。また公共施設は、新見市立千屋小学校、相文簡易郵便局がある。

#### ○集落の断面構造

##### ・集落内の神社の位置

日吉神社は、高梁川沿いの水田耕作地から 30M ほど高い山際に立地している。

##### ・集落内の寺の位置

集落内に寺は存在しない。

##### ・集落内の墓地の位置

日吉神社の山道入口で国道 180 号線沿いにまとまった墓地が立地しているが、国道から 4M ほど高い擁壁の上に立地しているため視認することはできない。

##### ・耕地と居住域の配置

上記の通り国道 180 号線沿いに立地した居住域と比較して、水田は 5~15M 低い日野川沿いに立地していた。また現在の生産地である畑地は、住宅と同じレベルで配置されている。また、上記の牧場は標高 601M の国道 180 号線の路面から 30M ほど登った標高 631M 付近に棚田跡を再利用して位置していた（図 2-45）。



図 2- 45 棚田跡を利用した牧場と千屋牛

#### 【建築】

○集落内における家屋配置・建築形式の傾向（母屋と付属屋と耕地の関係、建築的特徴（屋根形式、階数、基礎・構造的特徴、外壁・意匠的特徴）

家屋配置の全体の傾向として、国道 180 号線沿いの南北に傾斜する敷地に母屋と 1~2 棟の付属屋を持っていた。母屋は横広の形状でやや大規模で、切妻屋根平入で二階建てのものが多く、また母屋裏手の余剰地に畑地を構えている住宅が多かった。付属屋は、切妻・入母屋屋根の二階建てで、母屋に接続することなく L 字に直交して配置され、母屋の前に余剰地を設ける傾向がみられた。

○詳細調査を行った住宅の家屋配置・建築形式（母屋と付属屋と耕地の関係、建築的特徴（屋根形式、階数、基礎・構造的特徴、外壁・意匠的特徴）

本調査では、谷戸の上の牧場を経営する方にヒアリングを敢行したため、その住宅について詳細な家屋配置と建築的特徴を記述する。

母屋は、切妻屋根平入りの二階建てで隣接する付属屋（車庫と冬用牛舎）と接続していた。壁面や屋根の素材が、亜鉛メッキ板や樹脂製波板など様々であったことから、建設されたタイミングが異なると考えられる。また母屋は長手方向 27M に対して 4M の高低差のある敷地に立地していることから、北側の斜面から母屋二階に直接アクセスするための入口と橋が設けられていた（図 2-46）。



図 2- 46 斜面上側から付属屋二階へのアクセス

その他の独立した付属屋は、切妻屋根の牛舎と、切妻屋根平入りの炭焼き小屋の二棟であった。本報告書では、実際に見学した炭焼き小屋についてのみ建築的特徴を追記する。炭焼き小屋は最高高さ 2M ほどの木造で、壁と屋根は亜鉛メッキ板で葺かれていた（図 2-47）。



図 2- 47 炭焼き小屋平側と入口

また内部には幅 3M 奥行き 6M ほどの土窯があり、上部の梁には神聖な飾りが設置されていた（図 2-48,49）。



図 2-48 炭焼き小屋内の土窯 (左)

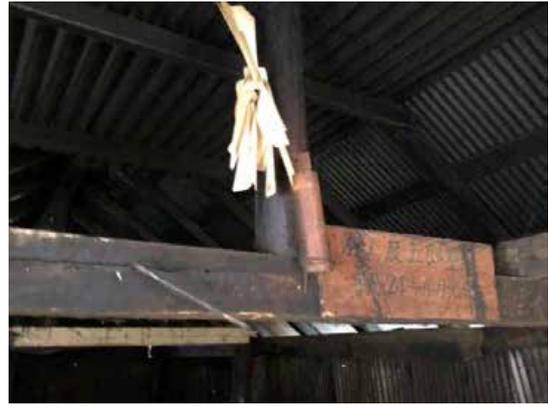


図 2-49 梁に設置された飾り (右)

また、小屋の扉の室内側には窯入れをした回数と日付が油性マジックで書き記されており、初釜は平成 24 年 11 月 10 日、最後は平成 29 年 12 月 3 日であることが分かった (図 2-50)。

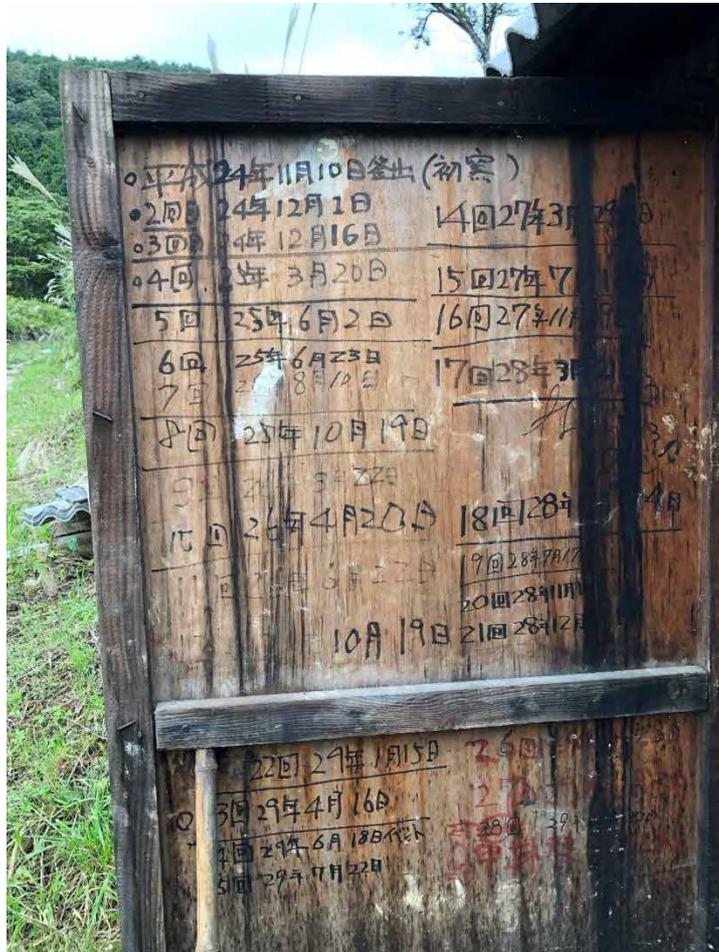


図 2-50 炭焼き小屋のドア内側に記された窯入れの記録

以上よりこの住宅は、横広の形状で付属屋と接続した母屋と二棟の付属屋の計三棟が斜面地に散在し構成された住宅である。配置平面的には、Y 字に分かれた道路に沿って家屋が配置されているため、敷地内に散在している。配置断面的には、国道 180 号線から北東に分岐した行き止まりの山道が通る斜面地に立地しているため、コンクリートの基

礎を打設することによって平面を確保して斜面方向に横広な母屋を配置している。また、牧草地は母屋よりも1~7M高い北側斜面地（棚田跡）に設けていた。

【考察】

明地トンネルを通じて国道180号線は三日月山を越えて北方へアクセス可能であるが、地形的には高梁川の源流地であるため行き止まりの集落の性格を有しているといえる。しかし、源流付近の谷底平野の先端には養魚センター、スキー場、キャンプ場、大型温泉旅館など観光や交易を見越した対外的な利用がされていた点が特徴であった。以上の点から、千屋花実 は 辺境の地でアクセスが不便である性格を逆手にとり、第三次産業で持続力維持を図っていると考えられる。また牧場のあった谷戸の地形は斜面地かつ余剰地が多いため、母屋は道路に対して切妻平入で横広な建築的特徴を帯び、家屋も分散していると考えられる。また酪農という産業の特徴として、屋外と屋内の機能が隣接している必要があることも敷地に対して付属屋が散在していることの要因であると考えられる。

【集落断面図】

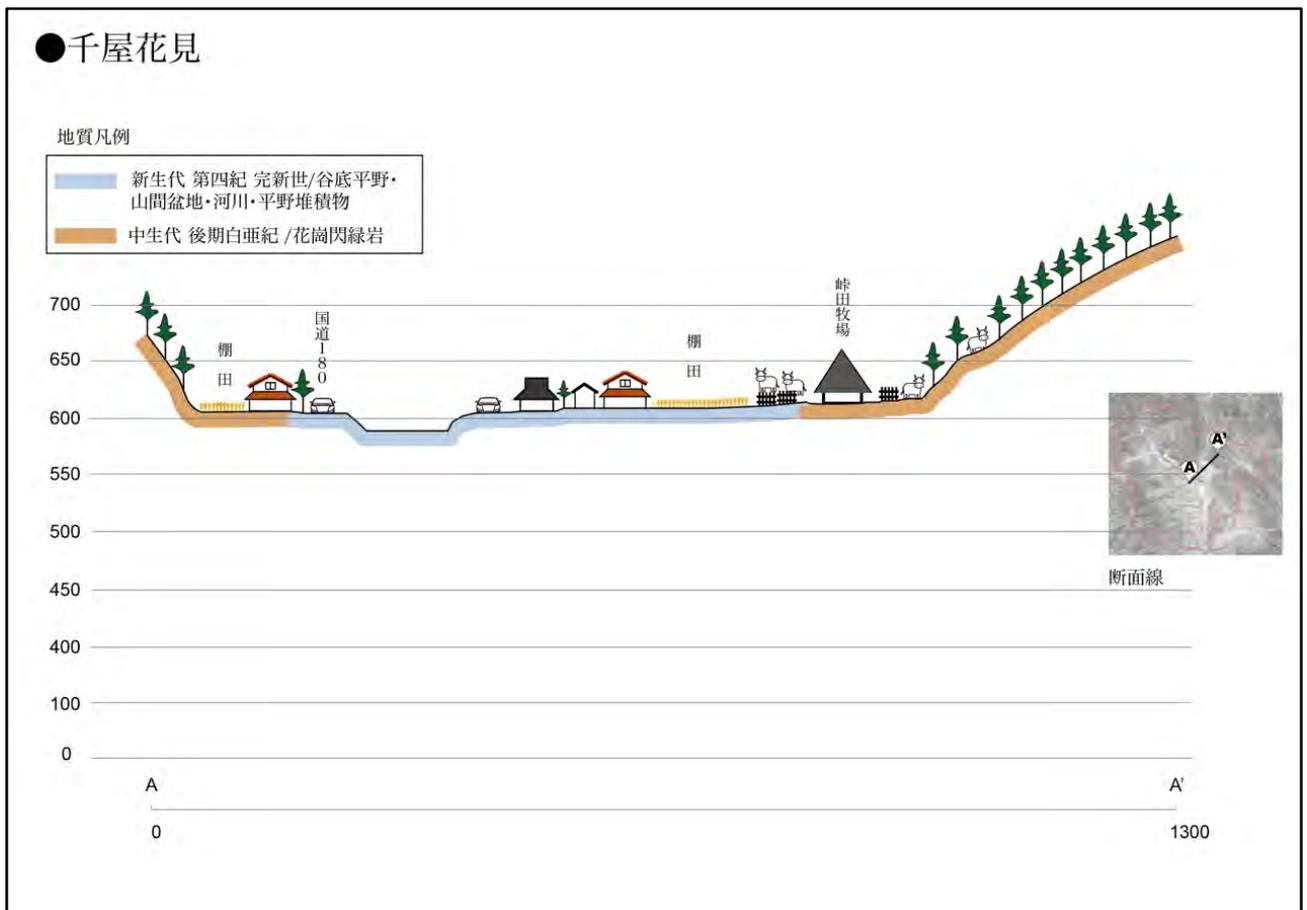


図 2-51 千屋花見の断面図

## 2-7. 神戸上

### 2-7-1. 地域概要

日野川支流石見（いわみ）川の上流域に広がる標高 520m に位置する。西に大倉山（1112m）、東には花見山・明石山などの1,000m級の高山が並び、昔の伯耆（ほうき）・備中の両国を境とする盆地である。現在も岡山県新見市と鳥取県日南町の主要な交通地である。

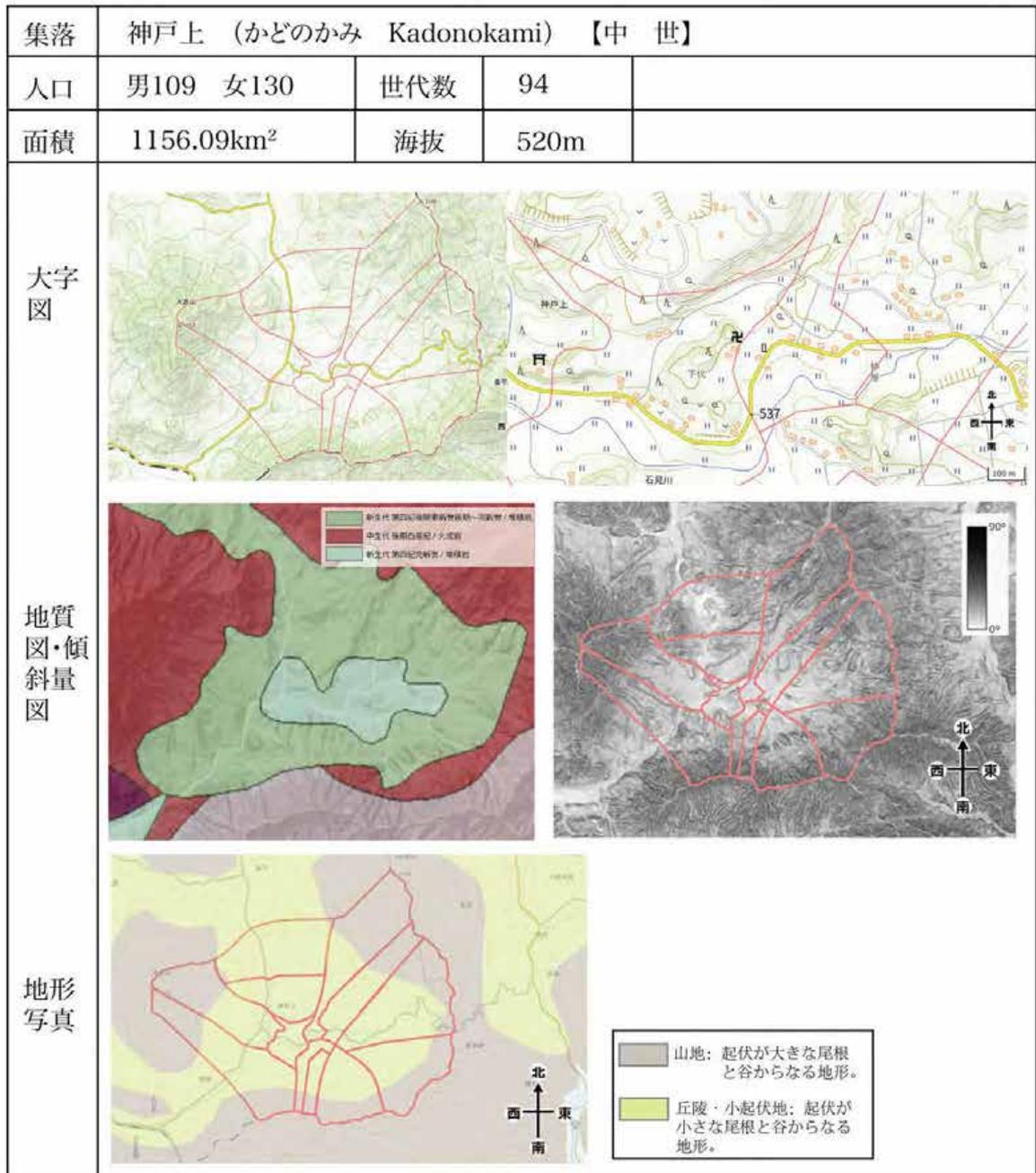


図 2- 52 神戸上の地域概要カード

## 2-7-2. インフラ

### (地形)

日野川の支流である石見川の源流部にある谷底平野及び扇状地に位置している。主な地質構成としては花崗閃緑岩（深成岩）。かつてこの地は鉄の生産が行われていたため、かな流しによる人為的な地形改変の影響が考えられる。

### (水利)

現在の水道種別（平成 22 年）：

簡易水道事業（公営）

### (自然災害)

土砂災害警戒区域・土砂災害特別警戒区域に指定されている範囲を含むがその大きさは大字に対して小さい。また、民家のほとんどは安全な位置に分布。

## 2-7-3. 集落の様子

### ○交通

- ・外部からのアクセス

大字内を南北に縦断する県道 210 号線（上石見黒坂停車場線）と東西に横断する県道 111 号線が T 字に交わる箇所に展開された集落。石見川によって形作られた谷底平野で、石見川が細かく蛇行する影響から平野部は複雑な形状をしているが、東西 2,000M で 80 M 傾斜する緩やかな平地である。神戸上は標高 550M に位置している。

- ・内部の交通手段

大字内における主要な居住域は石見川の谷底平野で、複雑に入り組んだ谷戸を居住域としない理由として、たたら流しとして過去利用していた跡であるからだと考えられる。集落内に鉄道などの公共交通機関は通っておらず、調査中に路線バスなどの存在を確認することもなかった。

### ○集落の平面構造

- ・集落内の神社の位置

県道 111 号線沿いの県道 210 号線との結節点付近の島状丘陵地内に、福成神社が立地しているが本調査では訪れなかった。

- ・集落内の寺の位置

谷底盆地内の島状の丘陵地の一つを背にして、珠福寺が立地している。

- ・集落内の墓地の位置

2021 年 6 月 10 日時点の航空写真より、珠福寺の南西の島状丘陵地の一角にまとまった墓地を確認した。

- ・耕地と居住域の配置

大字の大部分が水田開発に利用されており、たたら流し跡の谷戸も棚田として余すことなく利用されている。また、蛇行する石見川とたたら流しによる人工的な掘削で丘陵地の輪郭が複雑化しており、谷底平野にいくつかの独立した島状の丘陵地がみられる（図 2-53）。



図 2- 53 谷底平野内の独立した島状丘陵地

居住地はそれらの島の南側を背にして立地している。また、県道 111 号線沿いにも住宅がみられる。

・ 公共施設の有無

商業施設として、酒店、屋内宿泊施設、卸売植物農園が確認できた。

○ 集落の断面構造

・ 集落内の神社の位置

福成神社は、居住域より 5M ほど高い島状丘陵地に立地している。

・ 集落内の寺の位置

珠福寺は、島状丘陵地を背に居住域より 10M ほど高いレベルに立地している。

・ 集落内の墓地の位置

墓地は、居住域より 10M ほど高い島状丘陵地に立地している。

・ 耕地と居住域の配置

耕地と居住地の配置に高さ方向の傾向はなく、大字の大部分が水田開発に利用されている。しかし、たたら流し跡の谷戸に展開される水田は、傾斜を利用した棚田となっている（図 2-54）。



図 2- 54 たたら流し跡の谷戸を利用した棚田

## 【建築】

○集落内における家屋配置・建築形式の傾向（母屋と付属屋と耕地の関係、建築的特徴（屋根形式・階数）、基礎・構造的特徴、外壁・意匠的特徴）

本調査を行った石見川流域の谷底平野周辺の住宅について記述する。

家屋配置の全体の傾向として、広くてやや平坦な敷地内に母屋と 0~2 棟の付属屋を持っていた。建築的特徴としては、母屋はやや大規模で水平方向に広がった形状で、入母屋・切妻屋根平入で二階建てのものが多く、付属屋は、入母屋屋根平入で二階建てのものや土蔵、亜鉛メッキ鋼板製のものなど様々な種類がみられた。配置計画としては、母屋に対して直交して配置するなどの傾向は見られず、敷地条件によって様々であった。また敷地内の余剰地に庭や畑地を構えている住宅も見られた。

○詳細調査を行った住宅の家屋配置・建築形式（母屋と付属屋と耕地の関係、建築的特徴（屋根形式、階数、基礎・構造的特徴、外壁・意匠的特徴）

神戸上では詳細な調査を行わなかった。

## 【考察】

現在の石見川の流路を見るとかなり蛇行しており、2021 年 6 月 10 日時点の航空写真より過去の流路と考えられる痕跡も見つかった。このことから石見川は過去何度か氾濫し地形改変を行ったため、神戸上は河川規模の割に幅広に平地が展開されていると考えられる。加えてたたら流しの際の人工的な地形掘削の影響もあり、谷底平野内に大小様々な島状丘陵地が存在すると考えられる。以上を踏まえ住宅の配置計画を整理すると、一見県道 111 号線沿いに立地しているように思えるが、島状丘陵地の南側を背に立地していると捉えることもできる。

神戸上立地する地形の性質上、現在は県道 111 号線によって山を越え東側の国道 180 号線にアクセス可能だが、昔は行き止まりの集落であったと考えられる。つまり集落の構造として交通への依存度は低く、県道 111 号線を引く際に最も多くの住宅からアクセスしやすい道筋を引いたことで、後天的に住宅が道路に面したと考えられる。また周囲の山際ではなく、石見川流域である平野内の島状丘陵地の輪郭に沿って住宅が立地している理由として、山際を掘削したたら流しを行っていたことから山際の地形が随時変化し（後退し）敷地が安定しないことが関係していると考えられる。

【集落断面図】

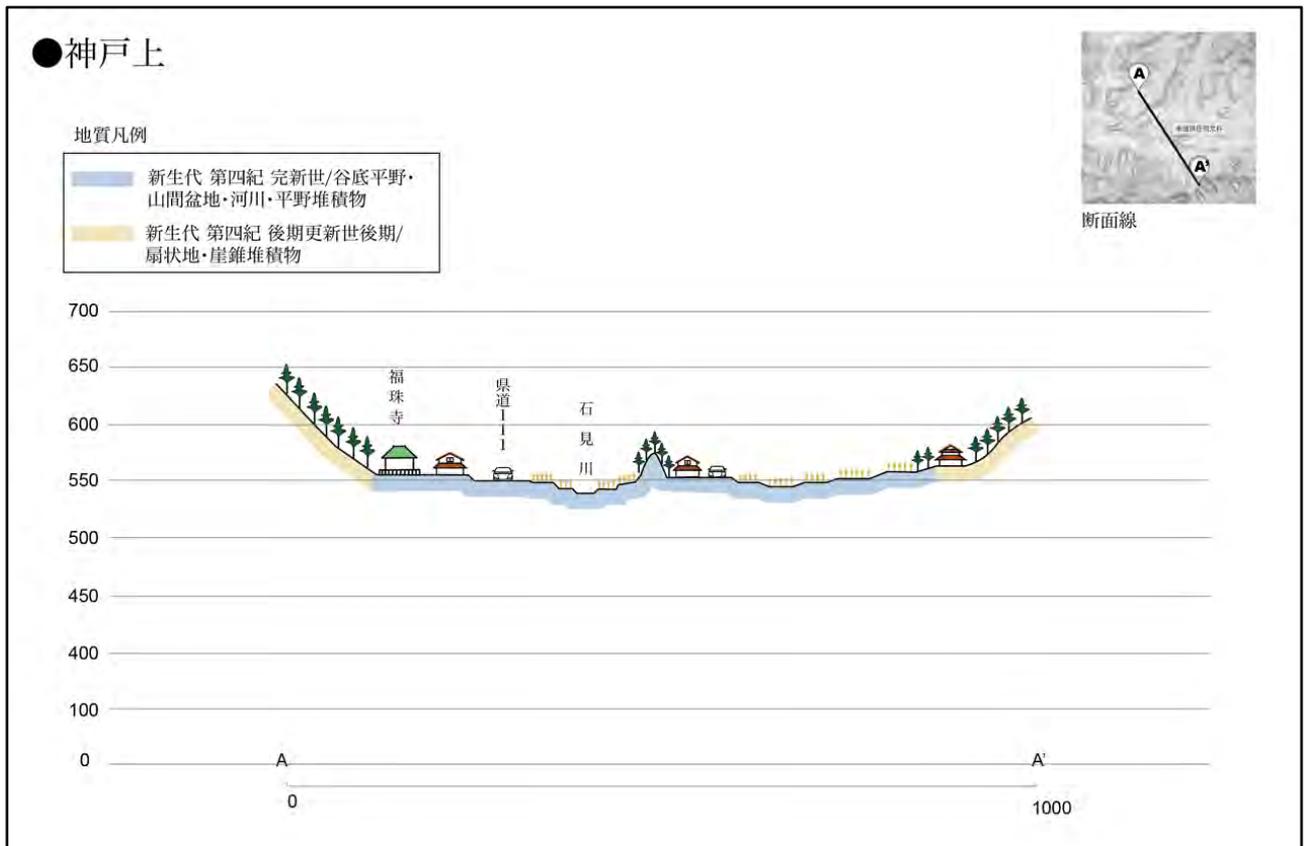


図 2- 55 神戸上の断面図

## 2-8. 新屋

### 2-8-1. 集落概要

日野川最上流域の山間地に位置する。平成時代まで、多里には若松鉱山とクロム鉱山を含めて 2 つの鉱山があったため、集落全体の構造や成り立ちが鉱山経済と強く結びついていた。多里には鉱山町があった。今は廃れたが、かつての面影を残している。今回の調査範囲では、新屋には、新山・野組・湯河・多里など 4 つの集落が含まれる。

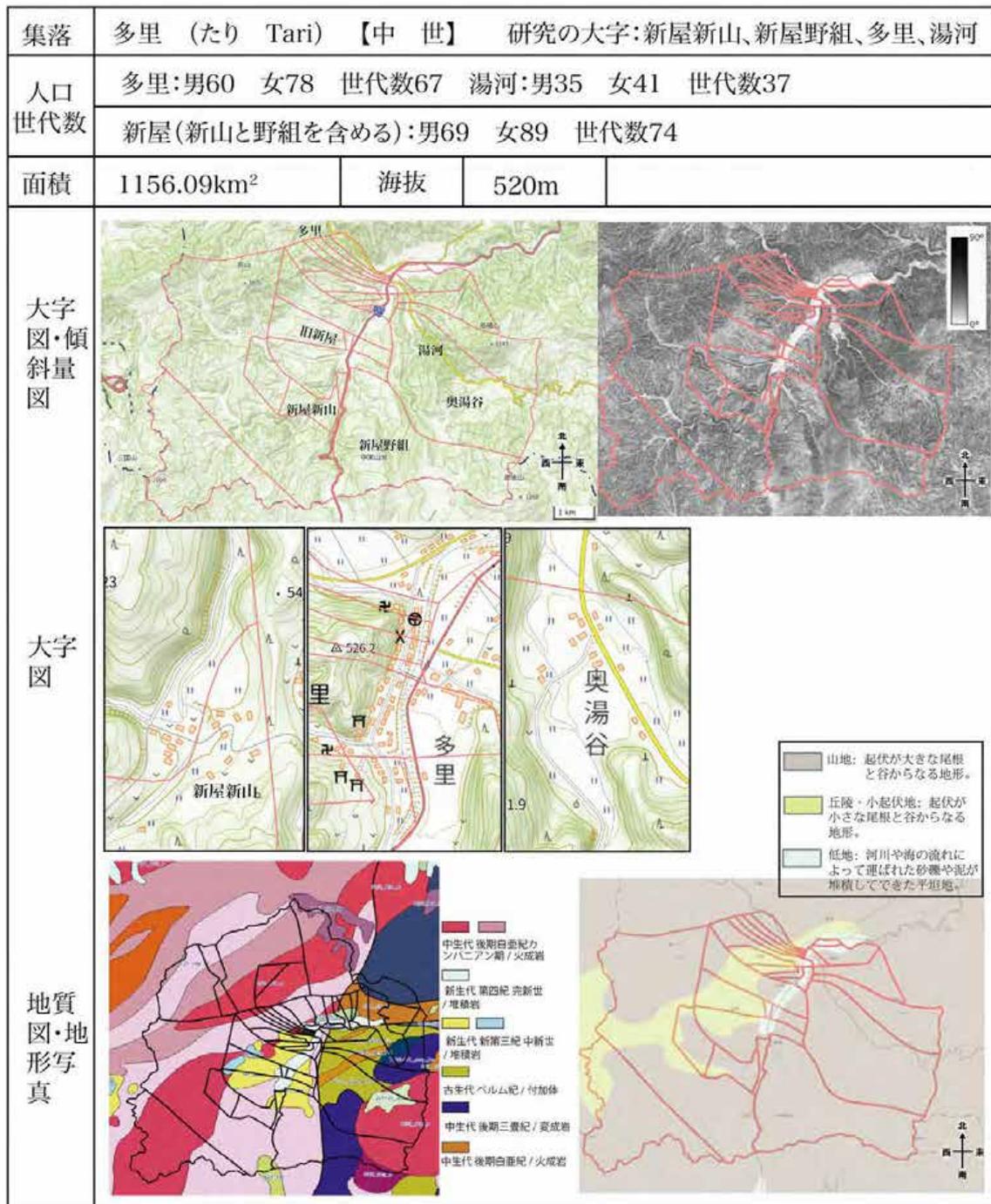


図 2-56 新屋 (多里・新山・野組・湯河) の地域概要カード

## 2-8-2. インフラ

### (地形)

日野川の源流地域にある谷底平野に位置している。地質構成としては集落部の「汽水成層ないし海成・非海成混合層砂岩・泥岩・砂岩泥岩互層」・付加体・変成岩・火成岩が入り混じっている。そのうちの前二者の地質帯に集落のほとんどが位置している。かつてこの地は鉄の生産が行われていたため、かんな流しによる人為的な地形改変の影響が考えられる。

### (水利)

現在の水道種別（平成 22 年）：

簡易水道事業（公営）

### (自然災害)

今回調査した中で旧新屋以外においては、多く民家が土砂災害警戒区域・土砂災害特別警戒区域に指定されている範囲内に位置。

## 2-8-3. 集落の様子

本大字は、広範囲にわたること居住域が新山・野組・湯河・多里と特性の異なる小字ごとに分かれているため、大字単位ではなく各々の小字単位で整理を行う。

### 伯耆国日野郡新屋村／鳥取県日南町新屋新山

#### 【集落構造概要】

#### ○交通

- ・外部からのアクセス

新屋内で国道 183 号線から西に逸れる山道からアクセス可能。新山集落は標高 500M に位置している。

- ・内部の交通手段

新山内に商業施設はなく、以前は新屋の経済的中心である多里を利用していたが現在は根雨や溝口を利用している。

小字内における主要な居住域は、国道 183 号線から標高 623M の丘陵を挟んで立地した緩やかなすり鉢状の盆地である。また、新山集落に西方の山地より流れ込む坂郷川沿いの山道を 150M ほど登った標高 650M に地点に開かれた盆地が存在しており、そこでは圃場整備のされていない有機的な水田が現在も残存していた（図 2-57）。



図 2- 57 新山集落上部の水田

ヒアリングより元は新山集落の農家によって開墾されたものだが、現在は行政や外部に生産を依頼していることが分かった。また水田の脇の小屋は旧炭焼き小屋で、昔は炭焼き業が冬の生業の一端を担っていたことも明らかになった。

集落内に鉄道などは通っていないが、新山の西端の交差点に路線バスのバス停の存在が確認できた。

#### ○集落の平面構造

- ・集落内の神社の位置

新山集落内に神社はなく、新屋の多里神社を共有していることがヒアリングより分かった。

- ・集落内の寺の位置

集落内に寺は存在しない。

- ・集落内の墓地の位置

居住域から離れた集落南西の小高い山際にまとまった墓地を確認した。2021年6月10日時点の航空写真では墓地の周囲は水田となっているが、調査を行った2022年9月24日時点では周囲は荒地となっていた。

- ・耕地と居住域の配置

緩やかなすり鉢状の集落の底には坂郷川が流れ、集落の南西の谷戸に水田の跡は確認できたが、現在水田開発は行われていない（図 2-58）。



図 2- 58 集落の底を流れる坂郷川

集落内の主な生産物は畑地での野菜の栽培だが、ヒアリングより出荷用ではなく自家用であることが分かった（図 2-59）。



図 2- 59 新山集落内の自家用畑

これら畑地は各々の敷地内に設けているが、畑地と母屋の配置関係には基本的に一貫性はなかった。居住域に関しては、斜面地に敷かれた蛇行・枝分かれした街路に対して接するようにそれぞれが疎らに立地している。

- ・公共施設の有無

商業施設などは見られなかった。

#### ○集落の断面構造

- ・神社

集落内に神社は存在しない。

- ・集落内の寺の位置

集落内に寺は存在しない。

- ・集落内の墓地の位置

居住域からは離れた集落南西の小高い山際にまとまった墓地を確認した。2021年6月10日時点の航空写真では墓地の周囲は水田となっているが、調査を行った2022年9月24日時点では周囲は荒地となっていた。

- ・耕地と居住域の配置

上記の通り主要道路・坂郷川沿いに立地した居住域と比較して、旧水田跡は10M高い山際に立地していた。また現在の生産地である畑地は、住宅と同じレベルで配置されている。また、新山集落に西方の山地より流れ込む坂郷川沿いの山道を150Mほど登った標高650Mに地点に開かれた盆地が存在しており、そこでは圃場整備のされていない有機的な水田が現在も残存していた。

#### 【建築】

○集落内における家屋配置・建築形式の傾向（母屋と付属屋と耕地の関係、建築的特徴（屋根形式、階数、基礎・構造的特徴、外壁・意匠的特徴）

家屋配置の全体の傾向として、広くてやや平坦な敷地内に母屋と1~2棟の付属屋を持っていた。母屋はやや大規模で、切妻屋根平入で一部二階建てのものが多い。また敷地内の余剰地に庭や畑地を構えている住宅が多かった。

建築的特徴として、付属屋は土蔵が少なく亜鉛メッキ鋼板製のものが多かった。

○詳細調査を行った住宅の家屋配置・建築形式（母屋と付属屋と耕地の関係、建築的特徴（屋根形式、階数、基礎・構造的特徴、外壁・意匠的特徴）

新山では詳細な調査を行わなかった。

### 【考察】

国道 183 号線から集落へアクセスする山道は、標高 650M 地点の有機的な水田以降に通  
り抜けができないため、新山は行き止まりの集落であるといえる。新山の地形は小規模  
な盆地のような性格を有しているが、集落内の斜面は緩やかなため、母屋が平面方向へ  
広がり付属屋の機能を内包した一体型が散見されると考えられる。また、河川（水  
源）・水田（耕地）・居住域（住宅）・山地（ストレージ）の断面的関係について、一  
般的な集落と比較して水田と居住域の位置関係が逆転していることが特徴として挙げら  
れる。この要因について、坂郷川が小規模な小川であること、このことから水田の水源  
は、坂郷川ではなく山からの湧水であったことの二点が起因しているものと考えられる。

### ・集落断面図

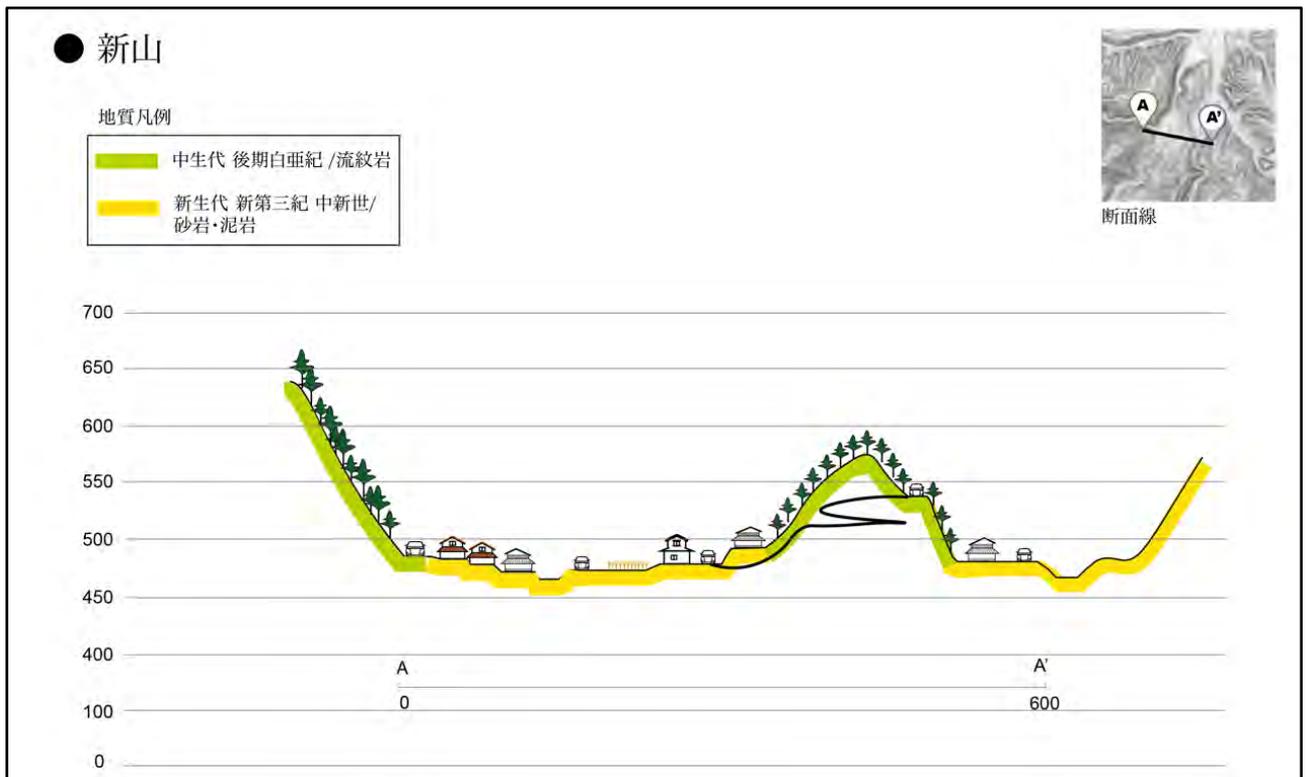


図 2- 60 新屋新山の断面図

伯耆国日野郡新屋村／鳥取県日南町新屋野組 (図 2-61)



図 2- 61 主要道路に沿った野組の様子 (魚眼)

【集落構造概要】

○交通

- ・外部からのアクセス

新屋内で国道 183 号線から東に逸れる日野川沿いの山道からアクセス可能。山道は、分岐地点の標高 482M から居住域の端点の標高 514M に向かって傾斜しており、通り抜けができない。野組集落は標高 508M に位置している。

- ・内部の交通手段

野組内に商業施設はなく、以前は新屋の経済的中心である多里を利用していたが現在は根雨や溝口を利用している。

小字内における主要な居住域は、国道 183 号線から東に逸れる日野川沿いの谷間である。集落内に鉄道などの公共交通機関は通っておらず、調査中に路線バスなどの存在を確認することもなかった。

○集落の平面構造

- ・集落内の神社の位置

野組集落内に神社はなく、新屋の多里神社を共有していることがヒアリングより分かった。

- ・集落内の寺の位置

集落内に寺は存在しない。

- ・集落内の墓地の位置

調査時には位置を確認できなかったが、2021 年 6 月 10 日時点の航空写真ではとある住居の裏手の山との間にまとまった墓地を確認した。

- ・耕地と居住域の配置

西側を流れる日野川の東岸に水田が展開され、主要道路を挟んで東側の山際を列状に居住域としていた。また、敷地の裏手または横手にビニールハウスの設置された畑地を持っている事例が多く見られた。

- ・公共施設の有無

商業施設などは見られなかった。

○集落の断面構造

- ・集落内の神社の位置

集落内に神社は存在しない。

- ・集落内の寺の位置

集落内に寺は存在しない。

・集落内の墓地の位置

調査時には位置を確認できなかったが、2021年6月10日時点の航空写真ではとある住居の裏手の山際のやや小高い位置にまとまった墓地を確認した。

・耕地と居住域の配置

上記の通り水田は日野川沿いに立地しているため、山際に列状に立地した居住域と比較して、1~5M低い位置に立地していた。また、個人の敷地内の畑地は、住宅の横手（川上側）もしくは母屋の裏手に構えているため住宅よりやや高いレベルに配置されている。居住域は、南東から北西の川下に向かって傾斜する道路に沿って、東側の山際から幅30Mの範囲で列状に立地している。

【建築】

○集落内における家屋配置・建築形式の傾向（母屋と付属屋と耕地の関係、建築的特徴（屋根形式・階数）、基礎・構造的特徴、外壁・意匠的特徴）

家屋配置の全体の傾向として、道路から山際の奥行30Mの南東から北西の川下に向かって傾斜する敷地に母屋と1~2棟の付属屋を持っていた。母屋は横広の形状でやや大規模で、切妻・入母屋屋根平入で二階建てのものが多く、また敷地内の道路際に前庭、母屋の裏手・横手（川上側）の余剰地に畑地やビニールハウスを構えている住宅が多かった（図2-62）。また敷地と道路の傾斜した境界には水路が巡らされ、敷地内には水路を渡る橋兼階段が設けられていた（図2-63）。



図2-62 母屋横のビニールハウス（左）



図2-63 敷地前の水路（右）

建築的特徴として、付属屋は土蔵でなまこ壁が施されているものが多かった（図 2-64）。



図 2- 64 なまこ壁の施された付属屋

また、道路側には 0.5~0.6M の石垣を積み敷地のレベルを上げていた。

○詳細調査を行った住宅の家屋配置・建築形式（母屋と付属屋と耕地の関係、建築的特徴（屋根形式、階数、基礎・構造的特徴、外壁・意匠的特徴）

本調査で簡易的な実測を行った結果、野組の母屋と付属屋の配置関係に一定の法則を見出すことができたため、野組の代表的な一件の住宅について詳細な家屋配置と建築的特徴を記述する。

母屋は、切妻屋根平入りの二階階建て。壁面は、白壁と一部木板が施され南西側立面に大きく採光を設けていた。屋根は、黒瓦で鯨（シャチホコ）の装飾が施されていた。また一階には裳階を持っており、玄関・縁側は軒下空間となっていた。

付属屋は、切妻屋根妻入りの二階建ての蔵と、切妻屋根平入りのものの二棟であった。本報告書では、路面側から確認可能だった蔵についてのみ建築的特徴を追記する。蔵の屋根は黒瓦、基礎が石造、一階壁面がコンクリートブロック積造、二階壁面が漆喰壁、一階二階二間に帯状のなまこ壁が施されている。また、二階の路面側立面と一階妻側に観音開きの開口部を設けている。以上よりこの住宅は、横広の形状でやや大規模の母屋と二棟の付属屋の計三棟で構成され住宅である。

配置平面的には母屋の正面である南西側立面の手前に、妻入りの蔵を 90 度回転させ中庭を囲むように構えていた（図 2-65）。



図 2- 65 入口を中庭側に持った蔵

配置断面的には、日野川に沿った南東から北西に傾斜した斜面地に立地しているため、石垣によって平面を確保して斜面方向に横広な母屋を配置している。また、母屋裏の山際を 25M 切り崩した高い位置に墓地と畑地を配置し、3~5M ほど下がった道路まで 25M の幅に付属屋と母屋を配置している。耕地は、母屋裏と母屋横手に持っていた。

**【考察】**

国道 183 号線から集落へアクセスする山道は通り抜けができないため、野組は行き止まりの集落であるといえる。野組の地形は、谷底平野の性格を有していることから集落内の居住域は斜面地かつ狭小なため、母屋は道路に対して切妻平入で横広な建築的特徴を帯びると考えられる。また独立した付属屋は蔵以外に 0~1 棟しか持っていないため、斜面方向へ広がり付属屋の機能を内包した一列型の母屋が散見されると考えられる。

**【集落断面図】**

# ● 野組

地質凡例

■ 新生代 新第三紀 中新世/  
砂岩・泥岩



断面線

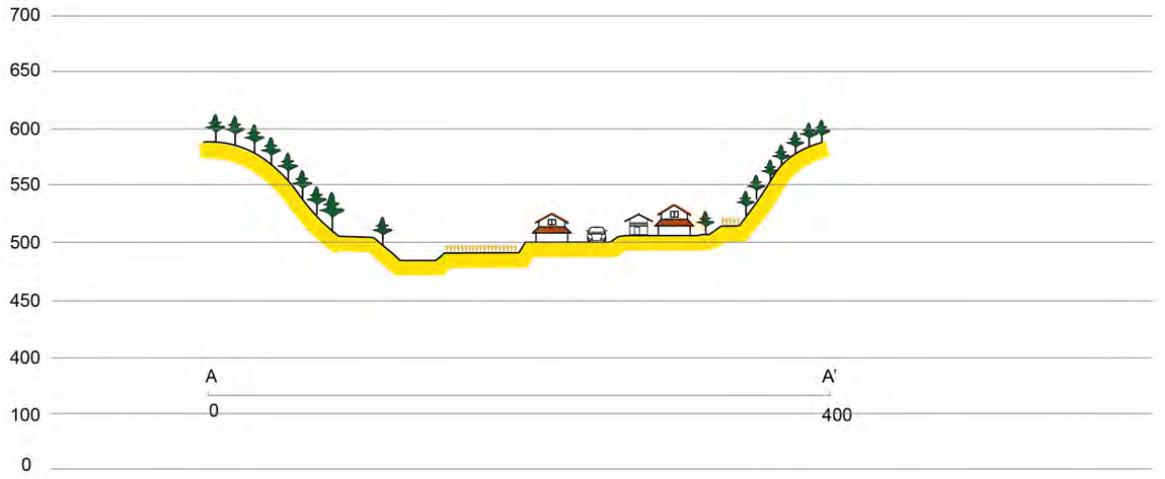


図 2-62 野組の断面図

伯耆国日野郡新屋村／鳥取県日南町新屋湯河（図 2-66）



図 2- 66 主要道路に沿った湯河の様子（魚眼）

【集落構造概要】

○交通

・外部からのアクセス

新屋内で国道 183 号線から東に逸れる新見多里線（県道 11 号線）からアクセス可能。県道 11 号線は、分岐地点の標高 439M から居住域の端点の標高 510M に向かって傾斜しており、道なりに約 7 km 先の豊栄大字居住域までは蛇行を繰り返す山道となっている。また湯河集落内で県道 11 号線から南西方向へ分岐する若松川沿いの道は、若松川発電所を經由し若松鉦山跡に続く山道で、通り抜けができない。湯河集落は標高 482M に位置している。

・内部の交通手段

野組内に商業施設はなく、以前は新屋の経済的中心である多里を利用していたが現在は根雨や溝口を利用している。

小字内における主要な居住域は、国道 183 号線から東に逸れる県道 11 号線沿いの谷間で、特に日野川の支流である若松川と湯河川の二本の河川の結節点付近より 220M ほど川上側にセットバックした場所（県道 11 号線と若松鉦山跡に続く山道の結節点）に立地している。

集落内に鉄道などの公共交通機関は通っておらず、調査中に路線バスなどの存在を確認することもなかった。

○集落の平面構造（図 2-67）

・集落内の神社の位置

湯河集落内に神社はなく、新屋の多里神社を共有していることがヒアリングより分かった。

・集落内の寺の位置

集落内に寺は存在しない。

・集落内の墓地の位置

居住域から南東の湯河川沿いに小規模な墓地を確認した（図 2-67）。



図 2- 67 湯河川沿いの墓地

調査を行った 2022 年 9 月 24 日時点と 2021 年 6 月 10 日時点の航空写真では、墓地へアクセス方法は不明であった。

・耕地と居住域の配置

西側を流れる若松川の東岸に水田が展開され、県道 11 号線の両側を列状の居住域としていた。また、敷地裏手の若松川東岸・湯河川沿いにビニールハウスの設置された畑地を持っている事例が多く見られた。

・公共施設の有無

商業施設などは見られなかった。

○集落の断面構造

・集落内の神社の位置

集落内に神社は存在しない。

・集落内の寺の位置

集落内に寺は存在しない。

・集落内の墓地の位置

居住域から南東の湯河川沿いに小規模な墓地を確認した。集落内は平坦で高さ方向の差異はない。

・耕地と居住域の配置

湯河集落が立地する谷底平野は、東側の若松川と西側の湯河川の二本の河川によって形作られることから、谷間短手方向（東西方向）に平坦な面積が広い。そのため集落内は川上から川下の南北方向に傾斜するのみで、居住域と水田の東西方向のレベル差はほとんどなかった。また個人の敷地内の畑地についても同様であった。

【建築】

○集落内における家屋配置・建築形式の傾向（母屋と付属屋と耕地の関係、建築的特徴（屋根形式・階数）、基礎・構造的特徴、外壁・意匠的特徴）

家屋配置の全体の傾向として、県道 11 号線から奥行 25Mの川下に向かって南北に傾斜する敷地に母屋と 1~2 棟の付属屋を持っていた。母屋は横広の形状でやや大規模で、切妻屋根平入で二階建てのものが多く、また敷地内の道路際に前庭、母屋裏手の余剰地に畑地やビニールハウスを構えている住宅が多かった。また敷地と道路の傾斜した境界には水路が巡らされ、敷地内には水路を渡る橋が設けられていた。付属屋の比率は、土蔵と亜鉛メッキ鋼板製が半々ほどであった。

○詳細調査を行った住宅の家屋配置・建築形式（母屋と付属屋と耕地の関係、建築的特徴（屋根形式、階数、基礎・構造的特徴、外壁・意匠的特徴）

本調査で簡易的な実測を行った結果、湯河の母屋と付属屋の配置関係に一定の法則を見出すことができたため、湯河の代表的な一件の住宅について詳細な家屋配置と建築的特徴を記述する。

母屋は、切妻屋根平入りの二階階建て。壁面は、白壁と一部木板が施されていた。屋根は、赤瓦で鯪（シャチホコ）の装飾が施され越屋根を持っていた（図 2-68）。



図 2-68 シャチホコが施された母屋

また一階正面に下屋を持っており、玄関・縁側は軒下空間となっていた。また、母屋裏手から側面に回り込むように配置された亜鉛メッキ鋼板製の付属屋が母屋と一体になっていた。加えて 2021 年 6 月 10 日時点の航空写真より、母屋の北西に構える入母屋屋根平入りの二階建ての付属屋とも亜鉛メッキ鋼板製の付属屋を通じて一体となっていることが考えられる。

独立した付属屋は、切妻屋根妻入りの二階建ての蔵の一棟であった。（入母屋屋根平入りの二階建てのものに片流れ屋根妻入りの亜鉛メッキ鋼板製の車庫兼倉庫が一体となった建物も確認できたが、上記に通り母屋と一体になっていることが考えられる）

本報告書では、路面側から確認可能だった蔵と、母屋北西に位置する入母屋屋根妻入りの二階建て建物について建築的特徴を追記する。蔵の屋根は赤瓦、基礎と一階壁面がコンクリート造、二階壁面が漆喰壁、一階二階二間に帯状のなまこ壁が施されており、一階妻側に引き戸の開口部を設けている（図 2-69）。また、入母屋屋根平入りの二階建て建物の屋根は赤瓦、基礎はコンクリート造、壁面は亜鉛メッキ鋼板製と考えられる。一階天井高あたりに裳階のような四面を一周した屋根を持っており、母屋や他の付属屋の下屋軒先などと連結することで一体化していることが確認できた（図 2-70）。



図 2-69 蔵の様子

図 2-70 付属屋の様子

以上よりこの住宅は、県道 11 号線沿いから奥行 25M と傾斜に沿った 40M の敷地内で、横広の形状であったが周囲の付属屋と一体になることで L 字型となり前庭を囲んだ母屋と、独立した蔵の計二棟で構成され住宅である。

配置平面的には母屋の側面である南側立面の横に、妻入りの蔵を県道 11 号線を正面として構えていた。また、母屋裏手の湯河川まで 35M の範囲に畑地を構えていた。

配置断面的には、県道 11 号線に沿った緩やかな斜面地に立地しているため、コンクリートの基礎によって平面を確保して斜面方向に横広な母屋を配置している。東西方向は谷間短手方向（東西方向）に平坦な面積が広いとため、レベル差はほとんどなかった。

#### 【考察】

国道 183 号線から集落へアクセスする県道 11 号線は 10 km ほど集落を全く通らない蛇行した山道であることと、湯河集落内で県道 11 号線から分岐する若松鉾山跡へ向かう山道は通り抜けができないため、湯河は交通量が少ない集落であると考えられる。湯河の地形は若松川と湯河川によって形成された幅広の谷底平野であるが、居住域が二本の河川に挟まれていることから集落内で居住可能な領域は見た目以上に狭小であった。そのため母屋は、道路に対し切妻平入で横広な建築的特徴を帯びると考えられる。また敷地奥行きが狭く蔵を母屋の手前でなく側面に配置していることから、蔵へのアクセスが道路側からになっていると考えられる。加えて谷底平野でありながら平坦な土地のため、後天的に水平方向に付属屋を内包した一体型の母屋が散見されると考えられる。

【集落断面図】

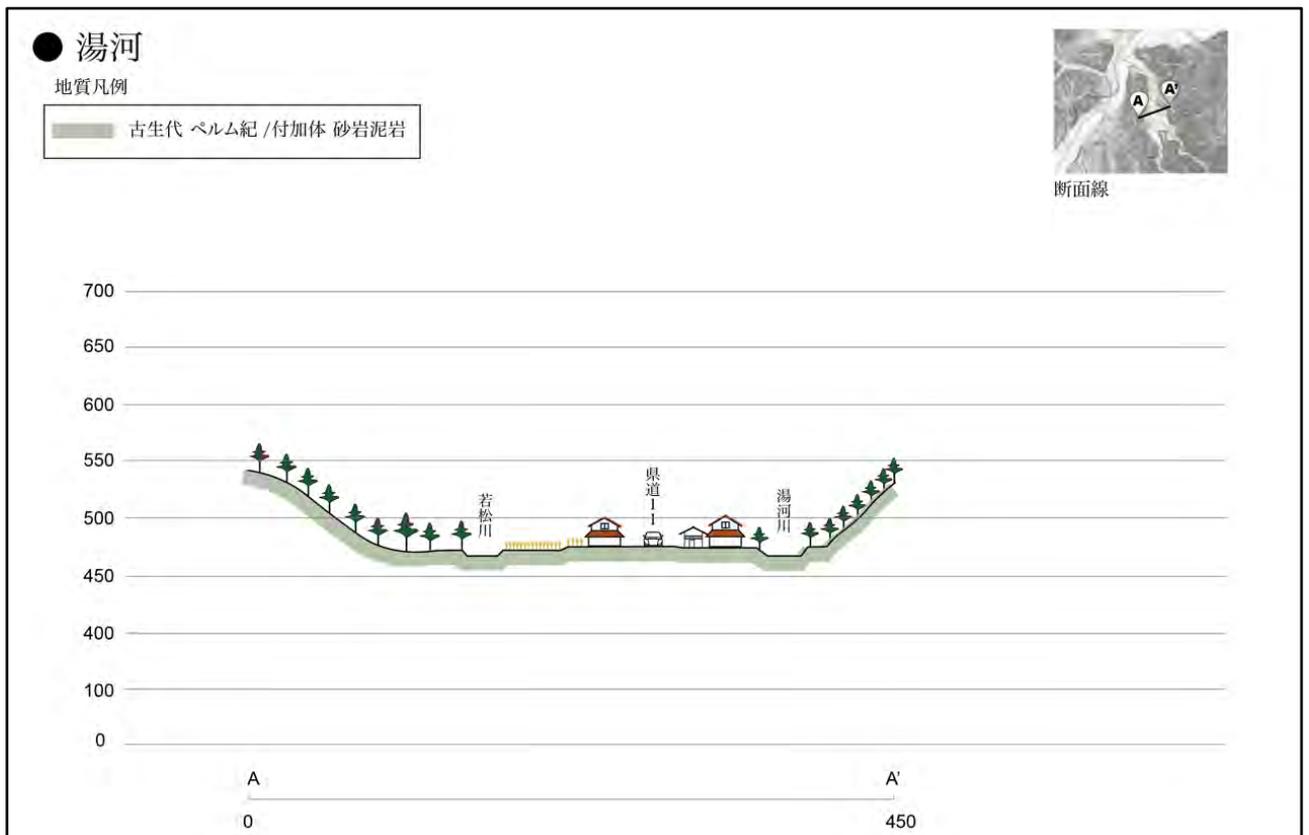


図 2- 71 湯河の断面図

## 伯耆国日野郡新屋村／鳥取県日南町新屋多里

### 【集落構造概要】

#### ○交通

- ・外部からのアクセス

新屋内で国道 183 号線の若松橋を渡ることによってアクセス可能。国道 183 号線から北へ分岐する日野往来へ続く道路からもアクセス可能。多里集落は国道 183 号線と同レベルの標高 430M に位置している。

- ・内部の交通手段

多里内にはいくつかの商業施設があり、以前は新屋の経済的中心であったことが新山・野組・湯河でのヒアリングで明らかになっている。

小字内における主要な居住域は、国道 183 号線と並行する日野川と山際の間である。

集落内に鉄道などの公共交通機関は通っておらず、調査中に路線バスなどの存在を確認することもなかったが、平坦かつ国道に近いので車両での便は良い。

#### ○集落の平面構造

- ・集落内の神社の位置

野組集落内に神社はなく、新屋の多里神社を共有していることがヒアリングより分かった。

- ・集落内の寺の位置

南北を貫く日野往来の両端にそれぞれ常福寺と西方寺がある。特に常福寺は、日野往来の突き当りに立地している（図 2-72）。



図 2-72 集落内の寺の位置

- ・集落内の墓地の位置

常福寺の境内にまとまった墓地を確認した。

- ・耕地と居住域の配置

耕地は日野川を渡って国道 183 号線の東側と山際 사이에水田を展開し、居住域は日野川西側の山際との間を通る日野往来に沿った街路村であった。また、日野川側の一部の住宅は敷地の裏手に畑地を持っていた。

- ・公共施設の有無

公共施設として、多里郵便局、黒坂警察署多里駐在所、日南町消防団多里分団機庫、JAバンクATM、多里地域振興センター、坂倉医院、にちなん中国山地林業アカデミーなどがある。また商業施設として、電器店、酒店、食品店、食堂などがある。

### ○集落の断面構造

- ・集落内の神社の位置

集落内に神社は存在しない。

- ・集落内の寺の位置

特に常福寺は、日野往来の突き当りに立地している。境内の祠へアクセスする 10M ほどの階段は日野往来の軸線上に敷かれていた（図 2-73）。



図 2-73 常福寺境内の階段

- ・集落内の墓地の位置

常福寺の境内の路面と同じレベルにまとまった墓地を確認した。

- ・耕地と居住域の配置

多里集落が立地する谷底平野は、日野川本川によって形作られることから平坦な面積が広い。そのため集落内の居住域と水田レベル差はほとんどなかった。また個人の敷地内の畑地に関しても同様であった。

### 【建築】

○集落内における家屋配置・建築形式の傾向（母屋と付属屋と耕地の関係、建築的特徴（屋根形式・階数）、基礎・構造的特徴、外壁・意匠的特徴）

家屋配置の全体の傾向として、日野往来から奥行 20Mほどの敷地に裏手で付属屋と一体になった母屋を持っていた。母屋は正面が狭く奥に深い町屋型で、切妻屋根平入で二階建てのものが多い（図 2-74）。



図 2-74 日野往来に面した町家の側面

また日野川側では、母屋裏手の余剰地に畑地を構えた住宅もあった（図 2-75）。



図 2-75 日野川沿いの畑地

また日野川側の一部の住宅は、日野川水面にアクセス可能な石造・コンクリート造の階段が設けられていた。建築的特徴として、母屋の正面二階に水平連続窓を持っている傾向にあった。

○詳細調査を行った住宅の家屋配置・建築形式（母屋と付属屋と耕地の関係、建築的特徴（屋根形式、階数、基礎・構造的特徴、外壁・意匠的特徴）

多里では詳細な調査を行わなかった。

### 【考察】

鉱山業で発達した多里は典型的な街路村であり、十数年前までは映画館やバーがあったほど新屋の中心街であったことがヒアリングよりわかった。しかし、調査を行った 2022 年 9 月 24 日時点で人通りは一切なく閑散としていた。このことから、鉱山業のような瞬間的に興隆する産業に依存し生産能力を持たない集落は持続力を持たないことが考えられる。また多里の街路村のような、生産を前提としない集落構造は衰退後から復興することも困難であると考えられる。結果として、昔から生産能力を持ちながら細々と持続してきた新山・野組・湯河の方が、現在も生活の痕跡がみられた。

### 【集落断面図】

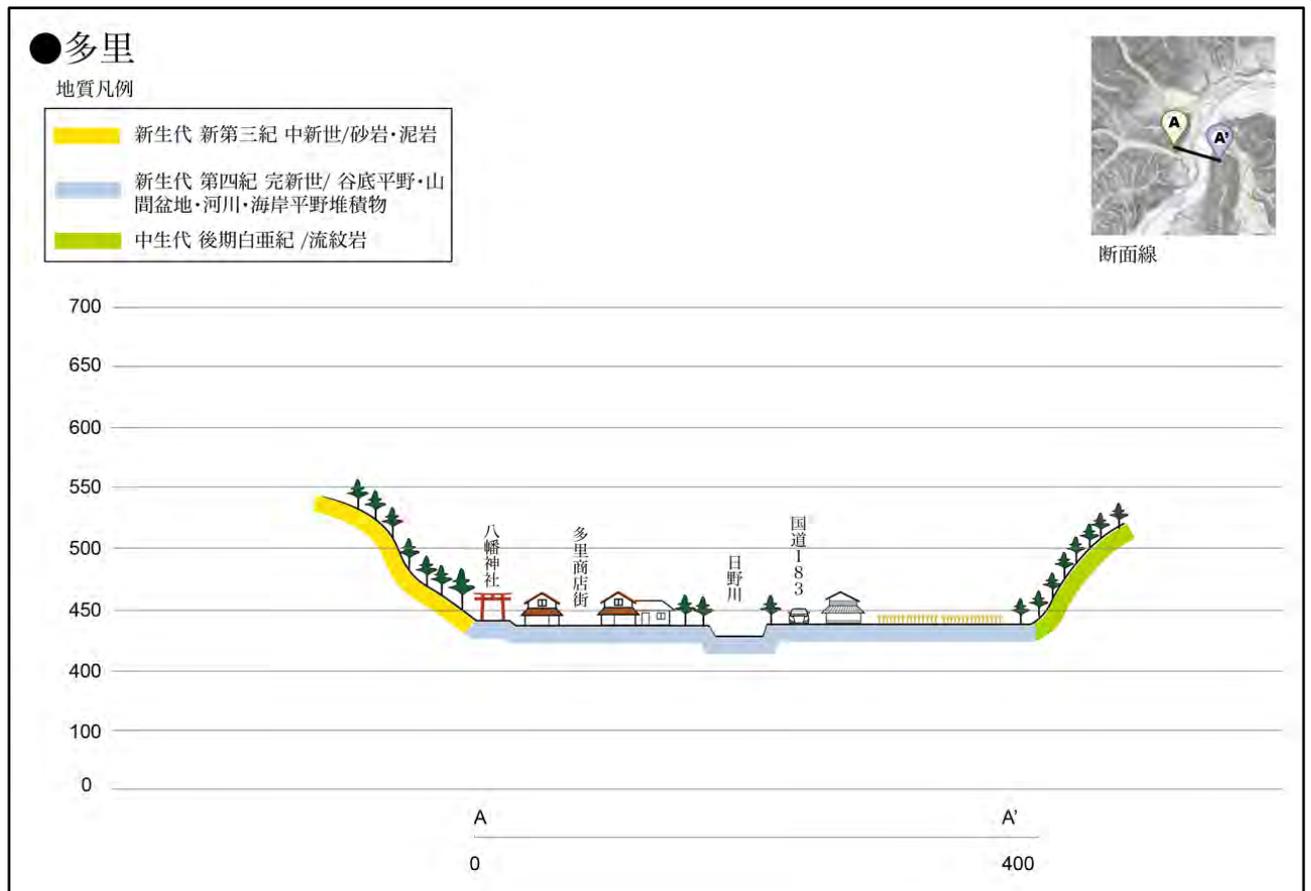


図 2-76 多里の断面図

## 2-9. 根雨

### 2-9-1 地域概要

日野川とその支流板井原川の合流点に位置する。根雨は昔の出雲街道の主要な宿駅であり、寛文年間には渡船場・御茶屋の整備がはかられ、安政3年には宿駅継場として指定された。現在も日野川上流と高梁川上流地との経済中心地である。集落全体は低地に展開された。そのうち既存の街路空間は、かつての宿場のパターンで形成されており、建築に明治時代のスタイルを残している。

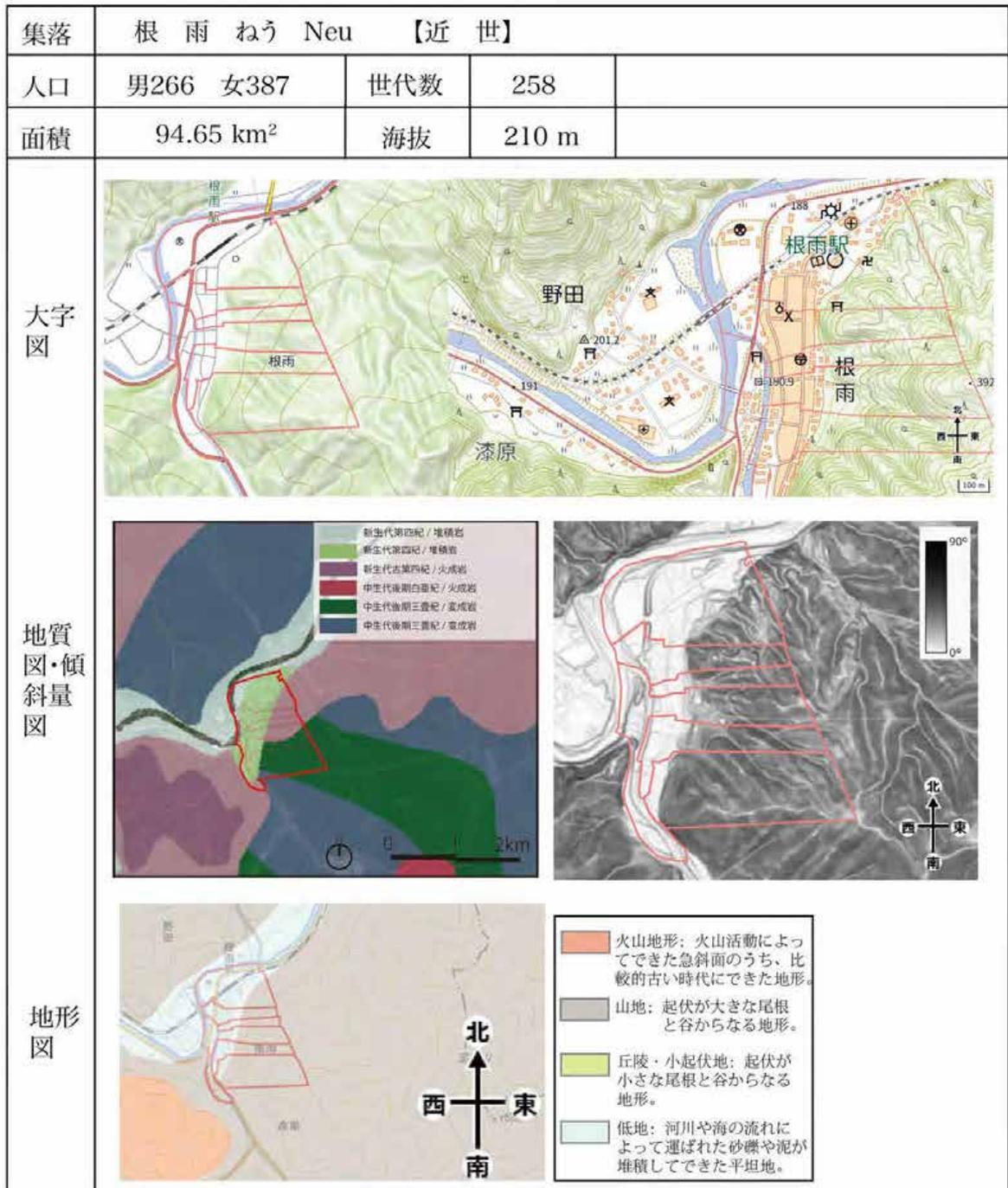


図 2- 77 根雨の集落概要カード

## 2-9-2 インフラ

### (地形)

日野川の上流部右岸段丘堆積物上に位置している。日野川とその支流板井原川の合流点。後背地の斜面は花崗岩（深成岩）及び変成岩で構成されている。

### (水利)

#### 飲み水：

ポンプ式の井戸が確認できた。現在も使われているかは不明。



図 2-78 庭の井戸

#### 用水：

町は2本の道に沿って形成されている。そして、その道の脇には豊富な水を湛える水路がそれぞれ道に沿って設けられている。何軒かの家では水路に接続した生け簀があり、その多くはすでに使われていないが、調査時に一か所だけ現在でも鯉が買われている場所を確認することができた。



図 2-79 水路と鯉の生け簀

現在の水道種別（平成 22 年）：

簡易水道事業（公営）

#### （自然災害）

土砂災害警戒区域・土砂災害特別警戒区域に指定されている範囲を多く含む。街道に沿って分布する民家の多くは前者の範囲内に含まれる。

### 2-9-3 集落の様子

#### 【集落構造概要】

##### ○交通

###### ・外部からのアクセス

国道 181 号線と国道 180 号線の結節点付近などからアクセス可能。国道 181 号線から分岐した出雲街道が集落の軸となった典型的な街路村であり、外部からのアクセスも容易である。根雨集落は全体的に平坦で、国道 181 号線と同レベルの標高 190M 付近に位置している。

###### ・内部の交通手段

大字内における主要な居住域は、日野川と並行する国道 181 号線と山際の間で、日野街道の両側に面している。

集落内には JR 伯備線が通り、日野川が大きく迂回する内側に JR 根雨駅が立地する。その他路線バスなどの公共交通機関の存在も確認できた。

##### ○集落の平面構造

###### ・集落内の神社の位置

日野川と支流の真住川の結節点に位置する、中洲のような地形の先端に根雨神社が立地する。

###### ・集落内の寺の位置

根雨駅南東の山を背にして、延暦寺が立地している。

###### ・集落内の墓地の位置

延暦寺の境内と、出雲街道沿いの史跡「水舟 わき水」付近の山肌にまとまった墓地を確認した。

###### ・耕地と居住域の配置

根雨集落内に耕地は全くなかった。居住域は日野川と山際との間を通る出雲街道に沿った街路村であった。また、個別所有の畑地などは確認できなかった。

###### ・公共施設の有無

公共施設として、日野町公舎根雨宿場町、黒坂警察署根雨駐在所、日野町図書館などがある。また商業施設として、理髪店、食堂、居酒屋、コンビニエンスストア、ホームセンターなどがある。

##### ○集落の断面構造

###### ・集落内の神社の位置

根雨神社は、国道 181 号線と同じレベルに立地している。

###### ・集落内の寺の位置

延暦寺は山を背にして斜面地に立地しているため、出雲街道から 8M ほど高い位置に立地している。

###### ・集落内の墓地の位置

墓地も上記の寺と同様に、出雲街道から 5~10M ほど高い位置に立地している。

・耕地と居住域の配置

根雨集落内に耕地は全くなかった。居住域にレベル差はなく日野川と山際との間を通る出雲街道に沿った平坦な街路村であった。

【建築】

○住宅（平面→断面の順で説明）

・集落内における家屋配置・建築形式の傾向（母屋と付属屋と耕地の関係、建築的特徴（屋根形式・階数）、基礎・構造的特徴、外壁・意匠的特徴）

家屋配置の全体の傾向として、出雲街道に正面が面するような奥行 15Mほどの敷地に母屋を持っていた（図 2-80）。また町家型ではあるが、母屋の正面がそれほど狭くない正方形のプランや長手方向で街道に面する住宅も散見された（図 2-81）。



図 2- 80 出雲街道の様子（左）

図 2- 81 出雲街道に面した町家の側面（右）

母屋の建築的特徴として、切妻屋根平入で二階建てのものが多く、また付属屋は母屋の裏手に構えているものと思われるが、現地調査・航空写真ではその詳細を確認することはできなかった。

○詳細調査を行った住宅の家屋配置・建築形式（母屋と付属屋と耕地の関係、建築的特徴（屋根形式、階数、基礎・構造的特徴、外壁・意匠的特徴）

根雨では詳細な調査を行わなかった。

【考察】

日野往来と出雲街道の結節点、本流日野川と支流真住川の結節点、国道 180 号線と国道 181 号線の結節点に位置する根雨は、過去から現在まで交通の要所であったことから典型的な街路村になったと考察できる。

【集落の断面図】

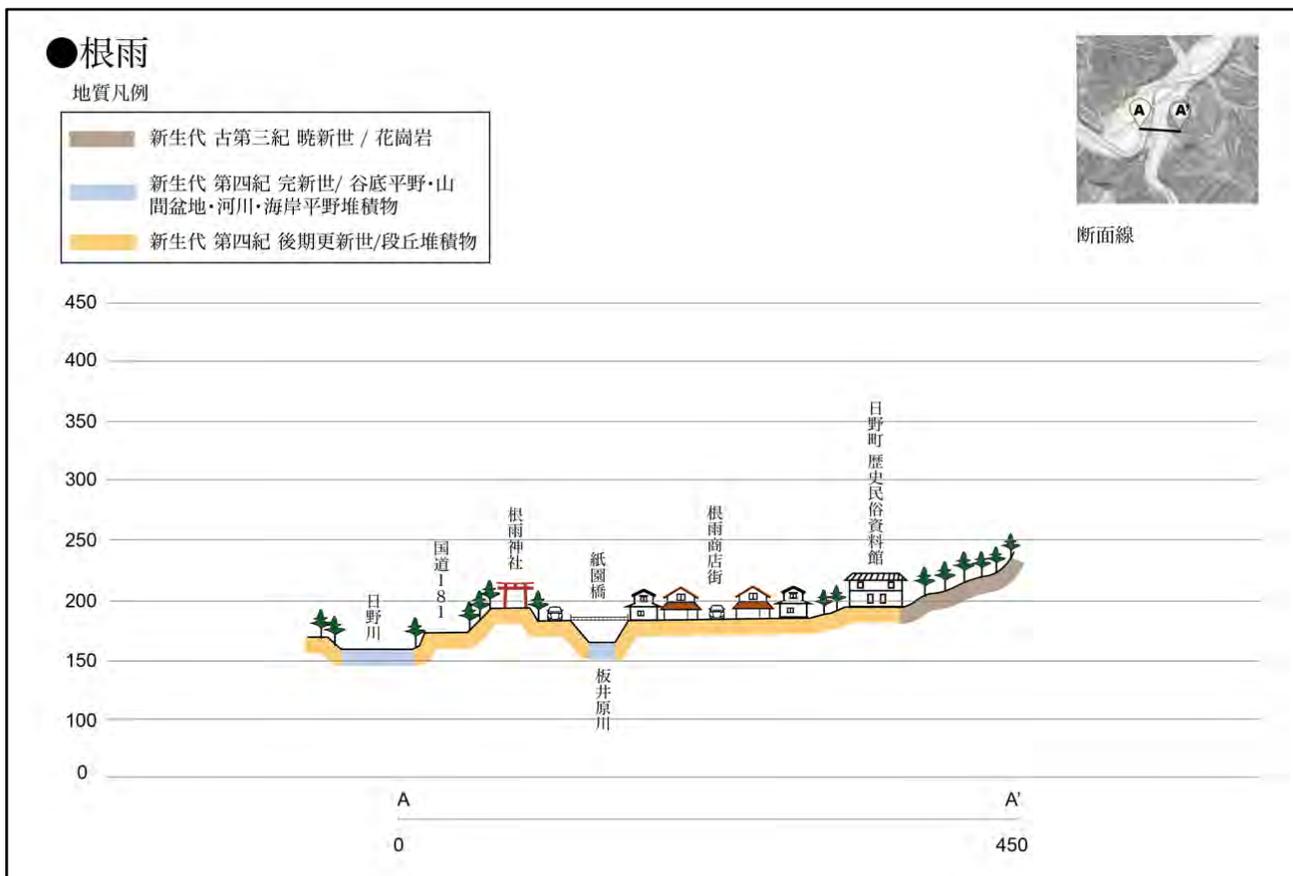
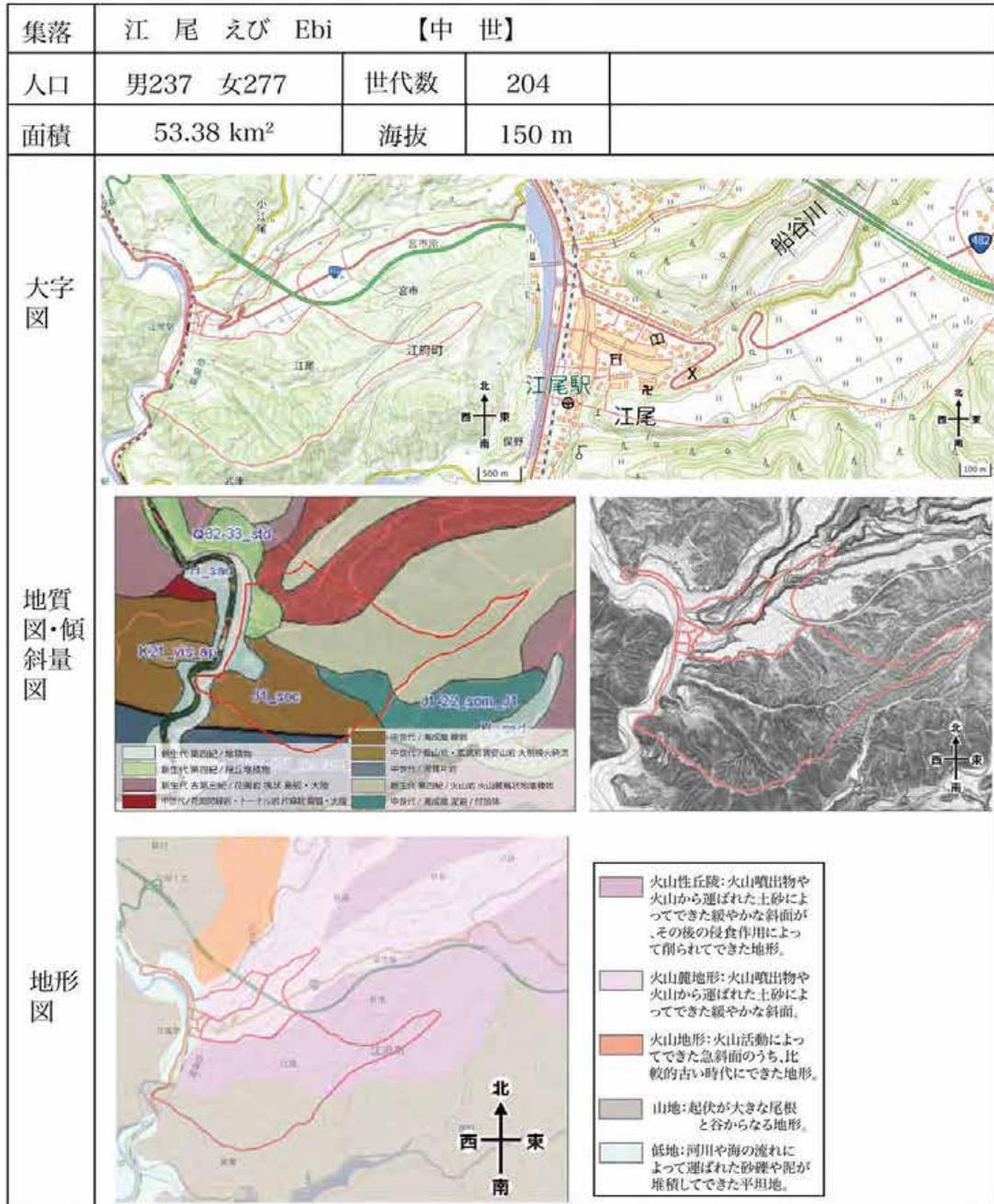


図 2-82 根雨の断面図

## 2-10. 江尾

### 2-10-1. 集落概要

日野川中流域右岸、烏ヶ山を源流とする船谷川が日野川に合流する小盆地に位置する。大山（だいせん）山麓の舌状台地に位置する。自然地形の構成はより複雑で、建物は主に低地部分に展開し、棚田は集落の上にある火山性丘陵と火山麓地形に位置している。昔の備中・備前・備後国と米子を結ぶ物資往来の要路であった。現在も大山下の集落との経済中心地である。



## 2-10-2. インフラ

### (地形)

日野川上流部右岸段丘堆積物上に位置している。烏ヶ山を源流とする船谷川が日野川に合流点。日野川の流れる方向が北へ変わる大湾曲部にあたる。

### (水利)

#### 灌漑用水：

前回の調査で訪れた。T字型の道に沿って民家が立ち並び、水路もそれに沿って存在している。水量はかなり豊富で、大きな音に加え図のような白波を立てながら流れ落ちていた(20220603)。根雨と同じように何軒かの家では水路に接続した生け簀があり、その多くは現在でも鯉を飼っていることが確認できた。



図 2-84 水路の豊富な水量と生け簀

#### 現在の水道種別（平成 22 年）：

簡易水道事業（公営）

### (自然災害)

土砂災害警戒区域・土砂災害特別警戒区域に指定されている範囲を含む。民家はそれ以外の安全な場所 1カ所に集まって存在。

## 2-10-3. 集落の様子

スケジュールの都合上、調査を行わなかった。

【集落の断面図】

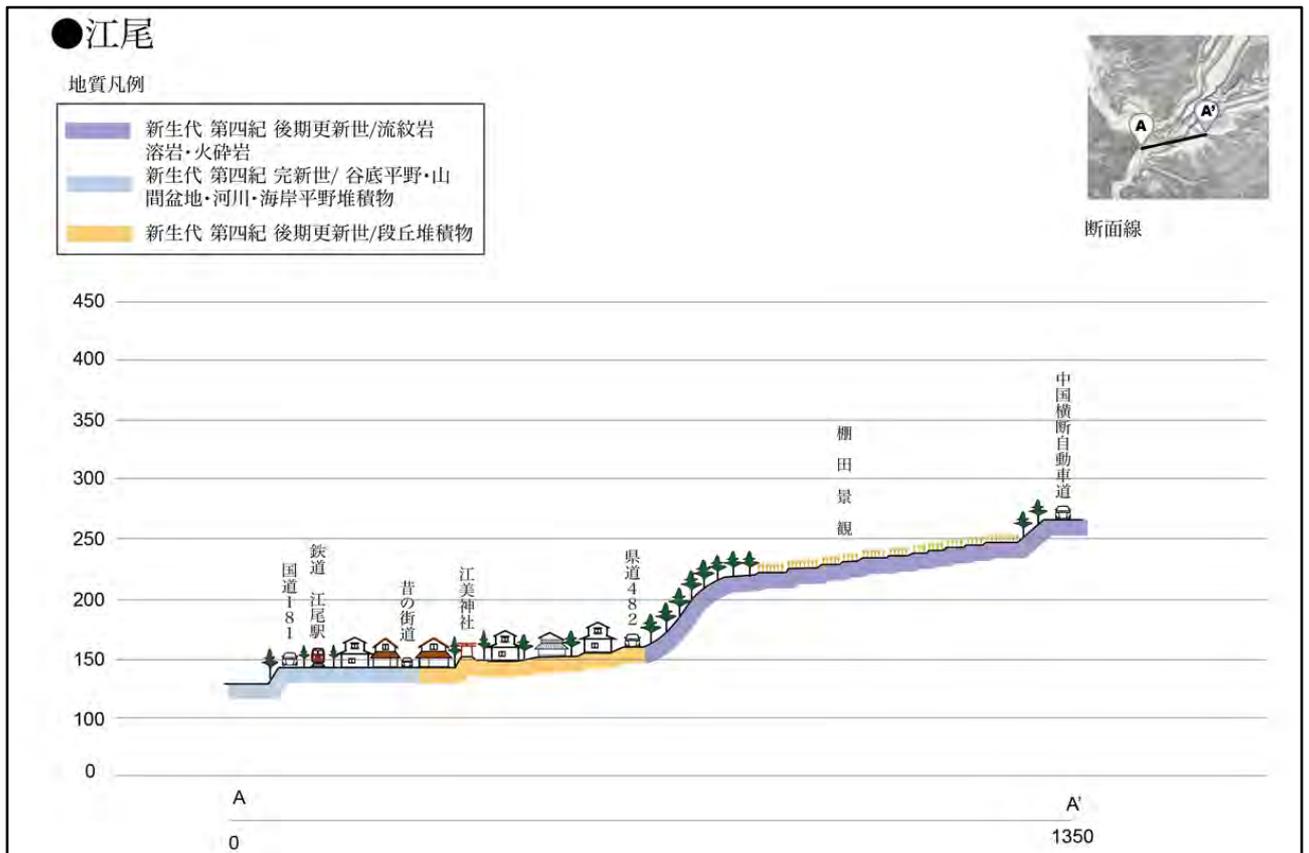


図 2-85 江尾の断面図

## 2-11. 貝田

### 2-11-1. 集落概要

大山（だいせん）南西麓，緩傾斜面が南北を小江尾川・船谷川によって深く浸食された台地に位置する。集落は全体的に斜面地に位置している。建物は集落の中央部に集中しており、集落の上下には斜面に沿って農地が広がっている。集落で使う水は大山から来る。大山の火山灰により形成された土地である。経済的なつながりは主に日野川の江尾と根雨にある。

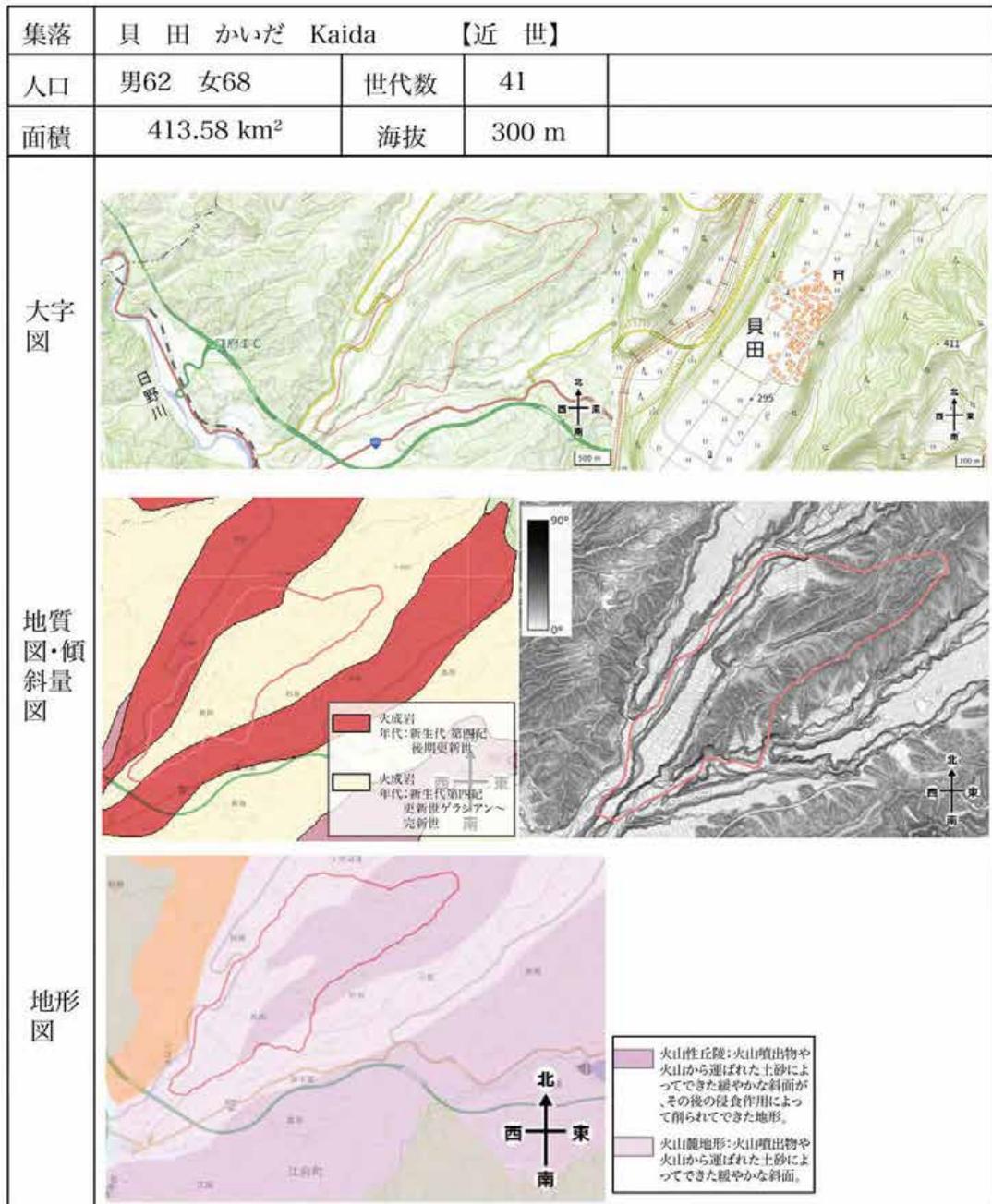


図 2- 86 貝田の地域概要カード

## 2-11-2. インフラ

### (地形)

本集落は大山から延びる「デイサイト・流紋 岩溶岩・火砕岩」・「火山岩 火山麓扇状地 堆積物」の2つの地質帯の上に位置している。この地質帯が広がる当地域では川の侵食によって形成された深い谷とその間に存在する平坦な台地によって構成された地形が特徴的で、田切地形に近い印象を受ける。その中でも集落は台地上に位置している。

### (水利)

#### 飲み水：

(聞き取り)

かつては谷の川沿いに民家が存在し、井戸水を使っていた。しかし、時代が進み、谷水を台地上にポンプでくみ上げることができるようになると、台地上に移り住み、それによって飲み水を賄うようになった。

#### 灌漑用水：

豊富な水を湛える用水路が田地脇及び集落内を流れている。一部の民家では用水路を家の庭に取り込み、池のようにしているところも見られた。

(聞き取り)

この集落のさらに上流にある谷水を灌漑用水路によって引きこんでいる。



図 2- 87 水路とそれを取り込んで作られた庭の池

#### 現在の水道種別（平成 22 年）：

簡易水道事業（公営）

### (自然災害)

(聞き取り)

土砂災害警戒地域ではない。しかし、かつて集落は台地の際の川沿いに位置していたそうで、特に東側のそれは土砂災害特別警戒地域となっている。



図 2- 88 貝田集落周辺の地形

### 2-11-3. 集落の様子

#### 【集落構造概要】

#### ○交通

##### ・外部からのアクセス

貝田は大山の麓の大字で、国道 181 号線を北上し江尾駅の先で東に分岐する小江尾川沿いの県道 52 号線（岸本江府線）に進み、途中の右手の急斜面地を 35M ほど登る山道からアクセス可能（図 2-89）。

江尾駅が標高 148M に位置するのに対して、貝田集落は標高 317M に位置している。



図 2- 89 大山と貝田集落を棚田から望む

##### ・内部の交通手段

大字の範囲は南北に広大だが、大字内における主要な居住域は大字南部に両側の崖に沿って立地する塊村である。

集落内に鉄道などの公共交通機関は通っていないが、集落中央部にある貝田会館前にバス停を確認した。

### ○集落の平面構造

#### ・集落内の神社の位置

本調査では訪れなかったが、貝田集落の北端に貝田神社が存在している。

#### ・集落内の寺の位置

集落内の北東に浄楽寺が存在している。

#### ・集落内の墓地の位置

貝田集落内西端に住居に隣接する中規模な墓地を確認した。

#### ・耕地と居住域の配置

大字内の西側が平野部になっており、南北に 72M の高低差を利用して大規模な棚田が展開されている。この棚田は、「貝田の棚田」と呼ばれ景勝地となっている。居住域はその棚田を南北で分かつように、棚田内にまとまって立地している。また、個人の畑地を持っている事例はあまり見られなかった。

#### ・公共施設の有無

集落内に商業施設などは見られなかったが、公共施設として、貝田会館が集落の中央部に立地していた。

### ○集落の断面構造

#### ・集落内の神社の位置

貝田神社は、斜面上側の集落北端に立地しているため居住域南端と比較して 10M ほど高い標高 315M にあった。

#### ・集落内の寺の位置

浄楽寺の標高は、他の住宅と変わらず同じレベルにあった。

#### ・集落内の墓地の位置

墓地の標高は、他の住宅と変わらず同じレベルにあった（図 2-90）。



図 2-90 貝田集落内の墓地

・耕地と居住域の配置

耕地は、居住域を挟んで南西と北東に位置しており、南西側は全長 740M を標高 274M から 314M の斜度で傾斜する大規模な棚田で、北東側は全長 478M を標高 325M から 350M の斜度で傾斜する棚田であった。

【建築】

○集落内における家屋配置・建築形式の傾向（母屋と付属屋と耕地の関係、建築的特徴（屋根形式・階数）、基礎・構造的特徴、外壁・意匠的特徴）

家屋配置の全体の傾向として、斜面地に張り巡らされた網目状の街路に面するように母屋と 1~2 棟の付属屋を持っていた。母屋は、斜面方向に対して平行に切妻屋根平入で二階建てが多い（図 2-91）。付属屋は、切妻屋根妻入で街路に入口を面して配置されている蔵が多かった（図 2-92）。



図 2- 91 貝田内の母屋の正面（左）

図 2- 92 貝田内の付属屋の様子（右）

建築的特徴として、屋根は瓦、基礎はコンクリート・コンクリートブロック造、一階壁面は木板壁で入口上部に屋根が掛かっており、二階壁面は漆喰壁、軒下に丁寧な装飾が施されていた。また、古くからあると思われる大規模な邸宅の壁材は、木板が多い傾向にあった（図 2-93）。またそのような邸宅は、表面下部に木板が施され上辺が瓦葺の塀で敷地表側を隔てていた（図 2-94）。



図 2- 93 木板壁の邸宅（左）

図 2- 94 木板と瓦が施された塀（右）

○詳細調査を行った住宅の家屋配置・建築形式（母屋と付属屋と耕地の関係、建築的特徴（屋根形式、階数、基礎・構造的特徴、外壁・意匠的特徴）

貝田では詳細な調査を行わなかった。

【考察】

貝田は大山の麓の山頂に向かった傾斜地に立地しており、集落の横を通る県道 52 号線は陸上自衛隊日光演習場や、貸別荘地、キャンプ場、メガソーラーに繋がっていることから、貝田は交通量が少ない集落であると考えられる。貝田は塊村であり街路が狭く住宅が密集しておりかつ、斜面地のため母屋は、道路に対し切妻平入で横広な建築的特徴を帯びると考えられる。

貝田を撮影した 2021 年 6 月 10 日時点の航空写真では、集落の南側は黒瓦が葺かれた住宅が多く、北側は赤瓦の住宅が多い傾向がみられたがその要因は明らかにできなかった。

【集落の断面図】

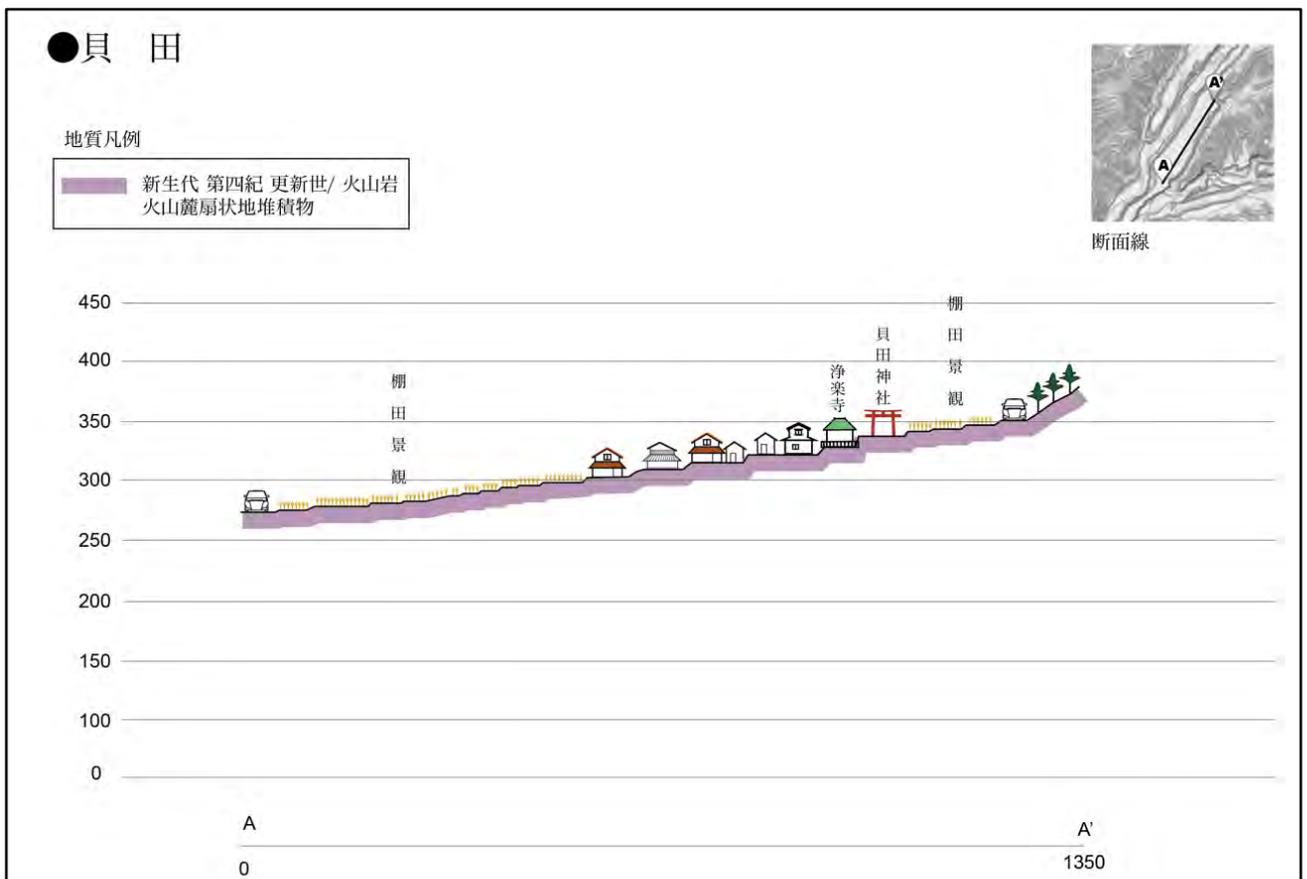


図 2- 95 貝田の断面図

## 2-12. 溝口

### 2-12-1. 集落概要

大山（だいせん）の西に広がったすそ野の端を流れる日野川の中流域の右岸に位置する。昔の出雲街道や日野往来が交わる要路に位置する。集落の全体は、日野川の氾濫平野部に展開する。また、日野川下流域の経済の中心地の一つである。

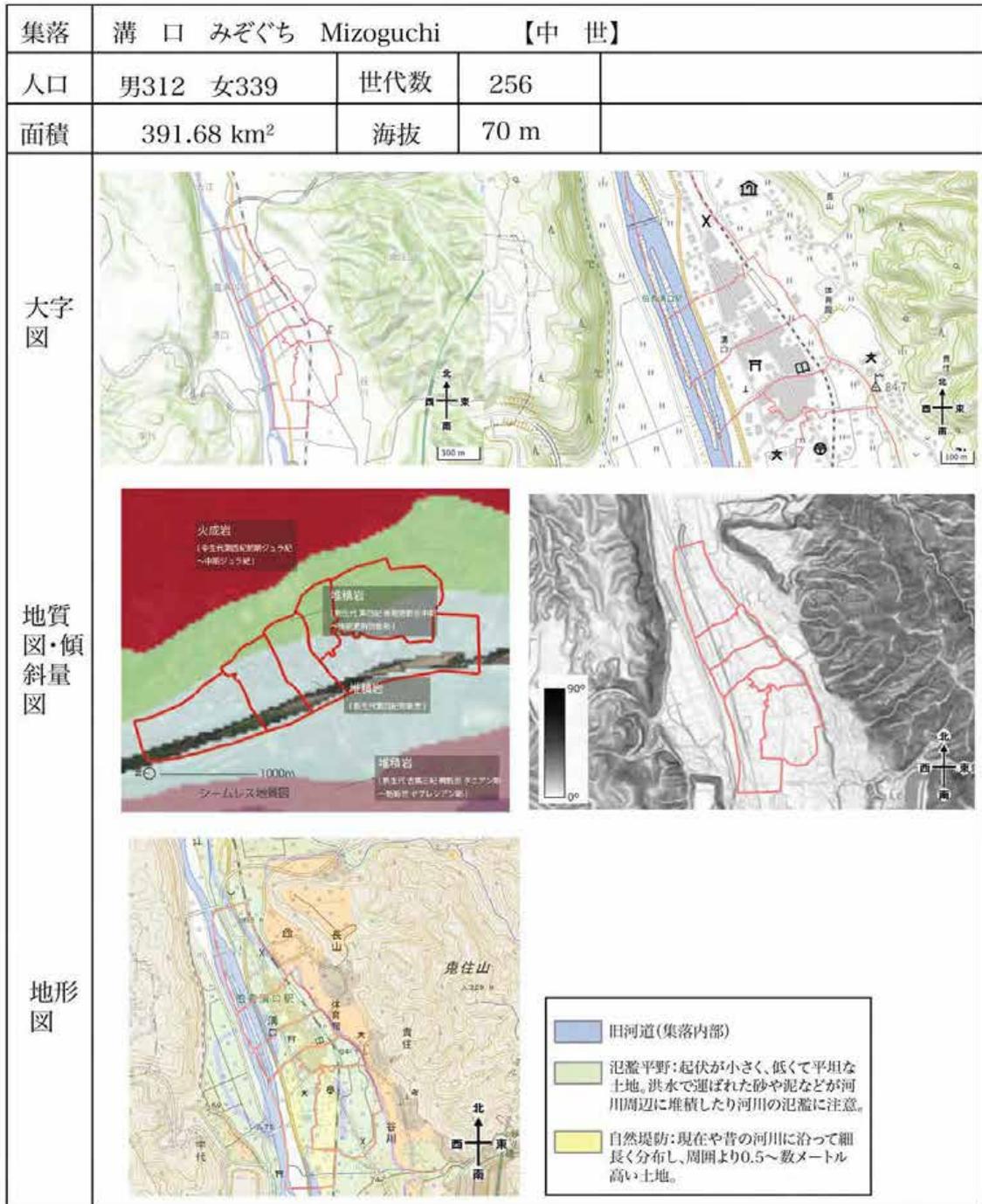


図 2- 96 溝口の地域概要カード

## 2-12-2. インフラ

### (地形)

日野川中流部右岸に位置している。地質・地形は谷底平野と段丘堆積物の 2 つから成り、市集落のほとんどは前者の上に位置している。後背地の斜面は花崗閃緑岩（深成岩）。

### (水利)

#### 灌漑用水：

前回の調査で訪れた。道に沿って集落が形成されており、水路は表通り沿いに設けられている。水量は豊富。

#### 現在の水道種別（平成 22 年）：

簡易水道事業（公営）

### (自然災害)

土砂災害警戒区域・土砂災害特別警戒区域に指定されている範囲を多く含む。街道に沿って分布する民家の多くは前者の範囲内に含まれる。

河川氾濫に関しては 3.0m-5.0m 未満の区域にほとんどが含まれる。（国土交通省 日野川水系日野川洪水浸水想定区域図（想定最大規模）より）

## 2-12-3. 集落の様子

スケジュールの都合上、調査を行わなかった。

・集落断面図

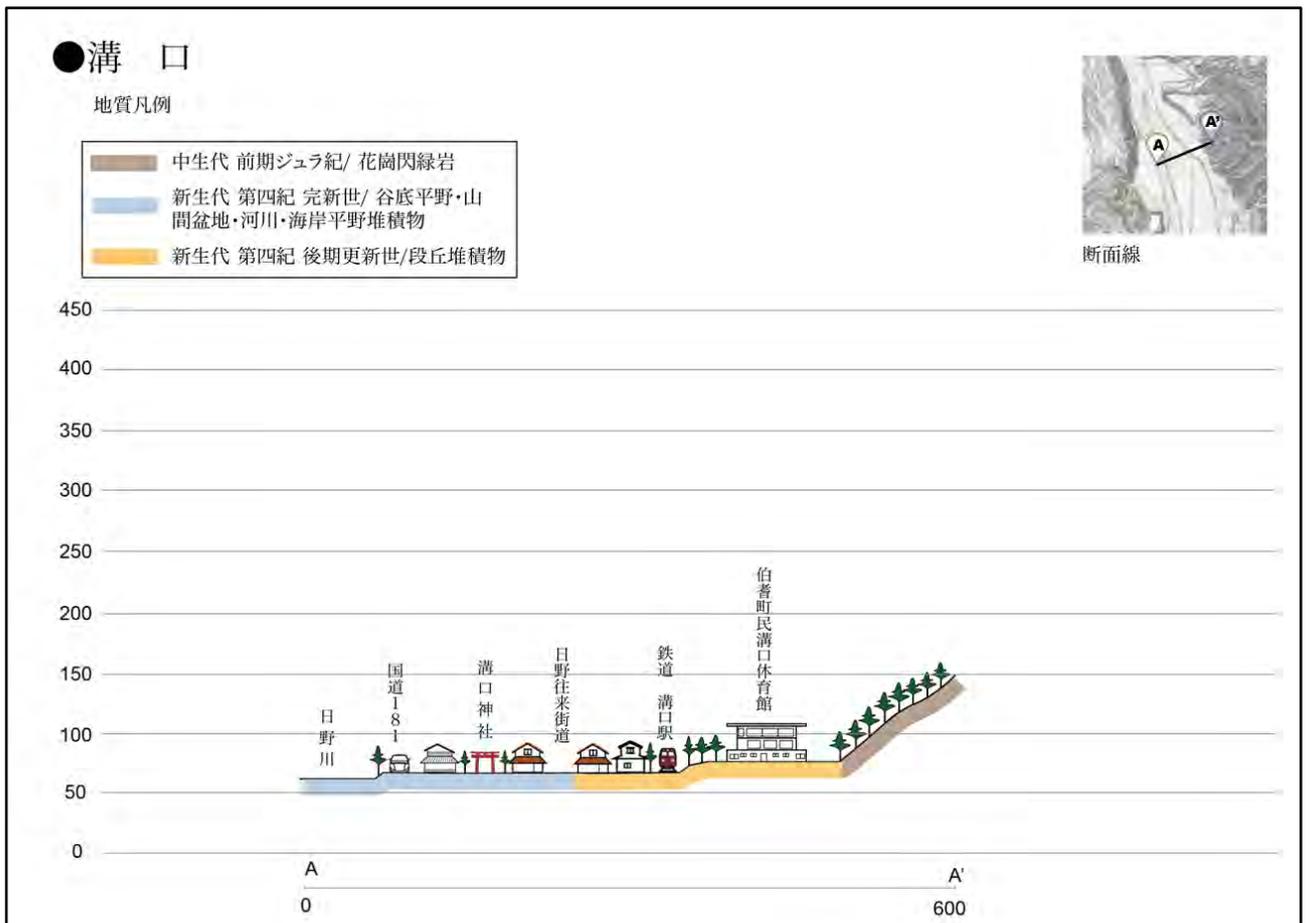


図 2- 97 溝口の断面図

## 2-13. 富吉

### 2-13-1. 集落概要

日野川河口右岸に位置する。江戸期以前は一帯が海岸で、砂堆地が次第に開発された。集落の内部はコンパクトにまとまっており、江戸時代の海岸線の様子を調査の時集落の内部から判断することができる。日野川に近い部分は農地になっており、集落の外側に分布している。

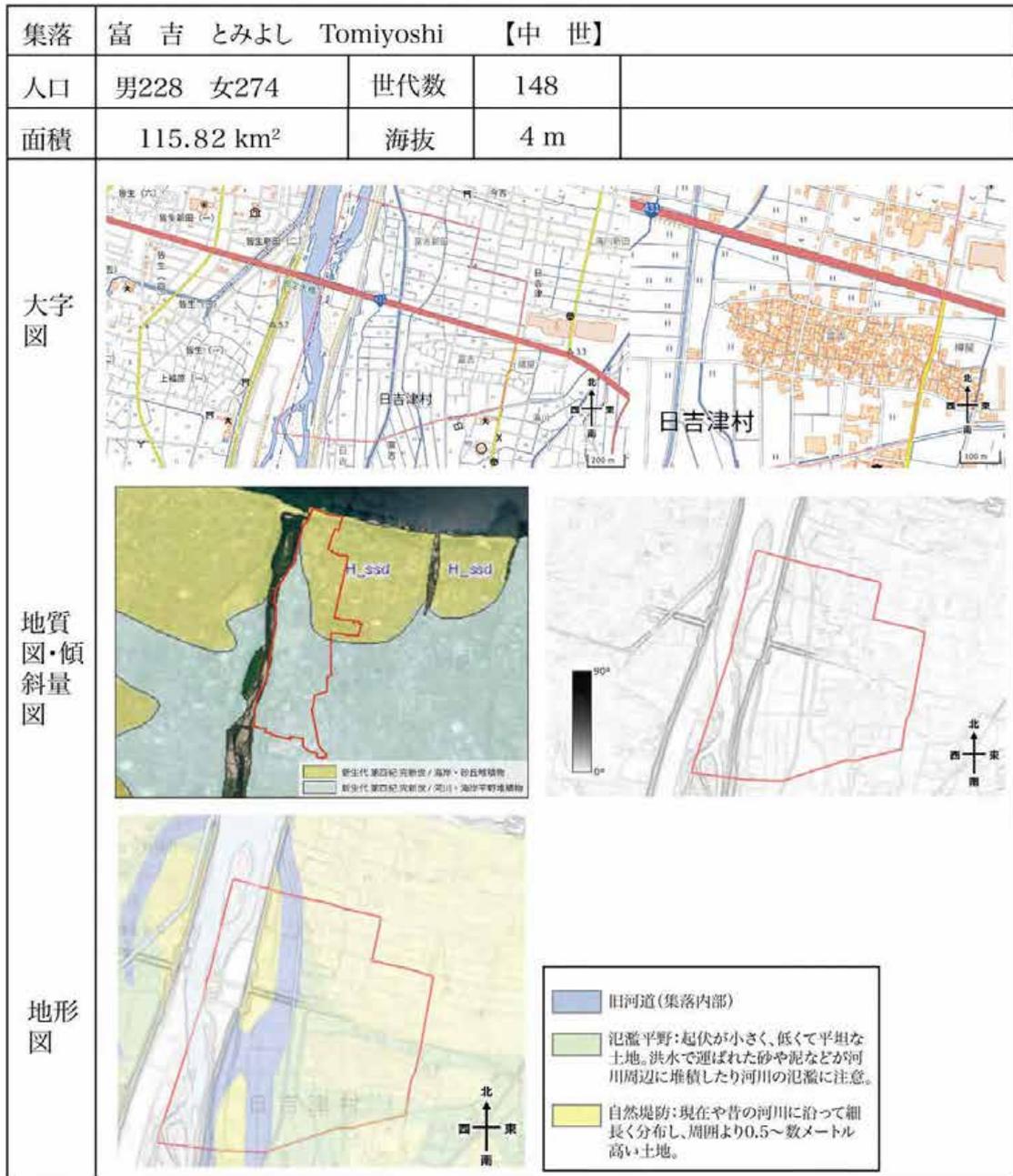


図 2- 98 富吉の地域概要カード

## 2-13-2. インフラ

### (地形)

日野川下流部右岸に位置している。地質・地形は海岸線から扇状地の方向に延びる海岸・砂丘堆積物の扇状地側の端で、集落はそれに沿うように楕円状に固まって位置している（微高地と低地部の境界）。

### (水利)

#### 灌漑用水：

集落の外に水深は浅いが幅の広い用水路が複数本存在している。



図 2- 99 浅く広い灌漑用水路

#### 現在の水道種別（平成 22 年）：

上水道事業

### (自然災害)

河川氾濫に関しては 0.5m-3.0m 未満の区域に含まれる。（国土交通省 日野川水系日野川洪水浸水想定区域図（想定最大規模）より）

津波浸水地域外（津波浸水想定 第 2.1 版（国土数値情報令和 3 年））

## 2-13-3. 集落の様子

### 【集落構造概要】

#### ○交通

・外部からのアクセス

南方を国道 9 号線、東方を県道 262 号線、西方を日野川下流部、北方を日本海に囲まれた大字である。県道 262 号や集落を縦断する国道 431 号線などからアクセス可能。富吉は日野川の氾濫平野に立地しており、海拔 1~7M に位置している。

・内部の交通手段

大字の範囲は南北に広大だが、大字内における主要な居住域は国道 431 号線と県道 262 号線の交わる日吉津交差点の南西に立地する塊村である。本調査ではこの塊村を調査対象とした。以下「集落」とはこの塊村のことを指すものとする。

集落内に鉄道などの公共交通機関は通っていなかった。また集落内の街路は狭く、調査中に路線バスやバス停などの存在を確認することもなかった。

#### ○集落の平面構造

##### ・集落内の神社の位置

本調査では訪れなかったが、富吉集落東端の県道 262 号線沿いに富吉荒神社神社が存在している。

##### ・集落内の寺の位置

集落内に寺は存在しない。

##### ・集落内の墓地の位置

富吉集落内西端に住居に隣接する大規模な墓地を確認した。

##### ・耕地と居住域の配置

西側を流れる日野川の東岸の後輩湿地に水田が展開され、さらにその裏手を東西に長い塊状の居住域としていた。また、個人の畑地を持っている事例はあまり見られなかった。

##### ・公共施設の有無

集落内に商業施設などは見られなかったが、公共施設として、富吉公民館が集落南側の大字領域際に立地していた。

#### ○集落の断面構造

##### ・集落内の神社の位置

富吉荒神社の標高は、他の住宅らと変わらず同じレベルにあった。

##### ・集落内の寺の位置

集落内に寺は存在しない。

##### ・集落内の墓地の位置

墓地の標高は、他の住宅らと変わらず同じレベルにあった。

##### ・耕地と居住域の配置

耕地の標高は、他の住宅らとほとんど変わらず 1~2M の範囲で同じレベルにあった。

#### 【建築】

#### ○集落内における家屋配置・建築形式の傾向（母屋と付属屋と耕地の関係、建築的特徴（屋根形式・階数）、基礎・構造的特徴、外壁・意匠的特徴）

家屋配置の全体の傾向として、それぞれの住宅が 1~2.5M ほどの生垣や塀で囲んだ敷地に母屋と複数棟の付属屋を持っていた。母屋は切妻屋屋根平入で二階建てが多い。また、古くからあると思われる大規模な邸宅の屋根は黒瓦で、壁材は木板が多い傾向にあった。またそのような邸宅の塀はコンクリートブロック造ではなく、表面下部に木板が施され上辺が瓦葺であった（図 2-100, 101）。



図 2- 100 (左) 図 2- 101 (右) 木板と瓦が施された塀

さらにそのような邸宅の付属屋は、敷地の角に基礎を0.3~0.5Mほど上げて構えられており、水屋のような機能があるのではないかと推測できた。また敷地内に家屋と生垣・塀で囲んだ庭を構えている邸宅が多かった。

○詳細調査を行った住宅の家屋配置・建築形式（母屋と付属屋と耕地の関係、建築的特徴（屋根形式、階数、基礎・構造的特徴、外壁・意匠的特徴）

富吉では詳細な調査を行わなかった。

#### 【考察】

富吉は塊村であり街路が狭く住宅が密集しているが、それぞれの敷地は視線の通らない塀や生垣で囲われており閉鎖的な印象を受けた。富吉を撮影した2021年6月10日時点の航空写真では、集落の東側（県道262号線側）に黒瓦が葺かれた庭付きの邸宅が多く、西側（日野川側）には赤瓦の住宅が多い傾向がみられたがその要因は明らかにできなかった。また平野部の集落であるにも関わらず、母屋が水平方向に拡大し付属屋の機能を内包することなく、それぞれの建築が敷地内で庭を囲むように分離している要因に関しても考察の余地があると考えられる。

【集落の断面図】

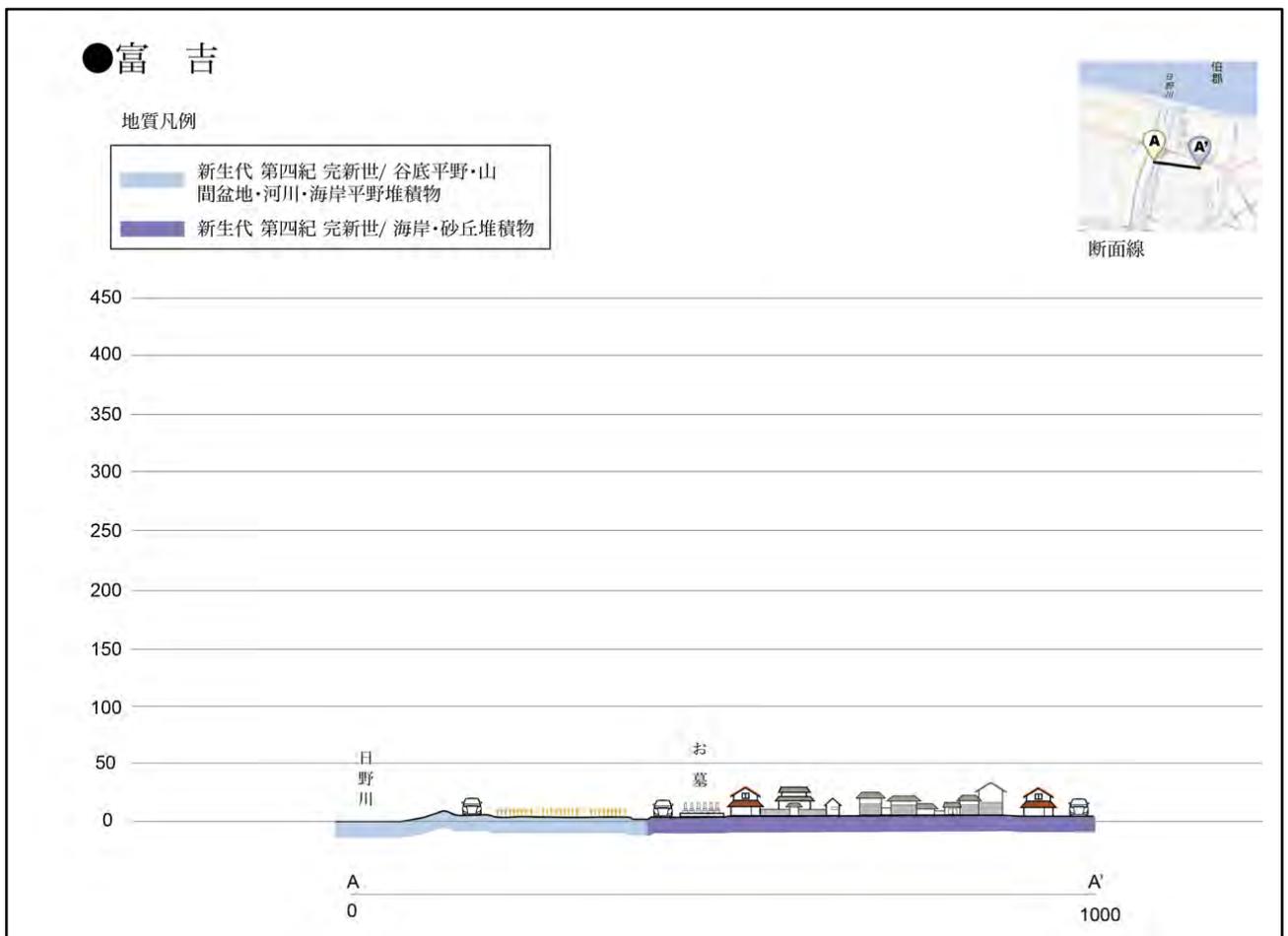


図 2- 102 富吉の断面図

## 2-14. 聞き取りカード

場所	新見市 井倉：井倉野
時間	金曜日 2022.09.23 21:26・27mins
対象	男性 65歳
内容	<p>・いつくらいに茅葺屋根を瓦に変えましたか？  いつくらい小学生の頃 40年くらいもう、僕が28年生まれの30歳。昭和40年。黒い瓦がタバコの乾燥小屋。昭和58年に親父が死んでタバコをやめた。他の家より早くやめたが、そのうちタバコ産業だけじゃダメになって、ピオーネに変えた。平成くらいのこと。</p> <p>・この畑は全部タバコだったんですね。  斜面になっているところは全部タバコ畑。  この集落をよくここを知っているな。もうここへ上がってきたら降りるしかない。</p> <p>・いつくらいからこの集落はありますか？  それはわからないけど墓は古い。</p> <p>・石灰岩がたくさんありますね。  ここの産業になっている。井倉地域の産業。日鉄工業やそれに関連した小さい会社がある。掘った石を焼いたり加工したりという会社がある。</p> <p>・ここの集落からそのような会社に勤めている人はいますか？  60歳くらいの方は働きながらピオーネ作っている。退職した人もピオーネ作っている。</p> <p>・この村の人数はどうですか？  ここ最近減った。ここ10年くらい前までは僕が小さいときに21件あった。ここ10年くらいで15、16件になった。昔は松茸も取れたのもっと収入があった。今は生えないから働きに出ながらピオーネをやっている。だからある程度裕福。これらの草は荒れているように見えるけど牧草なんだ。刈ったら綺麗になる。</p> <p>・田んぼの水はどこから引いていますか？  この向こうの山。ダムにしてそこからパイプで引いている。バルブを捻れば出る。農業用水は村のみんなが管理している。</p> <p>・飲み水はどうしていますか？  飲み水は新見市の簡易水道。井戸はない。合併浄化槽。</p> <p>・この策は何のためにありますか？  この電気の通る柵は猿対策。全部地域を囲っているが、最近あまり来なくなった。使い水をここに貯めている。屋根の水をパイプで伝わっている。雨がよく降るから満タンになる。</p> <p>・この材木はどこのものでしょうか？  私有地の木を切って使っている。個人の山にいろいろ材料がある。</p>

場所	新見市 千屋井原
時間	木曜日 2022.09.29 17:35・31mins
対象	女性 80代
内容：	<p>・この辺りの田んぼは、ご自身で耕しているんですか？ 全部この部落のものだけど、高齢化して人に頼んでいるものが多い。若いお宅は、まだ自分でやっている。</p> <p>・昔の茅葺き屋根の形が残っている家はいくつかありますが、もう人は住んでいないのですか？ 茅葺き屋根の家も全部人が住んでいる。トタンを被せて修理をしているので綺麗でしょう。</p> <p>・この部落は他より部落よりも昔からありますか？ 全体的には同じような感じです。</p> <p>・この部落には国氏神社というお祭りがありますね。そこではお祭りとかはありますか？ あります。年末に年を開けるのに拝むのと、4月の第1日曜日に春祭り、10月の29日に秋季大祭3、年に3回ある。 あそこに門のところに付けるしめ飾りも昔は太く立派だったが、コロナの影響で、3年ぐらい前から密になって何人かで組んで締めを飾ることができなくなって、1人でできるぐらいの細いしめ縄になってしまった。</p> <p>・昔は神輿とかもありましたか？ やりました。子供もたくさんこの部落にいたから、小学校も昼までに帰ってお祭りに参加していた。何年か前は軽トラックに乗せて部落を走ったんですけどここ何年かは出てないですね。</p> <p>・この辺りの方は、この部落内で自給自足をしている訳でなく、働きに家を出るわけですよね。どの辺りで働いていますか？ 新見市内ですね。中学高校も統合されてバスで新見に通っている。新見高校があるんだけどそこも、自分のやりたいことのために他の地域の高校に通っている子もいる。</p> <p>・ここでは生活に必要なものを買うときは、新見市まで行きますか？ 我が家が一軒お店があるんだけど、お店もそんなに大きくないし、品揃えもあまりないから、新見か米子に行く。根雨のスーパーにも行く。生協が1週間に1回だけ、行商に上がってこられる。</p> <p>・冬は雪が結構降りますよね。そういうときのちょっと壊れた部分の補修とかは自分たちでやったりするんですか？ 自分でしたり大工さんに頼んだり、こういう農業の道具とかもホームセンターとか農協で購入している。</p> <p>・ここの部落の方は千屋神社には行きますか？ 行かないですね。ここの人は氏神様が国氏神社だから。出雲大社や鳥取県の竹内神社に行く人はいる。 ここの井原地区は穏やかな人が多い。人付き合いもやりやすい。</p>

対象：集落内に住む女性（80代）のお隣に住んでいる女性（80代）

家の前の井戸を見せてもらいながら、聞き取り。

・自然災害の影響を受けることはありますか？

雨が降ると、水が大川のようにずっと上から流れてくるし、田んぼの水も出てくるし、ずっと裏にも田んぼがあるから裏から水が回って来て水責めにあう。

・水が豊富なんですね。

そうです。なので大体皆さん、井戸掘っておられます。

・この井戸はいつ頃掘ったんですか？

だいぶ昔、いつごろ掘ったか。ちょっとよく覚えてないけど、ここの建設業へ行かれた若い方が、仕事から帰った合間に掘ってくれた。

・お母さんはいつからここに住われているんですか？

私は昭和38年の3月にここに嫁にきました。花見から来ました。

・この辺りは集落内で呼び方が違ったりしますか。例えばそこに家が何軒かあるんですけど、何か呼び方はありますか？

家に屋号がついています。苗字以外に、一軒一軒名前がついています。屋号は今あまり言われませんが、だいぶ前ぐらいまでは、使っていた。私は家のまえに大宮があるから宮ノ前。

・この辺りは昔たたら製鉄をやっていたんですか？

この山の奥の方で小さい規模でやっていたことは知っているけど、私がここに来たときにはやっていなかった。

・この家は元々は茅葺きでしたか？

はい茅葺きでしたが、建て替えて20年くらい経ちます。元の家は築300年ぐらいでした。こ柱を立てるところに大きな石があって、屋根は竹で組まれていた。

・建て替えた1番の理由は何ですか？

中の建具の規格が合わなくなった。こまめに修理するより思い切って建て替えた方がいいよと大工さんに言われ建て替えた。

・地盤はどうですか？

湿気が多い地域なので、特に家の裏は湿気が多く地盤が下がることもある。

・その相談しに行った大工さんはどこら辺の地域の方ですか？

新見に住んでいた人です。今は違うところに住んでいる。

・この家の前庭はもともと畑でしたか？

そうです。長男の孫が生まれるときに車を止める場所がないので、畑を潰して車庫にしました。

・この真砂土を庭に撒いている家が多いなと思ったんですけど、それは元々畑の土の上にホームセンターとかで買ってきた土を巻いているんですか？

山を崩してこういう土が出るところがあるんです。そこから運んで来てもらって、これ大水出たらみんな流されるんですけどね。この家の裏に長崎板金さんがあってその大工さんに頼んで土を運んできてもらっている。大雨が降ったときここが大川になる。この家を守るためにこういう肥料を20キロくらい並べて置いておいても、水の圧が凄くて全部流されてしまう。あそこの向こうに橋げたがありますよね。表面にコンクリートで厚みを堤防のようにつけているが、そこまで水が乗る。

・洪水が起こるんですね。

そうなんです。

・雪は降った時はどうしていますか？  
 市の人が委託して除雪してくれます。  
 一晩に 30-40cm 積もるのは当たり前だった。最近はそんなに降らない。

・昔はスキー場がありましたよね。  
 ありました。親戚の人がやっていたので手伝いにいきました。この人も旅館をしていたし、民泊をしていた人もいた。お客さんもたくさん来た。そういう時代もあった。  
 花見にもスキー場があるが、交通の便が悪く道幅も狭い。だんだんと廃れていった。林業の盛んな時もありました。ここに嫁にきてから、あそこの高い山に木の植えつけにいきました。

場所	新見市 千屋花見
時間	木曜日 2022.09.29 17:35・21mins
対象	男性 65 際
<p>内容：</p> <p>・いっぱい石が出てますね。          この石垣は、たたら製鉄でほった山で出た石ですね。石組みは明治時代。100 年前の機械がない時代に作った。山の奥から水路をずっと引っ張っているけど、三面石積み。1.5 キロある。水は湧谷が源流。</p> <p>・この辺は農地解放の時に埤田さんのものになったエリアですか？          ここは元々天領なんです。全部石垣の 10m あるでしょう。明治時代に入り、先祖がもうものすごい借金して、こういう石垣を作った。古くから自作農をしている。</p> <p>・集落の他の人はどこの水を使っていますか？          今はみんな井戸水だけど昔はみんなこの川の水を使っていた。</p> <p>・酪農をする前はお米作っていたんですか？          私は、学校出たのが昭和 54 年。獣医の大学。地元の農協に 10 年勤めて、平成元年に牛飼いを始めた。父や祖父は牛飼いだっただから牛は元々いたが、私が牛を増やした。</p> <p>・ここ地域の産業はどう成り立っていますか？          千屋は今は世帯数 400 件を切っている。花見だけで世帯数 70。牛を買っているのは花見では、2 件だけ。20 年前なんかは 40、50 件とあった。みんな大体 5 頭は飼っていた。</p> <p>・この牛は繁殖牛ですか？          そう。繁殖牛だったが、今現在は 9 割肉になっている。30 年 40 年前は、9 割がた繁殖牛として日本全国のところに行っていた。</p> <p>・牛を飼う前にこの地域の経営をどうやって立てようかいろいろあったと思うんですけど、それ以外の産業で何か発展したものはありますか？          いや、ないです。多分、昭和の戦後昭和 30 年前 20 年の後半 30 年、この地区の夏場の仕事を言うたらもう、お米、冬場の収入は炭焼き。他に収入は多分ない。だから、山を買うんです。夏場なんかは、あそこへ簡易の 1 回きりの炭焼き窯を作るんです。ただ火事があるから沢があったり水が流れている場所の方が良い。</p>	

良い墨は 1 時間燃やしても灰になるならない。だけど趣味とか男のロマンでやっ  
てるから、どんどん売ろうなんて考えてはいない。  
・今は商品としては残念ながら流通していないのですね。  
固定客はいる。表千家、裏千家、あそこは冬場の木が休んでいるときのクヌギで  
ないと使えないんでそれを焼いている。普通の値段の 10 倍の値段で売れる。牛の  
墨も誰かに伝承しないといけない。  
・峠田さんの息子さん娘さんは今はどうしていますか？  
息子は獣医で今一緒に住んでいる。まだ 30 代で若いから炭焼きには興味がない。  
暖も取れるし、電気などインフラがストップした時に、役に立つと思うんだ。

場所	神戸上
時間	木曜日 2022.09.29 17:34・14mins
対象	集落内にて雑草を処理していた女性
<p>内容：</p> <p>・ここは神戸上ですか？ そうです。かどのうえです。</p> <p>・これは野菜ですか？ これはもう固くなって食べれないし、牛にあげる。その隣の隣が和牛を何十頭も飼 っている。山で遊ばせている。花見山がスキー場だったんだけど、ここ 4,5 年か な、中止になったんですよ。スキー場の跡が見えます。奥さんが水仙の球根を植 えられて綺麗だった。やっぱり人口が少ないから。日南町いま 4000 人ちょっとし かない。神戸上はざっと 80 軒くらいしかない。</p> <p>赤い瓦の建物があるでしょ。あれが金比羅山。 ・牛はこの集落では飼っていないのですか？ 民家のそばでは飼えなくなった。だからその牛舎にはもう牛はいない。その 人（隣の家の牛を飼っている方）のお爺さんの代にはいた。今は山で放牧してい る。夜は牛舎に入れる。</p> <p>・雪はどのくらい積もりますか？ 1m くらいかな。窓が 2 階から見えなくなる。業者さんに除雪してもらおう。ブルド ーザーがくる。</p> <p>・若い人はどうしていますか？ 大学進学で遠くへ行って帰ってこない。なかなか帰る気がないようだ。リタイヤ して戻ってくる人はいる。</p> <p>・北側に川が流れていて、川の両脇に水田があって、そこからちょっと上がった ところに畑と家がある認識ですか？ そうですね</p> <p>・かんな流しはありましたか？ ここはなかった。この道路に入る前の三叉路の向こう側の山がかんな流しだっ た。中石見ってところがずっと昔からやっていた。</p>	

場所	野組
時間	木曜日 2022.09.29 17:35・9mins
対象	家の前を掃き掃除する女性（80代）
<p>内容：</p> <p>・すごく綺麗な田んぼですね。ここの田んぼはどなたが作られているんですか？ ここの田んぼは作ってもらっているんです。ここに住んでる人が作ってるわけじゃないんですね。私どもね。あちこちの手だけあちこち田んぼが出たよ、それも人にもあるしね。 そうですね。こっち、後からさ全部人に作ってもらったんですよ。</p> <p>・その人っていうのは、新山の人たちじゃなくて、どこら辺の人ですか？ うんそうそうそう。新山の方の人は新山の方の人でね、ここはこの人。生産組合に頼んだりいろいろですよ。 ・何世帯ぐらい住んでらっしゃいますか？お家は何件ぐらいありますか？ 8世帯くらい。</p> <p>・昔はもっとありましたか？ いや一緒です。一軒なくなりましたが。新山の方では昔は30件ぐらいあって、あっちこっちから人が来てよっておられた。ここは黒瀬鉾山があって、地元の人だけそこに働きに行かれていた。</p> <p>・昔はここでは鉾山に働きに行く人とお米を作る人がいたんですね。 朝早くから鉾山に働きに行って4時頃には帰って農業をしていた ・かな流しとかってありましたか？ 昔はあったけどどんなことをしていたかはわからない。</p> <p>・買い物はどこでして今ますか？ 生協で注文すれば持って来てくれる。週に一度魚屋さんも来る。 ・ここは雪は降りますか？ 降りますよ、38年の豪雪は大変でした。</p> <p>・野組に住んでいる人と新山に住んでいる人で交流はありますか？ 交流はあまりないですわね。親戚があれば多少の付き合いがあるかも。 ・野組には神社がないですね、近い神社は多理神社ですか？ そうです。自治会があってそこに集まっている。 ・すごく水が綺麗ですね。 昔はよく水がきよったけど今は少なくなりました。</p> <p>・昔は生活用水は山からの水を引いていましたか？ 新山の奥の方から引いた水道を私らも飲んでいる。新山のほうに水源地がある。</p>	

場所	湯河
時間	木曜日 2022.09.29 14:21・7mins
対象	集落内を歩いていた 80 代くらいの女性
<p>内容：</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・空家がありますか？ 家が無くなったところもある。空家が 4 軒、5 軒ある。</li> <li>・田んぼとかはやられていますか？ 歳をとってしまったので、みんな人に頼んでいる。</li> <li>・畑はどうですか？ 畑は少しやっている。自分で食べる分とか。</li> <li>・鉱山はありましたか？ 多里に二つありました。ここずっと奥行ったところと、あの大きな道路をずっとこっちに行ったところ。私らも鉱山で働きました。</li> <li>・鉱山でどんなお仕事されたんですか？ 男も女も一緒でした。ちょっとしたことを直したり、鉱内にも入ったり。鉱石が出なくなったら今度は舞茸を作ったんですよ。それを鉱内で作って最後はそれでしたね。</li> <li>・このあたりの方はみんな鉱山で働きましたか？ 専門で百姓やってない人は大体働きに行った。だから今はもう年金の人が多い。鉱内で働いた人は特別な年金があるみたい。 昔は鉱山があったから賑やかでした。映画館があったり、飲み屋があったり。だんだん寂しくなった。</li> <li>・若い人はいますか？ 若い人は少ないですね。子供がいないですもの。</li> <li>・別の集落との交流はありますか？ あります。婦人部とかいろいろあってね。今はあまり活動してないけど、若いころはあった。</li> <li>・神社はありますか？ 多里神社があります。もうすぐ 11 月にお祭りです。</li> </ul>	

場所	貝田
時間	2022.09.29 14:19・24mins
対象	集落内作業をしていた 50 代くらいの男性
<p>内容：</p> <p>・水道施設がありますか？ 前は集落で水道施設作って、今は全部町に借り上げになっている。</p> <p>・昔使われてた水道施設っていうのは、湧水から水を集めていたんですか？ そうですね、向こう側の谷の川の湧水かな。それを上のタンクまでポンプアップして、それから自然流下で…それでやっぱ施設が古くなってくる。あとお金がかかるし、整備も、町水道にして、一応配管をもう全部やり直したりとか。</p> <p>・それより前のポンプアップする技術ができる前の水道施設とかは、どうなっていましたか？ 何件か井戸掘っておりますね。大体川の周辺に集落が立つんですが、それとあとは農地と開墾されて、便利のいいところに移って。水と兼ね合いを確保できるようになれば、やっぱ住みやすいところに集落ができる。それまではちょっと川の近く、やっぱ墓の跡がやっぱ川の近くにある。</p> <p>・神社の横にもお墓が集まっていますね。 はい。ここはね割と点々としてるんですよ。集落の一番下のところにも密集してありますし、あと神社の上の方、ちょっと下の道路のところもあって、あと向こう側に何軒かありますし。</p> <p>・今この村って何軒くらいあるんですか？ 一応ね、今 40 軒くらいかな。昔は 46 件くらいあったんだけど。</p> <p>・車が多いですね 一人 1 台くらいは持っています。</p> <p>・買い物はどこにいきますか？ 根雨か溝口、勤め先が米子の人は米子で買い物する。昔はねあそこ公民館の前の方に、農協の支所っていうのがあって、そこで買い物した。それと今は、車で販売に来るシステムがある。なかなか出れないお年寄りの人がそういうのを利用したりとか、今あれは地域の見守りと一緒にやってみたくて、お年寄りにそれでどうですかって声かけて、とか多分定期的に買い物ついでに挨拶しながら、様子を見てくる。</p> <p>・大山との関係はどうですか？ 田んぼの水は大山から引いています。耕作者が作った水路がある。</p> <p>・水路の管理などは村で一元的にやっているわけではないのですか？ 村での管理もあるんですよ。二つ。集落内を通る防火用水も兼ねて、生活用水とかね。昔は洗い物とかもしていたやつ。二つだけは集落が管理して、共同で草刈りとか泥上げとかっていう作業を年に二回とかする。あと常に日頃の水の管理。それで、それもだんだんその管理が大変だから今、パイプ管を仕掛けてるんですよ。オープン水路だとゴミが詰まったりしてね。まだ自力できる間は、いろんな補助金とかももらって。</p>	

・補助金が出るんですね。  
こことかは中山間事業っていう補助金が出ますんで、それを活用してます。維持管理が大変なんで、なるべく将来的な考えれば水路、オープンじゃなくて管にしてなるべく点検する箇所を減らすとか。

・割と世帯とかも減少してるんですね。  
どこも一緒だけどその跡継ぎがね。限界集落だんだん増えてくるしね。

・生まれも育ちもこちらですか？  
いや、私は違いますよ。元は東北の生まれです。岩手です。ここの集落の人と結婚して移り住みました。

(吉田彩華)